

The Philatelist Magazine

試験発行 第二号 (2014年春号)



日本 1974 500円通常切手 印刷ずれエラー
世界の中でも管理の厳しい日本切手では、印刷ずれエラーが出回る事は少ない。

The Philatelist Magazine 選べる三つの購読法

- 1) 電子メール版 ~~2,000円/年間~~ => 試験発行期間中は **0円**
- 2) 紙版 (モノクロ) ~~2,000円+印刷費/年間~~ => 試験発行期間中は 1,000円/号 (千別)
- 3) 紙版 (カラー) ~~2,000円+印刷費/年間~~ => 試験発行期間中は 3,000円/号 (千別)

※試験発行は2014年12月15日号迄の予定です。なお、紙版には付録を含みません。

The Philatelist Magazine 試験発行 第2号 目次

郵趣界重大ニュース 2013.12-2014.3 P.4～P.7

これから3ヶ月間の郵趣カレンダー P.8～P.9

2014年度のJPミニボックス決定 P.10

ピックアップイベント 切手市場（高崎真一） P.11

ピックアップイベント 楽しい趣味の切手展（JPS仙台支部） P.12

ピックアップイベント 玉木淳一コレクション（玉木淳一） P.13

ピックアップイベント パナマ運河開通100年記念展（太田隆啓） P.14

ピックアップイベント スタンプショウ＝ヒロシマ2014（大橋武彦） P.15

ピックアップイベント 世界郵趣サミット（吉田敬） P.16～P.18

謎解き郵趣 P.19～P.29

謎解き郵趣 根室ボタ印による旧小判10銭使用例（水村伸行） P.20～P.21

謎解き郵趣 16円切手の国内郵便一枚貼り（須谷伸宏） P.22～P.23

謎解き郵趣 チューリッヒ市外便特別割引料金使用例（吉田敬） P.24～P.25

謎解き郵趣 航行中に料金改訂された船内郵便（伊藤文久） P.26～P.27

謎解き郵趣 次号の謎解き候補をご紹介 P.28～P.29

寄稿記事 P.30～P.63

寄稿記事 国内書状の基本料金史 ～昭和後半期の郵便改革前史～（町屋安男） P.31～P.39

寄稿記事 戦後の郵便史 ～昭和41年7月1日施行の郵便改革～（行徳国宏） P.40～P.47

寄稿記事 和欧文機械印トピックス（第1回）第一期 渋谷の標語無し（水谷行秀） P.48～P.53

寄稿記事 ローラー印収集（2）試行ローラー印のバラエティ（鈴木盛雄） P.54～P.55

寄稿記事 ローラー印収集（3）昭和56/57年彫刻ローラー印（鈴木盛雄） P.56～P.59

寄稿記事 郵趣家便のススメ（第1回）制度 その初日と最終日（水谷行秀） P.60～P.63

文献紹介 金井宏之コレクション 日本手彫切手（高野昇郎） P.64～P.66

文献紹介 アメリカ切手収集の思い出（水村伸行） P.67～P.69

文献紹介 Alfred H. Caspary Collection Asia（水村伸行） P.70～P.71

郵趣活動の記録 P.72～P.89

郵趣活動の記録 MALAYSIA 2014 P.73

郵趣活動の記録 第8回郵便史シンポジウムと航空郵趣展 Aerophilately 2014（和田文明） P.74～P.77

郵趣活動の記録 郵政博物館のグランドオープン P.78～P.80

郵趣活動の記録 テーマチック出品者の会切手展（榎沢祐一） P.81

郵趣活動の記録 東海凱旋展 開催報告（東海郵趣連盟） P.82

郵趣活動の記録 ヨーロッパ切手展実行委員会 P.83

郵趣活動の記録 広島菟郵会（大橋武彦） P.84

郵趣活動の記録 小判振舞処（長田伊玖雄） P.85

郵趣活動の記録 stamp club 2014（スタンプクラブ） P.86

郵趣活動の記録 外国切手出品者の会（重山優） P.87～P.89

The Philatelist Magazine 試験発行 第2号 目次（つづき）

セールの記録 P.90～P.101

セールの記録 オークションレポート ジャパンスタンプオークション（鯛道治） P.91～P.97

セールの記録 オークションレポート等 ピックアップセール P.98～P.101

創刊号アンケート分析 P.102～P.105

※当雑誌では、第2号より表紙を一ページ目としてページの割り付けを行う事にいたしました。
特定記事のみの印刷を行いたい場合は、目次に記載のあるページ数を指定して印刷してください。

当雑誌の刊行趣旨と編集方針（編集人よりご挨拶）

当雑誌は、郵趣雑誌を出したくて始めたのではなく、郵趣文献を出したいから始めたというのが実情です。

では「**優れた郵趣文献（単行本）**」とは何でしょうか？

「オリジナルな研究論文」「海外情報の輸入・啓発」「切手展や収集のノウハウ」・・・

人によってニーズが異なれば定義も異なるのかもしれませんが。

私は「一人でも多くのフィラテリストに刺激、発見そして挑戦心を持たせる本」と定義しました。

では、その実現に向けた課題は何でしょうか？

実は優れた内容の郵趣文献を書く事ができる人は沢山います。

しかし問題は**マーケティング**上にありました。すなわち、仲間内を越えて、その分野を収集していない人にアピールできる機会が少ない為に出版の費用対効果が見えず、実際に書く迄に至っていない事がほとんどなのです。

この課題に対する当社の試みは「**PDFで読む郵趣雑誌**」を発行する事でそれは次の様な効果が得られる為です。

1. 用紙、印刷、製本、発送、倉庫**コスト**の極小化
2. 印刷・製本・発送に要する**タイムラグ**の削減
3. 原則**カラー**化
4. **無制限のページ数**が実現する掲載記事ジャンルの拡大

この効果の恩恵をうけると、

「**ページ数の制限のない安価な郵趣雑誌**」の刊行が可能になり、それを通じて、（1）**幅広いジャンルの郵趣記事の掲載**と（2）**安価であるために幅広い読者の獲得**が実現できるのではないかと仮定しました。

ページ数が無限なので当雑誌の二本柱は次の通りです。

1. その時々のフィラテリストの活動を支援する内容（ピックアップイベントや郵趣活動の記録など）
2. 寄稿記事など

寄稿記事の掲載基準は、郵趣記事としてフィラテリストに刺激を与えることができるかということです。
既存の郵趣雑誌で掲載を断られた収集家の少ない分野であっても歓迎いたします。

反響のあった寄稿記事を中心に、**一冊でも多くの単行本**を出版していきたいと考えていますし、ハードルを下げる為にも、**単行本の少部数出版を可能にするインフラ**を整備していきたいと考えています。

結論となりますが、当雑誌の刊行趣旨と編集方針は「**優れた郵趣文献を世の中に生み出す為の郵趣雑誌**」の立場を担える媒体になる事です。どうぞよろしくお願いいたします。

吉田敬

昔の郵趣雑誌で流行っていた重大ニュースを毎号独断でまとめています。

重大ニュースの選定については、ニュース原案を、約30名ほどの郵趣家の友人に送り、漏れがないか補足をお願いしています。今回は約半数の方より、追加ニュース案やコメントをいただく事ができ、それを補充した内容でご紹介しています。

「こういうニュースものは、選んだ人の偏りがあった方が面白いよ!」というアドバイスも頂きました。しかし独断になりすぎるのも考えもの。当面の間は、重大ニュースアドバイザーの皆様にご協力をお願いしたい次第です。口出ししたい方は是非、重大ニュースアドバイザーにご応募ください。
(tpm@stampedia.net 宛てにご連絡ください。)

1 郵政博物館の開館

3月1日に郵政博物館が開館しました。
詳細につきましては78ページをご覧ください。

2 stamp club、今年も発行

年一刊行のジュニア向け郵趣雑誌である、スタンプクラブは、今年も stamp club 2014 をフリーペーパーとして発行し、3月3日より無料配布を開始いたしました。
詳細につきましては86ページをご覧ください。

3 月刊「郵趣」誌が大幅に紙面を刷新

日本郵趣協会の機関誌「郵趣」がビジュアル化宣言のかけ声のもと、紙面構成を大幅に変更しました。

カラーページの分量が増えたわけではないのですが、最大の変化は「世界新切手ニュース」の図版ページと解説ページがこれまで同一ページにあったものを分離し、オールカラーの図版ページとモノクロの解説ページに分けた点にあります。

図版ページの面積が二倍に増えたことにより、掲載できる切手の点数と大きさに余裕ができ、資料的価値も上がるすばらしい刷新だと思います。

4 切手市場 浅草最終回を迎える

4月から一年を通して日本橋での開催に変わる切手市場が3月1日に浅草での最後の開催を行いました。4月以降の予定は11ページをご覧ください。

5 FDCメーカーの廃業相次ぐ

たんぶるぼすと38巻1号(2013/12/15発行)によると、初日カバーの版元の松屋が、2013年最後の切手である、12/13発行のふるさと切手・地方自治60周年シリーズ 鹿児島県 限りで、初日カバーの制作を中止しました。

同版元は、1950/9/13の文化人切手 市川団十郎から制作を開始していました。

なお、別の初日カバーの版元である銀座・渡辺版も2012/7/23発行のふみの日限りで、制作を中止しているため、現在残る初日カバーの版元は、鳴美とJPSの二社だけとなりました。



松屋版初日カバー 1972年用年賀切手

6 北陸郵趣 水村氏が編集担当を終了

月刊郵趣誌である北陸郵趣の編集人であった、水村伸行氏が、3月1日発行の第733号をもって編集担当から外れる事になりました。

同氏は、2005年11月から編集人となり、8年以上に渡り編集活動を通じて北陸郵趣連盟を支えてきました。今回の件は本人の希望によるもので、今後は自分の郵趣活動や購読する郵趣誌への投稿に時間を作りたいとのこと。



なお、当誌では今号より毎月、水村氏による文献紹介が始まります。ご期待ください。

7 2013年の切手発行が終了

2013年に発行された切手の内、普通切手、フレーム切手、年賀小型シートを除く切手について数えたところ合計で、51件432種となりました。

- ・ 記念切手 27件206種
- ・ グリーティング切手 6件105種
- ・ ふるさと切手 18件121種

すべて単片で買うと31,556円となりますが、シート切手はシート単位で収集しないと変な形になってしまいますので、実際にはもっとかかることになります。

ちなみに2012年の切手を同様の計算で集計すると、44件384種 28,346円でした。



実は嫌いじゃない城シリーズ 沼津→ドイツ

8 販売終了となる普通切手等が発表

2014/4/1の郵便料金変更に伴い、11額面の通常切手と慶弔切手及び50円葉書と60円郵便書簡が販売終了となる事がアナウンスされました。

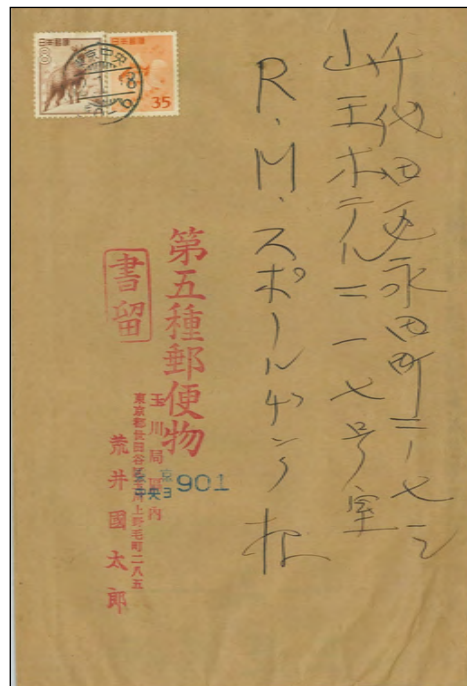
過去にも2002/9/30に一挙に30種類の切手が販売終了された事があります。(2, 4, 9, 15, 18, 40, 60, 190, 210, 250, 260, 300, 310, 360, 390, 400, 410, 430, 600, 700, 1000, 慶弔用 50, 80, 90)

9 ISJP創設者 R.M.スポールディング氏亡くなる

海外に於ける日本切手研究サークルである、ISJP (International Society for Japanese Philately, Inc.) の創設者である、ロバート スポールディング氏

が、2013/12/7になくなりました。(享年90歳)

終戦後日本に滞在していた同氏は日本の収集界をリードし、研究成果を世界に広くPRする為、ISJPを設立しました。



10 日本郵趣連合正式発足と全日展2014開催の決定

2014/1/25に日本郵趣連合が発足し、会長に正田幸弘氏を選出しました。

また、8/1-3にかけて、東京都墨田区で全日本切手展2014を開催する事も発表されました。

※ 訂正：先月の郵趣重大ニュース17番で日本郵趣連合が立ち上がった旨報道しましたが、正式にはまだ準備期間でした。訂正いたします。

11 新しい通常切手（2014年シリーズ）の発行

4月1日の郵便料金改正を前に、3月3日に新料金に対応した通常切手11種類とステーションナリー9種類が発行されました。

この中でも2円うさぎ切手については図案のかわいらしさがTwitterで話題になり、一般人に切手を意識させる契機となりました。



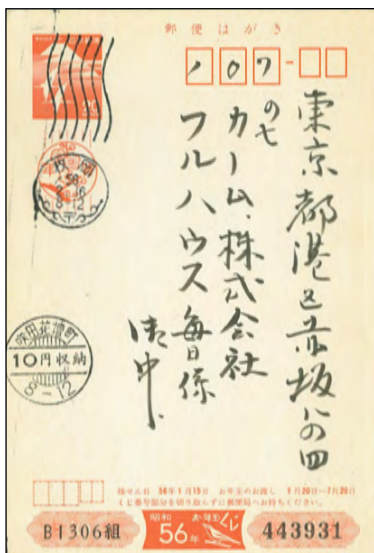
ところで、通常切手の事を「現行切手」という呼称で呼び続ける事に私は違和感を感じています。というのは同時代を生きた人によって現行切手の「定義」は変わるため、共通して使用すべき用語としては適さないと考えるからです。

愛称をつけるのは構わないと思いますが、世界のフィラテリーの流れに従えば、2014年シリーズという名前をまずはつけて、誰が考えても同じシリーズをイメージできるようにしたいと思います。ということで、ページの余白の許す限り、2014年シリーズの初期使用例を御紹介したいと思います。3月31日迄なら作れる物も多いと思いますので参考になさってください。

12 収納印の不使用が決定

これまで郵便料金改訂の際には毎回使用されてきた「料金収納印」が、2014/4/1の郵便料金改正では使用されないことを現行切手例会に出席して確認致しました。

料金改訂のかなり前から新料金に対応する郵便切手を発行し用意している事を理由としており、長い歴史のある料金収納印も前回をもって終わりという事になる可能性が大きいです。

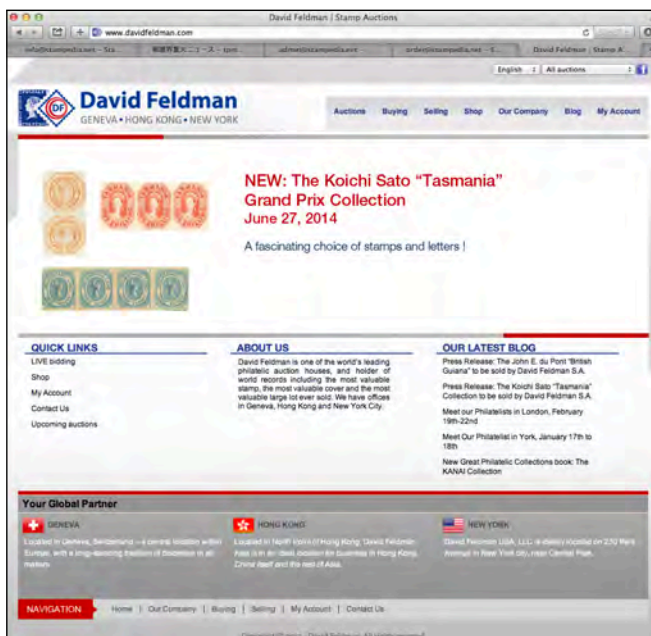


13 日本人のネームセールが6月に開催！

ネームセールというのは、国際展でグランプリ等を獲得した切手コレクションのオークション式販売の時に用いられる手法です。

ただ単に切手の名称だけで販売するよりも、出品者の名前付きでカタログを作成した方が、当該コレクションに入っていた目玉アイテムを収集家が思い起しやすい事もあり、世界的に著名なコレクションはこの手法が取られる事が多々あります。

国際的オークションハウス David Feldman（スイス、ジュネーブ）が発表したところによると、2014年6月27日に二つの国際的コレクションのセールが行われ、内一つが佐藤浩一氏のタスマニアだとのことです。（もう一つは英領ギアナ）



David Feldman トップページ

世界的に人気なグランプリコレクションを持つ日本人は限られているため、これまでにネームセールを開催できた日本人フィラテリストは、金井宏之、石原良並、水原明窓などごく少数のコレクターにとどまるのが現状です。

もちろんネームセールの開催自体はフィラテリストにとって何ら目標になるものではありませんが、そのコレクションの評価の基準としてはこれ以上ないほど分かりやすい高い評価ですので、今回重大ニュースに選ばせて頂きました。

日本通常切手2014年シリーズ 初期使用例

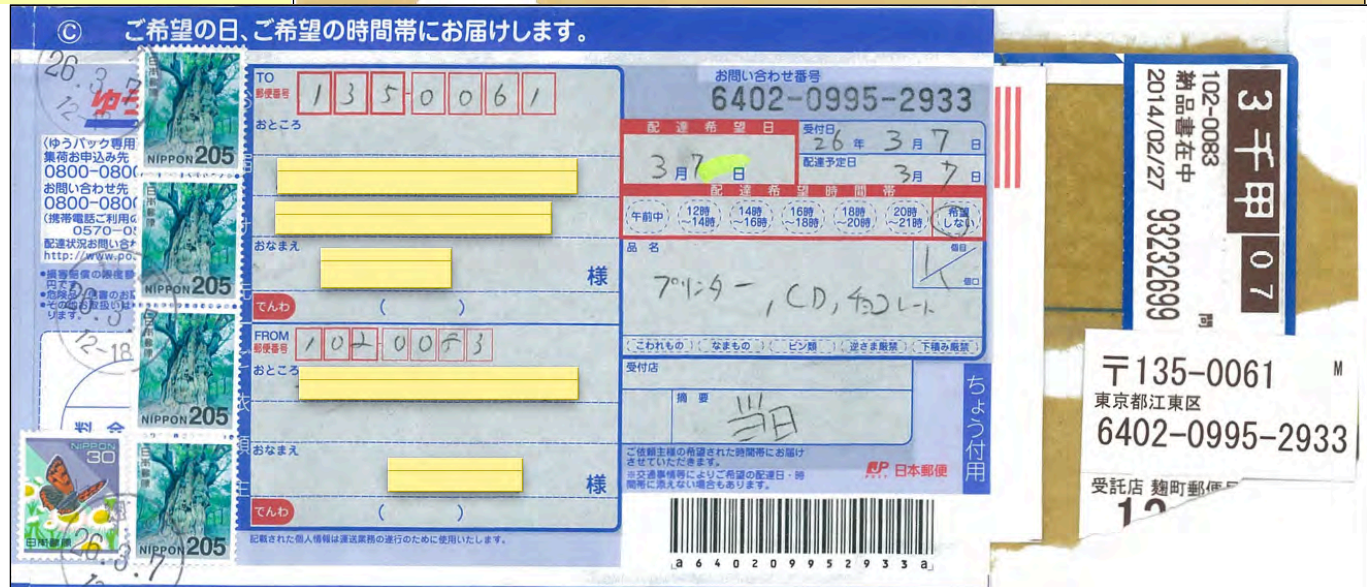


(←) 新310円切手 5日目使用
 定形外速達
 銀座 → 芝 H26.3.7到着
 390 = 定形外50g迄 120 + 速達 270

(↓) 新280円切手 初日午後使用
 配達時間帯指定郵便
 東京・海事ビル内 H26.3.3 → 北本
 560 = 定形外250g迄 240
 + 配達時間帯指定250g迄 320



(↓)新205円5日目使用
 当日配達ゆうパック
 麹町H26.3.7→江東区
 850 = ゆうパック都
 内100サイズ 1000
 - 持込割引 100
 - 同一宛先割引 50



これから3ヶ月間の郵趣カレンダー

競争切手展

4/1-8 MALAYSIA2014 (アジア国際展と国際展) 出品受付期間 P.73にて詳細を紹介しています
近日(予定) PHILAKOREA2014 展示作品決定
近日(予定) 全日本切手展2014 出品要項発表

一般切手展

※会場は特記なければ切手の博物館(目白)で開催時間は10:30-17:00となります。

3/14-16 第6回聴覚障害者切手クラブ切手展

当誌1号P.16にて詳細を紹介しています。

3/16 第2回東海郵趣連盟切手展

名古屋中郵便局二階「もうやいプラザ」
10:00-16:00

3/22-23 第16回ドイツ切手展 Germania2014

3/29 第34回中島健蔵・水原明窓記念賞 受賞記念切手展・記念講演

昨年秋のブラジル国際展で、日本人初のテーマティク大金賞を受賞された大沼幸雄氏が、このほど、日本の郵趣協会からも表彰されることになりました。展示と共に記念講演が予定されており、テーマティクコレクターのみならず注目のイベントです。

3/29-30 (土日) 関西スタンプショウ2014

OMMビル二階F2展示室(最寄駅:天満橋駅)
29日 10:00-17:00 30日 10:00-16:00
毎日先着80名様に日本切手カタログをプレゼント。度会一裕等有名切手商も出店予定。

4/15-19 (火~土) JPS仙台支部主催切手展「楽しい趣味の切手展」

P.12にて詳細を紹介しています。

グリーンプラザ・アクアホール(仙台市青葉区一番町三丁目7番1号 東北電力ビル)
10:00-18:00(但し最終日は16:00まで)

4/18-20 玉木淳一コレクション展

P.13にて詳細を紹介しています。

4/25-27 (金土日) スタンプショウ2014

都立産業貿易センター浜松町館4,5階
10:00-17:00(最終日のみ16:00閉場)
※第15回トピカル切手展および第3回フリースタイル・ワンフレーム展が併催されます。

5/1-6(木金土日火)パナマ運河開通100年記念展
P.14にて詳細を紹介しています。

5/9-11 第12回絵画切手部会展

5/10-11 スタンプショウ=ヒロシマ2014

P.15にて詳細を紹介しています。
広島県立産業会館・西館1階 第3展示場
5/10 10:00-17:00, 5/11 9:00-16:00

5/23-24 第12回天野安治・魚木五夫郵趣展

5/30-6/1 草加郵趣会切手展

6/6-8 第29回昆虫切手展

6/16-22 スタンプショウ静岡2014

静岡中央郵便局 1階お客様ロビー

9:00-18:00(但し最終日は12:00まで)

企画展示はワールドカップ・ブラジル大会記念「サッカー切手」

6/21-22 2014イギリス切手部会展

6/28-29 登録審査員による切手展2014

切手のフリーマーケット、即売会

3/20-23 (木-日) 第27回JSDA切手まつり

東京交通会館12Fダイヤモンドホール(有楽町)
20日 12:30-18:00 21日 10:00-18:00
22日 10:00-18:00 23日 10:00-16:00

4/5 (土) 第109回 切手市場

日本橋富沢町・綿商会館 9:30-

4/5-6 (土日) 第66回 切手バザール

切手の博物館(目白)

5/3 (土) 第110回 切手市場

日本橋富沢町・綿商会館 9:30-

5/17-18 (土日) 第67回 切手バザール

切手の博物館(目白)

5/31-6/1 (土日) 第41回大阪駅前第三ビルバザール

大阪駅前第三ビル17階 10:00-18:00

6/7 (土) 第111回 切手市場

日本橋富沢町・綿商会館 9:30-

博物館の特別展示・企画展示

落谷虹児 展 郵政博物館 3/1-5/25

あこがれの宇宙 展 切手の博物館 4/2-6/29

国内のフロアオークション

3/16 タカハシ・スタンプ・オークション
4/20 タカハシ・スタンプ・オークション
4/26 第492回 JPSオークション
5/18 タカハシ・スタンプ・オークション
5/31-6/1 第82回ジャパンスタンプオークション
6/14 第27回 スターオークション
6/15 タカハシ・スタンプ・オークション

オススメ海外オークション

3/25-29 Heinrich Koehler (ドイツ)
4/26 Postiljonen Treasure Hunt (スウェーデン)
5/21-24 Corinphila Auction (スイス)
5/26-28 David Feldman Spring Geneva Auction (スイス)
6/2-6 第28回 Christoph Gaertner Auction (ドイツ)
6/26-28 第149回 Felzmann Auction(ドイツ)※日本のお宝切手第3回セール予定
6/27 David Feldman Specialized Auction (スイス) ※グランプリコレクション「英領ギアナ」「タスマニア」二点の特別セール

郵趣カレンダーおよびピックアップイベントへの掲載をご希望の方へ

The Philatelist Magazine では、郵趣を活性化させるイベントを開催・運営される方を宣伝の観点からお助けします。

地方郵趣会の切手展であっても、展示物に自信があるイベントを主催されていらっしゃる方、是非ピックアップイベントに掲載してみませんか。展示作品、フレーム数、出品者名等を明記の上、tpm@stampedia.net までご連絡ください。

切手展以外のイベントの宣伝もまずは電子メールでご相談ください。

なお切手団体の会合は除いています。予定の変更、記載のミスはありますので、実際には、ネット等で確認の上お出かけください。

新しい日本切手の発行等

3/24(月)ステーションナリー

360円レターバックライト

510円レターバックプラス

※但し旧料金のレターバックライト、レターバックプラスの各局の在庫が無くなってから販売するとされている。

3/31 普通切手等の販売の終了

70円、80円、90円、110円、130円、160円、200円、270円、300円、350円、420円、慶事50円、慶事80円、慶事90円、弔事50円、60円郵便書簡、50円葉書

4/1 内国郵便料金の変更

※当誌1号(2013/12/15発行) P.9をご覧ください。

4/1(火)宝塚歌劇公園100周年

82円*10 (1シート10枚)

4/1(火)フレーム切手

52円、82円各種

※日本郵便(株)のプレスリリースでは、4/1以降、順次発送するとされている。(受付は3/10より開始)

4/2(水)経済協力開発機構加盟50周年

82円*2種類 (1シート10枚)

4/3(木)おもてなしの花シリーズ 第1集

52円*4種類 (1シート20枚)

82円*4種類 (1シート20枚)

4/17(木)ふるさと切手 地方自治施行60周年記念シリーズ(愛媛県)

82円*5種類 (1シート5枚)

4/18(金)切手趣味週間

82円*4種類 (1シート10枚)

5/1(木)日本の山岳シリーズ 第4集

82円*10種類 (1シート10枚)

5/12(月)FIFAワールドカップブラジル2014

小型シート (82円*3) * 3種類

5/14(水)ふるさと切手 地方自治施行60周年記念シリーズ(山形県)

5/15(木)自然と共生シリーズ 第4集

5/23(金)グリーティング (キャラクター)

5/30(金)ふるさと切手 国土緑化

6/3(火)海外の世界遺産シリーズ 第3集

6/4(木)野菜とくだものシリーズ 第2集

6/19(木)ふるさと切手 地方自治施行60周年記念シリーズ(三重県)

6/23(木)夏のグリーティング

6/26(木)世界遺産シリーズ 第7集

2月28日に、日本郵趣協会のホームページに、2014年4月から2015年3月に開催される、ミニペックスの一覧が掲載され、24のミニペックスが紹介されました。

会員の郵趣家に少額でリーフの展示に適した展示スペースを貸与し、自発的なミニ切手展を自然発生させる日本郵趣協会さんのこの活動は、郵趣の振興にとって、たいへん重要な役割を果たしておられると思います。

私も、昨年に続きヨーロッパ切手展を開催させて頂きますが、この展覧会とて、ミニペックス公募の仕組みがなければできなかったイベントだと思います。

近年の試みとして、個展が徐々に増えてきています。個展を開催する場合の最大の懸念点は、飽き

させずに40フレームを埋められるだけのコレクションを持つ収集家はそうはいないということです。この点で今年新たに挑戦される玉木さんの個展には私も期待しております。

また、絵画、昆虫、鉄道、音楽、植物といった図案別のJPSの部会の展覧会が多いのも今年の特徴です。これらの部会からはテーマチック作品で国際展を闘っているフィラテリストもうまれていますので、ひょっとしたらそういった作品も見ることが出来るのではないかと今から期待しています。

いずれにしましても、ミニペックスを毎年開催してくださる郵趣協会には本当に感謝しかありません。事務局の皆様おつかれさまでした。

展覧会名称	会期	主催者
世界切手展金賞受賞記念 玉木淳一コレクション展	4月18日(金)～20日(日)	玉木淳一 副理事長
パナマ運河開通100年記念展	5月1日(木)～6日(火祝)	太田隆啓氏
第12回絵画切手部会展	5月9日(金)～11日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 絵画切手部会
第12回天野安治・魚木五夫郵趣展	5月23日(金)～24日(土)	天野安治氏・魚木五夫氏
草加郵趣会切手展	5月30日(金)～6/1(日)	JPS草加郵趣会
第29回昆虫切手展	6月6日(金)～8日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 昆虫切手部会
2014イギリス切手部会展	6月21日(土)～22日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 イギリス切手部会
登録審査員による切手展2014	6月28日(土)～29日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 エキスパート委員会
アメリカ切手展2014 america'14	7月9日(水)～13日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 アメリカ切手部会
JPS航空部会創立20周年記念・航空郵趣の世界展	9月26日(金)～28日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 航空部会
第2回ヨーロッパ切手展	10月10日(金)～11日(土)	ヨーロッパ切手展実行委員会
鉄道記念日記念鉄道切手展 RAILPEX2014	10月14日(火)～18日(土)	公益財団法人日本郵趣協会 鉄道切手部会
第11回震災切手と震災郵趣展	10月24日(金)～26日(日)	震災切手研究会
リヒャルトシュトラウス生誕150年記念 音楽切手展	11月15日(土)～16日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 音楽切手部会
第5回世界の植物切手展	11月20日(木)～22日(土)	公益財団法人日本郵趣協会 植物切手部会
第10回変わり種切手展	11月28日(金)～30日(日)	変わり種郵趣グループ
第10回中国郵票展	1月24日(土)～25日(日)	福井和雄理事長
第6回テーマチック出品者の会切手展	1月30日(金)～2/1日(日)	テーマチック出品者の会
JPS三鷹支部切手展／方寸展2015	2月6日(金)～8日(日)	JPS三鷹支部／JPS方寸会(杉並支部)
パソコン郵趣部会展2015	2月13日(金)～14日(土)	公益財団法人日本郵趣協会 パソコン郵趣部会
菊田沢MINIPEX2015	2月20日(金)～22日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 菊・田沢切手部会
アマオオイ王国の郵便展	2月28日(土)～3/1(日)	エハガキ華(梶原華子氏)
第6回世界の郵趣展	3月20日(金)～22日(日)	クラシックフィラテリー研究会
第7回聴覚障害者切手クラブ切手展	3月27日(金)～29日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 聴覚障害者切手クラブ

皆様こんにちは。今回は設立に至るまでの経緯や出店ショップ様のご紹介をさせていただきましたが、今回は今年4月からの開催予定や今後の見通しをご説明させていただきます。

この春に年刊で第2号を発行されたジュニア向け切手のフリーペーパー stamp club 誌との連動企画に始まり、今年はジュニア収集層の「切手を楽しむイベント」としての受け入れに向け開催意義の見直し等を図ってきました。発行元のスタンペディア社さんでは3月オープンの新博物館内(株)鳴美ショップでの配布をスタートに1年かけて全国展開されます。その配布部数と配布対象を勘案するとジュニア・家族連れ・本格的な切手に興味を持ち始めた層など切手市場にマッチングさせていきたい新規メンバーさんが毎月お越しになる可能性が高まっています。

ここに入場無料で個人情報登録等必要のない純粋に切手を楽しむ時間が流れる空間をより良くするために

- ①日本橋富沢町会場への移転
- ②ホームページの整備
- ③当誌TPMとstamp clubへの積極的な記事執筆を早速この春より開始しています。

①～③全て発想の起点は別のところにあたりもしますが、せっかくの機会に全てジュニア向け企画に転換させて良い効果が生み出されればと思った次第で決して結果を求めた事業ではなく存在意義と永劫継続のモチベーションを高める変化になればと考えております。

移転先につきまして詳しく説明致しますと綿商会館は以前切手市場で一時期利用させていただいたことのある会場で、当時よりサービス向上が図られ会場使用料の見直し、年間予約へのある程度の対応など運営事業者様からは格段の考慮をいただいています。また民間施設ならではの机・椅子の配列サービスも切手市場運営メンバーの負担を軽減してくれ大きなメリットとなっています。

浅草が工事で休館はあくまできっかけで近々考えなければならない状況で良い会場を見つけることが出来ました。

半年程度は移転のデメリットや違和感、不都合も生まれると思いますが継続によってプラス転向は充分望める交通の便の良さ、部屋の清潔さ等が保障されています。当誌ご愛読の皆様には是非ご理解いただきたく、また stamp club 経由のメンバーさんには格段の暖かい質問へのアドバイスなどご協力賜りたくお願いする次第です。

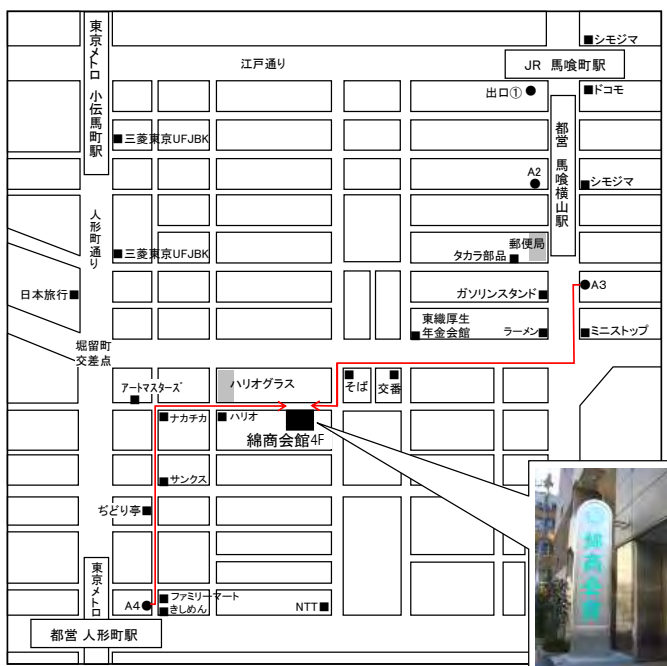
毎月1回 第1土曜日に開催の切手市場は

第109回 4/5(土)

第110回 5/3(土)

第111回 6/7(土)

が近々の開催日です。各回とも日本橋富沢町・綿商会館(地図参照)で9:30より開催いたします。



注目の出店者

第109回 静岡のsumi&ダミーさん

外国切手の若干の難有り品やミニコレクションをカタログ値無視の激安販売してくれます。

今年新しく登録の新メンバー 城北クラブさん

ベテランコレクターが自身のコレクションを処分中です。

HP <http://kitteichiba.babyblue.jp/>

問い合わせ先 kitteichiba@mail.goo.ne.jp



開催概要

期間: 平成26年4月15日(火)～4月19日(土)
 時間: 午前10時-午後6時(最終日のみ午後4時終了)
 場所: グリーンプラザ・アクアホール (仙台市青葉区一番町三丁目7番1号 東北電力ビル1階)
 展示フレーム数: 約40 (1フレームは9リーフ)

展示会場での作品解説は、スケジュール的には決めておりませんが、当日の会場当番として出品者本人が在席していれば、参観者からの要望に合わせてその都度、実施しています。

勿論、一般的な質問などについては随時、お答えしておりますし、不明な点は、後日、改めてお答えするように努めております。



注目の展示 (抜粋)

- ①「ノーベル賞の科学者たち」(佐藤 英幸)
 当該作品はJAPEX2013で銅賞を受賞したものです。展示用リーフの作成仕上がりがとても綺麗です。
- ②「絵入り封筒の変遷」(中澤 正夫)
 明治、大正、昭和(戦前)までの各時代に使用された様々な華麗な絵入り封筒がオンパレード的に展開します。
- ③「印影にみる富士山」(白鳥 友治)
 風景印、小型印、黒活印などの各種消印にみられる富士山に関連した沢山の印影がみられます。
- ④「戦前の初飛行カバー」(小関 幸生)
 今となっては大変貴重な戦前の初飛行カバーが並びますので、とても参考になることと思います。
- ⑤「戦争と郵便」(斎 享)
 戦時中に使用された各種の郵便使用例などを通じて、当時の郵便事情等を取りまとめたものです。
- ⑥「大正時代のローラー消印」(斎 享)
 当該作品はJAPEX2013で大銀賞を受賞したものがベースです。大変貴重なエンタニア等にもごたえがあります。

展示者は昨年のThailand2013でFIP国際展の金賞を獲得した。国際展上位入賞者（Gold以上）の個展はまだまだ珍しい。これを契機により頻繁な開催を望みたい。

開催概要

場所：切手の博物館 3階スペース1・2

会期：4月18日（金）～20（日）

10：30～17：00

※18・19日に豊島郵便局臨時出張所開設、小型印使用予定、記念カバーの販売を予定。

展示作品

- 日本軍事郵便史 1894-1921

※タイランド2013金賞受賞作品。国内展では発表していないマテリアルも展示いたします。

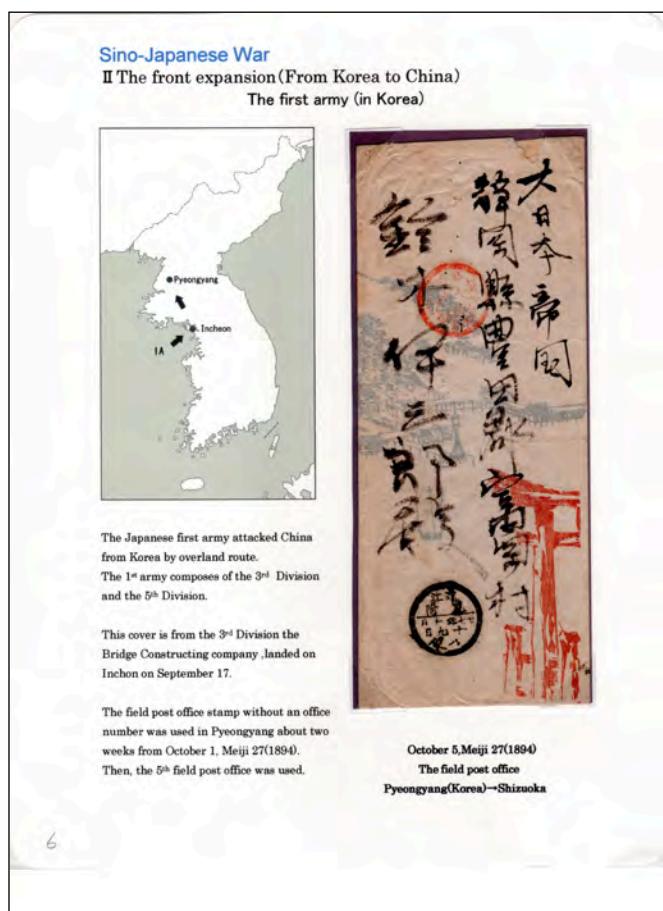
- 三日月型試行印実通使用例

※71局中70局(和歌山を除く)の実通便を展示。

- 宝塚歌劇100周年記念 タカラジェンヌの手紙
※歌劇団生徒が差出したお礼状を学年順に展示。



三日月型試行印実通使用例より



日本軍事郵便史 1894-1921より



宝塚歌劇100周年記念 タカラジェンヌの手紙より

今年2014年は、パナマ運河が公式に開通して丁度100年目の年です。

パナマ運河に興味を持ち、パナマ運河地帯(Canal Zone)切手を収集しており、この100周年目の今年、記念の展示会を計画しております。日本との繋がりを展示に活かせればと考えています。大型連休の真っ只中ですが、是非ご参観下さい。

切手展概要

会期：2014年5月1日(木)～6日(火、休)

ただし、5日は休館

時間：10.30-17.00

会場：切手の博物館3F（東京、目白）

※5/2(金),3(土)の2日間、小型印を使用します。

主催：太田隆啓（パナマ運河地帯切手同好会）

協力：魚木五夫、JPSアメリカ切手部会

展示作品

- 郵趣で綴るパナマ運河建設物語
- パナマ運河建設の公式記録写真展
- パナマ運河を描いた切手の展示
- パナマ運河開通記念切手の展示
- パナマ運河から日本への便り
- 運河地帯切手の登場場所を尋ねて
- 運河建設に携わった若き日本人技師「青山 土」
- パナマ運河の絵葉書の展示
- 現在のパナマ運河の写真
- パナマ運河関係の資料、書籍等の展示

10年前の2004年にCanal Zone切手発行100年を記念した「パナマ運河地帯切手展」を主催しました。その折には、魚木先生と故山口廣次さん(元JPS顧問、駐パナマ大使、東宮侍従長)と三人で行いました。

今回は、パナマ運河の公式記録写真、絵葉書、地図、各種パンフレットなどでグラフィカルな展示

とします。後半を郵趣材料の展示とします。そこで敢えて切手展ともしませんでした。

右は、記念小型印の申請原図です。

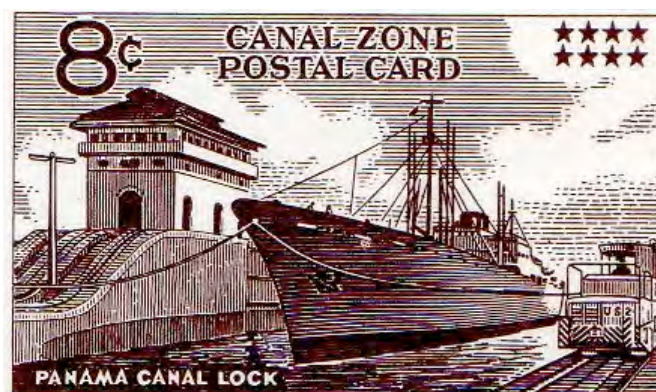
会場での小型印の押印は、5/2,3の二日間を予定しています。



F.D.ルーズベルト大統領の発案といわれる開通25年記念切手
～最難関工事の堀削工事～



同 ～完成後のパナマ運河～



パナマ運河で活躍する日本製牽引車（葉書の印面）

スタンプショウ=ヒロシマ2014は、31回目を迎える、広島県で開催される切手展です。名称からは地方展のイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、東京で開催される全国展を除けば、最もハイレベルな切手展であると共に、西日本最大の切手展でもあります。

全国切手展だけでなく、国際切手展での上位入賞作品も展示され、出品者による作品解説は見どころのひとつです。

また、この切手展の重要性は、この二日間に全国から広島に集まる収集家や切手商の数にも表われています。記念パーティーは日本中の郵趣家の社交の場としても是非ご活用頂きたいと思います。

開催概要

日時 2014年5月10日(土) 10:00-17:00

2014年5月11日(日) 09:00-16:00

会場 広島県立産業会館・西館1階 第3展示場

広島市南区比治山本町16-31

TEL: 082-253-8111

主催 <スタンプショウ=ヒロシマ>組織委員会
公財) 日本郵趣協会 中国・四国地方本部

展示予定作品 (展示総数: 80フレーム)

「富士山」(3) 長田伊玖雄

「英国初期凹版印刷切手」(3) 畠山茂樹

「オランダ領東インド1864-1922」(8) 榎原晃二

「香港の歴史」(5) 内藤陽介

「欧文機械印」(5) 吉田敬

「第1次国立公園1936~1941」(8) 池田駿介

「第1次動植物国宝」(3) 永吉秀夫

「英米史における陸上の事故郵便」(1) 井上和幸

「世界の電波塔・テレビ塔を中心として」(4)

三浦正悦

「相撲の歴史」(5) 須谷伸宏

「東京オリンピック」(5) 犬飼英明

「日本の染め・織り」(2) 今井節子

「19世紀末20世紀初頭 日本発世界へ」(4)

天野安治

「小判切手時代の二重丸印」(5)

村岡博

地元郵趣家のワンフレーム作品(10)

全国の有名切手商が出店します。

ジャパン・スタンプ商会(大阪、2ブース)

パインスタンプ(福岡)

アオヤマスタンプ(広島)

(有) アベノスタンプ・コイン社(大阪)

日本郵便趣味協会(東京)

エーススタンプ(東京)

紺野重則(Y&S Philatelic)(埼玉)

記念パーティーのご案内

日時 5月10日(土) 18:00開始

場所 KKRホテル広島

(広島市中区東白島町)

会費 6,000円

問合せ・申込先: 大橋武彦

TEL: 0823-33-5688

E-mail: ohashi.t@do.enjoy.ne.jp

なお、記念パーティとKKRホテル
宿泊セット(13,000円)のお申し
込みも承ります。



正式名称：MALMO 3rd INTERNATIONAL
PHILATELIC SUMMIT

日程：2014年4月25-27日

場所：Hotel Savoy, Malmo

仰々しい名前ですが、こういうのは言ったもん勝ちですね。このイベントはスウェーデンのヘルストローム氏が開催する、国際切手展出品者を対象にした講演会兼勉強会です。

同氏は、テーマティックのフィラテリストとして有名ですが、同時に伝統郵趣や郵便史に対しても造詣が深く、過去の当イベントでもテーマティックの色は薄めでした。出席者も国際展の伝統・郵便史クラスの金賞・大金賞獲得者がゴロゴロしており、その点では確かに「世界郵趣サミット」を名乗るだけの事はあるかもしれません。

完全招待制の有料イベントで、過去には、二回
2009年8/21-23日と、2012年4月27-29日開催
されていますが、いずれも100名を越すエントリー
がありました。

開催地がスウェーデンのマルメ市である理由は、
スウェーデンのオークションハウス・Postiljonen
社がメインスポンサーしてきたからなです。同
社は七枚目の「玉六のヨ」を扱ったオークション
でも有名です。



(左図)

2012年4月のセ
ールで105,000
ユーロ

+Commission 20
%で落札された

玉六のヨ

(市田 33番)

今回は新たに英国のSpink社も後援に加わり、三
度目にしてより重要なイベントとして世界からも
認められてきた気がします。

二年前開催の会議では、三日間に渡り、主題を
treatment にしぼり、講演およびその後のディス
カッションがありました。

FIPルールに基づく競争切手展に出品された作品
の審査は、ルールに基づいて行われる事が明示さ
れていますので、競技者(=出品者)は、その理
解が必要ですが、日本でその理解を極めている人
は非常に少ないと思います。

これは高校の野球部が試合をするにあたり、高野
連のルールブックを完全に理解しきらずに試合す
るのと一緒にです。そして時としてそれが致命傷に
なる点と一緒にです。

私は前回の会議に出席して、当会議に集まる、主
にヨーロッパのトップフィラテリスト達は、その
理解にあたり、全ルールの一要素でしかない、
treatmentだけで三日も費やす程勉強している事
が分かりました。

その真剣具合が分かったと共に、競争展を目指す人
ならばルールの理解と向上が不可欠であると改め
て思いました。何故ならこれは競技だからです。

そして、本年の会議においては、三日間に渡り再
び一つのテーマで話が行われ、その主題は、
philatelic material だということです。

なお、私のコレクターとしての本文はゼ
ネラルコレクターです。そして競争展への
参加は、郵趣の様々な楽しみ方の一要素
でしかないと考えています。競争展参加
以外の楽しみ方も同様に私は楽しんでお
り否定する立場ではありません。結論と
して両方の収集方法のどちらが良いかにつ
いては、両方がある程度やった立場か
らするとどちらも良いという感想です。

講演内容

初日 (4/25)

初日のテーマ：“Why philatelic material is in focus and how to focus on philatelic material”

郵趣マテリアルに焦点が合う理由とそのやり方

開会記念講演

Jonas Hällström

どの国際展展示クラスにおいても、展示に使う郵趣マテリアルがコンセプトを構成する事について

The exhibitor's challenge of selecting material relevant to a “concept”

Damian Läge

国際展出品者は、トリートメントの継続および郵趣的インポートランスと主題に関連するインポートランスのバランスをとるために、適切な郵趣マテリアルを選んで展示しなければならないことについて

Experiences from judging

Stephen Schumann

国際展審査員による作品の評価は、展示マテリアルとその説明情報を考慮に入れていることについて

The synopsis is a tool for preparation

Jan Berg

郵趣マテリアルは、インポートランス点に影響しますが、展示で説明される知識の程度による郵趣の観点からの重要性の評価が必要です。

しかし国際展で展示される作品の広汎さを考えれば、審査員がすべての展示作品について詳細な知識を持たない事は明解です。

ルール上認められている、シノプシスの提出は、審査員が、当該分野のより多くの深い情報を、審査開始前までに与える為に有効な手段です。

※同氏の作品“Samoa 1836-1895” も展示予定

二日目 (4/26)

二日目のテーマ：“Defining philatelic material”
郵趣マテリアルの定義

Traditional Philately

Brian Trotter RDP

どの国際展展示においても、郵趣マテリアルは、最大限の関連範囲を扱い得る限り最良な物で校正されるべきこと。伝統郵趣編

Postal History

James Peter Gough RDP

どの国際展展示においても、郵趣マテリアルは、最大限の関連範囲を扱い得る限り最良な物で校正されるべきこと。郵便史編

Thematic Philately

Jari Majander

どの国際展展示においても、郵趣マテリアルは、最大限の関連範囲を扱い得る限り最良な物で校正されるべきこと。テーマティック編

パネルディスカッション

Damian Läge, Stephen Schumann, Jan Berg, Brian Trotter RDP, James Peter Gough RDP and Jari Majander



最終日のテーマ：“Explaining the philatelic material”

郵趣マテリアルの説明

(競争展示において郵趣知識は展示マテリアルで表現します。スタディはマテリアルの適切な分析方法であり、リサーチはマテリアルに関連する事実の表現です。)

Traditional Philately

Lars Peter Svendsen

知識やスタディ、リサーチを示す為に選択し展示した郵趣マテリアルの例。伝統郵趣編。

＊同氏の作品 “The Victoria Stamps of Tasmania” も展示予定。

Postal History

Geoffrey Lewis

知識やスタディ、リサーチを示す為に選択し展示した郵趣マテリアルの例。郵便史編。

＊同氏の作品 “Postal history collections which all contain a variety of worldwide maritime mail from the pre-UPU period” も展示予定

Thematic Philately

Jonas Hällström

知識やスタディ、リサーチを示す為に選択し展示した郵趣マテリアルの例。テーマティク編。

＊同氏の作品 “The History of the Square-rigged Sailing Vessels”, “Maneuver Warfare - Viewed through the Theories about the Nature of War” も展示予定

閉会講演

Damian Läge

James Peter Gough RDP

切手展の未来について

1. 世界郵趣サミット公式出版物「Philatelic Summit Papers」を購入する。



一部の講演は出版物の形態で公開されています。会議に実際参加している私であっても、三日間全て英語ですと聞き逃している部分も多々あります。出版物があればより深い理解をすることができるので全5巻をすべて揃えています。

Vol.1 “The Ever Changing Paradigm of Philatelic Exhibiting” (James Peter Gough)

Vol.2 “Judging Postal History Exhibits of the early Second Period (1875-1914)” (Henrik Mouritsen)

Vol.3 “Thoughts on Treatment” (Christopher G. Harman RDP, FRPSL)

Vol.4 “Optimizing your postal stationery exhibit” (Lars Engelbrecht FRPSL)

Vol.5 “Perspectives on Exhibiting (Generally)” (James Peter Gough RDP, FRPSL)

これらの書籍はスタンペディア郵趣文献ショウアップで取り扱っております。

2. 外国切手出品者の会・勉強会に参加する。

高額な参加費を徴収している事もあり、主催のPostiljonen社は、サミット参加者に毎回全プレゼンテーションを印刷とデータの両方で提供しています。一方で、同社は著作権も主張しているため、紙やWEBへの転載は難しいと考えています。

そこで第二回サミット終了後の2012年5月20日に私の所属する外国切手出品者の会で3時間程の勉強会を開催し、11名の競争展出品者（伝統郵趣、郵便史、テーマティク）に全講演を集約してトレースしてお伝えしました。

第三回サミットに関しても同様のレポートが開催できないか検討中です。

謎解き郵趣

旧小判10銭の書留カバー？

正解。「根室ボタによる使用例」に注目

水村伸行氏收藏品

産業図案16円の単貼りカバー？

正解。但し「現存四点の国内郵便」

須谷伸宏氏收藏品

チューリッヒ4ラッペン単貼り市内便？

正解は「市外便特別割引料金適用例」

吉田敬氏收藏品

ドイツ切手貼りパクボー便？

正解は「航行中に料金改訂された船内郵便」

伊藤文久氏收藏品

※なお、前号にて回答を募集いたしました、藤井堂太氏收藏品の「謎解き郵趣」の答え合わせにつきましては、都合により6月発行の第3号に掲載を延期させていただきます。ご了承ください。

謎解き郵趣へ、ご自身の収集品の掲載をご希望の方向け

「謎解き郵趣」は読者参加型の、郵趣解説記事です。

紹介している郵趣マテリアルは、いずれも一つ前の号で、図版だけ示して、読者の方からネット経由で回答を求めた物で、今回所有者の模範解答と共に一つずつ詳しく読み解いています。

コーナーの最後のページには、回答募集中の郵趣マテリアルの図版を示しました。ネット経由で回答していただくと、次号にてその抜粋を所有者の模範解答と共にご紹介させていただきます。頭の体操のつもりで、ご参加ください。

なお現在、次の号で問題にする郵趣マテリアルを募集中です。一筋縄ではいかない皆さんのひと味変わった郵趣マテリアルの画像をtpm@stampedia.netまでお送りください。

皆さんから頂いた回答を見ていきましょう！

●現存唯一の旧小判10銭の根室ボタ書留カバー。
(?) [奥山昭彦さん]

●二重印の局名が薄くて読めないが、ボタ印の「子」は・・・、ボタ印最難関の根室じゃないですか。それも赤二ではない。オークションに出たら、いくらになるでしょうね。

書留は分かるが、朱字の書き込み、「子十一ノ五銭」に読める部分、何を意味するのでしょうか。
[伊藤文久さん]

●赤二でもかなり少ないですが、旧小判10銭の根室ボタカバーは大珍品ですね。[飯塚博正さん]

●旧小判10銭書留便使用。
使用年が明治20年11月2日口便根室から越前国南条郡河野村あて送付。

希少な「根室」のボタ印の抹消、N3B3の根室の二重丸印が押されている。旧小判10銭は明治10年6月の発行、新小判10銭は明治21年3月の発行で、旧小判10銭としては後期の使用。このカバーの料金は2倍重量便で2銭X2倍、書留料金が6銭で10銭の料金。

このカバーは北前船の関係のカバーと思われる。当時の北海道との関係は北前船の関係が深いからである。[山崎文雄さん]

●消印は、根室・明治20年11月2日口便であることから、封書基本料金は2銭書留料金は6銭であり、内国2倍重量書留便であると思われる。根室ボタ印と旧小判10銭切手との組み合わせに希少性があると思われる。[匿名]

では、所有者の水村伸行さんの回答です。

「まず、本使用例における10銭料金の内訳ですが、朱印が押された書留料金6銭を除いた4銭が封書料金になります。封書料金は、明治16年1月1日～32年3月31日までは、2匁までごとに2銭なので、4銭はその倍額であり4匁までの重量便であったことがわかります。

貼付されている切手は、旧小判切手10銭で用紙は中期白紙であり、目打は8.5を測りますので、旧小判10銭切手の後期としては一般的なものと言えます。

次に日付印データを紹介すると下記になり、**通送には12日間を要した**ことがわかります。

根室 明治20年11月2日口便 (N3B3型)

越前大良 11月14日 (KG型) (裏面に押印)



本使用例には残念なことに、通送経路の解明に重要な役割を果たす中継印が全く見られないことから、筆者が入手し得た郵便線路図の中で最も使用年月に近い、明治19年2月に通信省駅通局が刊行した『大日本帝国駅通区画郵便線路図』を参考に通送経路について下記のように推定しました。

根室→室蘭→(船)→森→函館→(船)→横浜→(船)→四日市→大垣→(鉄道)→長浜→(鉄道)→敦賀→武生→大良

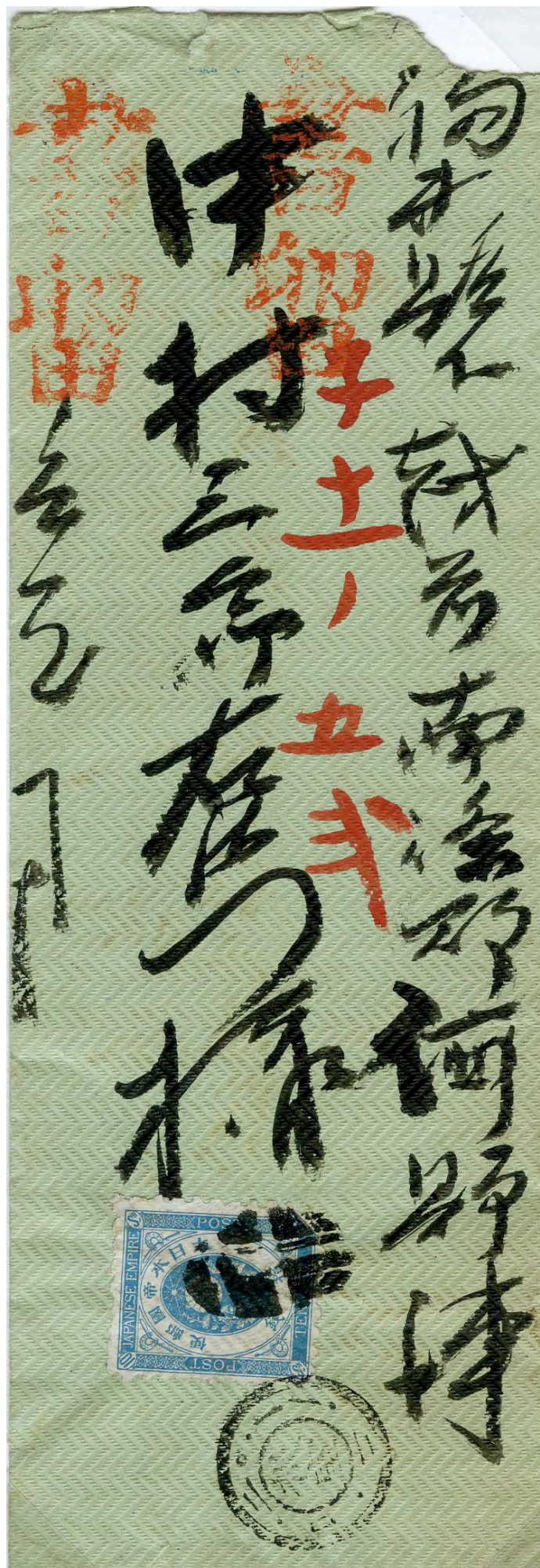
この経路で筆者にとって驚きだったのが、**根室から室蘭までが海岸線に沿った陸路による通送**であったことで、『線路図』で確認するまでは根室・函館間の船便による通送を想定していました。

では、いつから船便による逓送が始まったのかを調べたところ、逓信省編集による『改正郵便線路図』明治21年5月のものでは陸路による逓送が続けられていましたが、明治23年4月の『線路図』では根室・函館間は船便となっていましたので、その間に変更されたもののようです。

また、福井県宛ということなので日本海航路である小樽・敦賀間の船便も考えたのですが、こちらも根室・小樽間の路線は明治21年5月までは未開設が確認でき、明治23年4月の『線路図』で始めて確認できたことから、その間の開設と特定できます。

最後に根室ボタ印による旧小判10銭切手の使用例としての位置付けですが、澤護氏が『フィラテリスト』13巻12月号（1981年）に執筆された「永遠の花形 ボタ印」の中で示された「大型ボタ印と小判切手の対応表」によると、**根室ボタ印が確認されたものに旧小判4・8・10銭、新小判1・2銭の5額面が記録**されています。また、その後に**新小判5銭にも**確認されました。

本表では、切手またはカバーなどの区別がされていないため、そのどちらを記録されたのかが不明である点が残念ではありますが、いずれにせよ本使用例が初見ではないことが確認できます。」



今回の五品の内、もっとも多くのお返（6件）をいただいたマテリアルです。

●印刷物在中のゴム印から、第五種便100g～200gかな。[伊藤文久さん]

●印刷物重量便使用例。16円の使用例は海外宛封書1枚貼りが一般的ですが、国内使用の1枚貼りはかなり少ないと思います。[飯塚博正さん]

●長野博の使用例（産業図案ではなく記念／特殊切手としての使用例）[重山 優さん]

●第5種印刷物8円料金の2倍重量便で16円ですか。切手屋さん発信の後期使用とは言え、私は初めて見ました。

第1種封書8円料金の2倍重量便の方が何通か存在するかと思います。それでもYahooオークションでは2桁万の値段が付いており、こちらの方はいかに？[新谷嘉浩さん]

●16円、産業図案16円切手の単貼りカバー。発行は昭和24年1月で後期使用例。消印は名古屋中央局昭和34年11月5日のローラー印消し。印刷物の表示があることから、100グラム8円（当時の料金）で2倍重量の料金であることがわかる。従って、200グラムまでの印刷物である。[山崎文雄さん]

●昭和34年11月5日の内国印刷物書状の料金は100gごとに8円であることから、200g超300g未満の印刷物書状であると思われる。[匿名]

では、所有者の須谷伸宏さんの回答です。

「正解は、国内郵便 第5種郵便(印刷物など)で100g～200gまでの2倍重量便です。

当時は100gまでが8円ですのでその2倍の16円となります。切手は産業図案の方です。

で、この16円切手は、元々は外国郵便船便封書料金用として昭和24年1月15日に発行されました。しかし同年6月1日に料金が24円となったためほとんど活躍しないままに一旦郵便局で眠っていました。ずっと売れ残ったため、かなり何年もの間、東京中央郵便局の郵趣窓口にも残ったという記録もあります。あと別納使用も多く見られます。

差出が「松屋」。名古屋市に昔からある初日カバーの版元の業者で今も初日カバーを作り続けております。有名な版画の初日カバー屋さんです。切手商が差し出したからこういった使用例が残ったのだと思います。ひょっとしたら名古屋中央郵便局などでもずっと窓口で売れ残ったのかもしれない。これはおそらく顧客に送った商報か初日カバーの商品を送ったのか？ということは他にもまだ発見されるのではという期待もありますが、未見です。

この16円切手の使用例は、第1種郵便が8円の時の2倍重量便は、私見では2～3点ほど。

今回の第5種郵便の2倍重量便もこれを含めて2点しか見ていません。あとの一点は、JAPEX98記念出版のp63に載っている、山梨・身延局 昭和27年4月6日に差出のカバーです。

いずれも一枚貼りは大変少ないのです。でも戦後の切手ですので次なる発見も大いに期待できます。

これに限らずこの16円切手は、国内使用であれば他の切手とのべた貼りでも大変少ないです。。」



調布市
下石原三六一
山石瀬哲男様

印刷物在中

名古屋市中區白川町廿九

切手之美術商 松屋

松屋は切手と絵画の専門店

今回の五品の内、もっとも日本で馴染みの薄いマテリアルでした。回答は3件にとどまりました。

●宛先が読み取れませんでした。[飯塚博正さん]

●スイスの1番切手4ラッペンの単貼りカバー。大変希少なカバーで、数が少ない。消印はチューリッヒのローゼット消しで、朱印で消されている。証示印でチューリッヒの日付印1844年12月27日の二重丸印が押されている。宛先は少々判読できない（画像では）[山崎文雄さん]

●宛先の判読が出来ず、知識もありませんでしたので解析不能でした。[匿名]

では、所有者からの回答です。

「まず、私の收藏品にコメントを下された皆様どうもありがとうございました。画像が小さく、宛先が読み取りずらかった点をお詫び致します。この書状の基本情報（切手、消印）は山崎さんがご説明されている内容で正解です。ただ、この使用例の**みそは郵便料金**にあります。

チューリッヒの**市内便は4ラッペン、市外便は6ラッペン**でした。しかし、この書状の宛先、Neumunster（ニューミュンスター）はチューリッヒ市外なので、この書状は、市外便書状であることが分かります。

にも関わらず、貼られている4ラッペンが適正料金である理由は、**市外便・特別割引料金適用**地域宛ての書状であるためです。



チューリッヒの市内と市外を分ける境界は、1843年には既に取り壊されていた城の囲いの内側の地域なのかどうかという事でした。

もっとも城といってもヨーロッパの城は壁に近い構造物でしたので（チューリッヒのイラストをご参照ください）日本の様に城跡は現在ではほとんど残っていません。ベルリンの壁みたいな物と思ってまちがいないかもしれません。



で、城の内側つまり、1843年当時のチューリッヒ市内の配達はチューリッヒ郵便局が担当していたのですが、そのエリアはさほど広くはなかったため、チューリッヒ州郵政は、配達に余力があったチューリッヒ局に対して、城のすぐ外側の市外エリアも配達を担わせていたのです。

この時に、城のすぐ外側の市外エリアを市内エリアと同一の郵便局員が配達する場合には、市外便特別料金4ラッペンが適用され、一見したところでは、市内便と区別がつかないカバーがうまれることとなりました。

なお、この記事について、より詳細の記事を、郵便史研究の最新号に投稿致しました。（第37号、2014年3月発行予定）

同誌は僕も読み始めたばかりですが、学問として郵便を勉強できる良いテキストだと感じています。The Philatelist Magazine 等の郵趣雑誌と比べても、この郵便史研究が最もアカデミックな雑誌だと思っています。ご関心のある方は是非ご購入頂ければと思います。

なお「郵便史研究」の購読にあたっては、郵便史研究会への入会（年会費3,500円）をお勧めいたします。」

郵便史研究	
第36号	
郵便史研究会紀要	
<論文>	
イギリス草創期の外国飛脚について ——ヨーロッパ大陸との書簡通達の歩み——	星名 定雄 (1)
日中両国の近代化と郵便主権の確立 ——外国郵便局に注目して——	麦力開 色力木 (31)
<特別報告>	
郵政博物館の誕生について	井上 卓朗 (43)
<資料紹介>	
旧刊紹介 (10) 『日通十五年史』	鈴木 克彦 (49)
<研究ノート>	
郵便史研究の奥深さを知る	北川 又二 (54)
<近刊紹介>.....	(56)
2013年度総会・研究発表会の報告.....	(57)
2013. 12	
郵便史研究会	

「郵便史研究」とはこんな表紙の雑誌です。
一号前の第36号（2013年12月発行）

●ドイツ・ハンブルグ発、アルゼンチン・ブエノスアイレス宛、ハンブルグ-南米航路船「Teutonia」号絵葉書。貼付切手はMichel No. 252 (1000マルク)+Michel No. 250 (400マルク) × 2 枚、合計1800マルク。消印はドイツ船内郵便・ハンブルグ-南米航路 (Deutsche Schiffspost / Linie Hamburg Sudafrika)、日付は不鮮明ながらも「18.10-23」、すなわち1923年10月18日と読める。差出人の日付書き込みにも「17.X.23」とあるので、1923年10月に差し出されたことは間違いない。

謎は、日付と郵便料金の関係。

差出日付はインフレ時代の料金体系の期間でいうとPP 20 (1923年10月10日~19日) にあたり、海外宛葉書料金は900万マルク (9 Millionen Mark) でないといけないが、このアイテムの貼付額面である1800マルクは料金体系期間では PP 15 (1923年8月1日~23日) の海外宛葉書料金である。

この不整合を説明できるものとして、次のようなストーリーが考えられます (大胆な推理&創作入りです)。

差出人はTeutonia号の船員であった。当時はドイツ-南米間は片道1ヶ月、往復で2ヶ月はかかったものと思われる。8月頃、差出人は海外の友人宛に葉書をTeutonia号船内郵便局に差し出した (当時の料金: 1800マルク)。Teutonia号の船内郵便局、差出人とも、インフレ時代のめぐるましい料金変更には追いついて行けていなかった。同年10月、差出人は再び葉書をしたため、前回の差出時 (同年8月) と同じ切手を貼って葉書を差し出した。ドイツを2ヶ月間離れていた差出人とTeutonia号の船内郵便局員、その間に母国の郵便料金が5回も改訂されてるとは思いもよらず、葉書は当然の如く受理され、莫大な料金不足は誰にも気付かれることなく、無事配達された。

船内郵便、長距離航路、インフレ時代のめぐるましい料金改訂が関係した珍エンタィアといえる。
[宇根崎博信さん]



●ドイツインフレ時期の南米宛葉書はかなり少ないとは思いますが、それ以上はわかりません。[飯塚博正さん]

●所謂、ドイツインフレ切手で1200マルクが貼られアルゼンチン・ブエノスアイレスに送付された葉書。消印は不鮮明で画像からは判読できず。裏面の画像からはハンプルグ・アメリカラインの船会社所有のテウトニア号による搬送。コナーカードにも船の号名が記載されている。従って、アメリカ経由の南米ブエノスアイレスに送られたと思われる。[山崎文雄さん]

●ドイツの第一次大戦後のインフレ期の外国宛ハガキであるが、SEEPOSTとあることから船内で差し立てられたはがきであると思われる。当時、インフレによる頻繁な郵便料金の改定があったが、船内では出港時の料金が適用されたことから、本例は、航行中に料金の改定があったが旧料金が適用された例であると思われる。[匿名]

では、所有者の伊藤文久さんの回答です。

「宇根崎さん、素晴らしい回答です。回答の通り、ドイツ船内局で出航時の料金1800マルク分

の切手を貼付して1923年10月18日の消印が押されたものですが、ドイツでは**5回の郵便料金値上げ**で5000倍の900万マルクになっていました。

当時は既に無線通信が可能になっていたと思われますが、そうであっても、紙幣、切手は出航時のままで、新紙幣や新切手はないので、**出航時の郵便料金がそのまま適用**されました。そうするしかなかったのです。**料金不足ではなく正しい郵便料金**となります。船の中だけ、時計の針が止まったかのようです。

このような船内局の旧料金期間の使用例で、1～2料金期間前はたまに見かけますが、**4料金期間以上前となると本例しか見たことがありません。**消印の薄さが幸いしてか、收藏品に加えることが出来ました。葉書の通信文に「スペインに着いたことと、月曜にドイツに戻る予定だがどうなっているか心配」と書かれています。月曜までにさらに2倍の郵便料金値上げがあり、1800万マルクとちょうど1万倍となり、久しぶりに帰国した差出人がどうなったのかが気になります。」



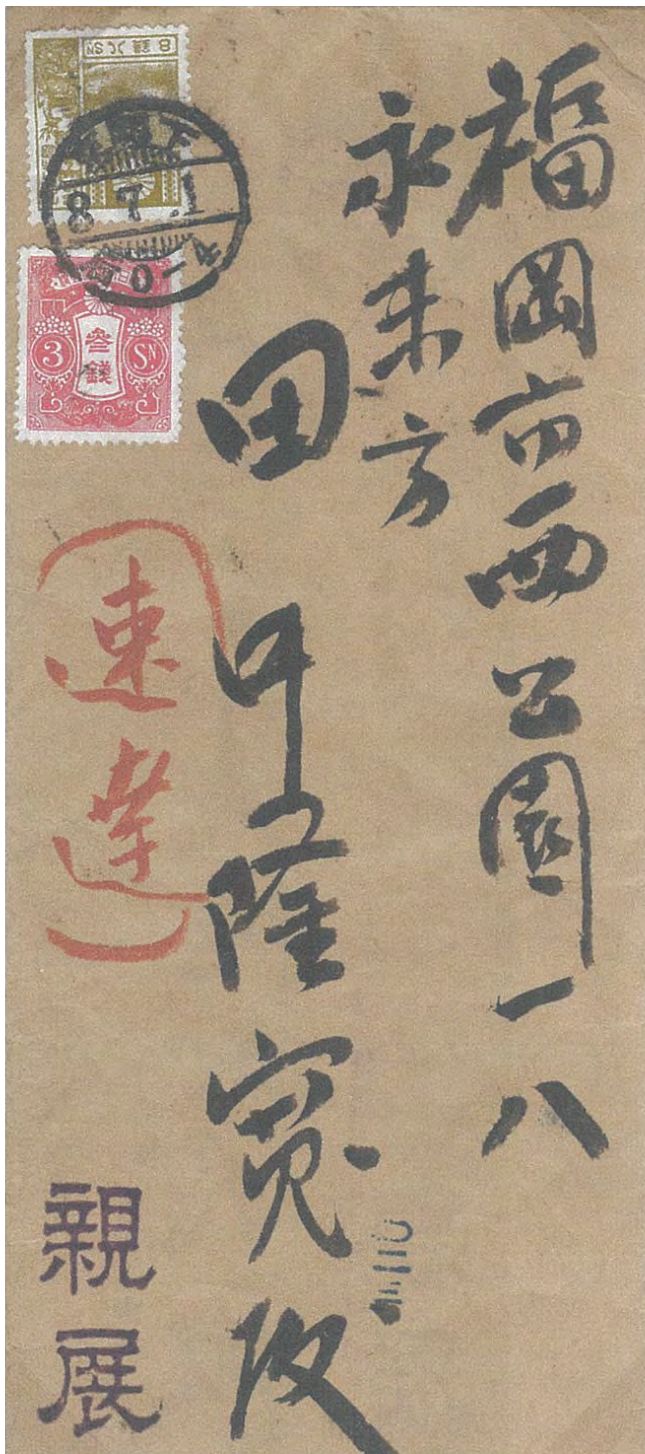
次号の謎解き候補をご紹介します

「謎解き郵趣」は読者参加型の、郵趣解説記事です。次号でとりあげるのはこの3点です。頭の体操のつもりで、それぞれの解説を考えてみて、アンケートフォームからご入力ください。皆さんからの回答は正解と共に、次号でその抜粋をご紹介します。

謎解き候補ご提供者の皆様

1. 田沢・富士鹿切手貼りカバー（山口県・岡藤政人さん）
2. 旧中国切手貼りカバー（大阪府・重山優さん）
3. 1953年 10円切手・壁画未使用ブロック（大阪府・梶井健右さん）次ページ。

※左側は部分拡大画像。最下段のラインはマウントの線ですので気にせずに。。



謎解き候補提供者募集中

カバーや切手の画像を、メール添付もしくはご郵送いただくだけでエントリー完了です。是非参加してみませんか？

宛先： tpm@stampedia.net



寄稿記事

国内書状の基本料金史～昭和後半期の郵便改革前史～
町屋安男

戦後の郵便史 ～昭和41年7月1日施行の郵便改革～
行徳国宏

和欧文機械印トピックス（第1回）
第一期 渋谷の標語無し
水谷行秀

ローラー印収集
第二回 試行ローラー印のバラエティ
第三回 昭和56/57年直彫ローラー印
鈴木盛雄

郵趣家便のススメ（第1回）
制度 その初日の最終日
水谷行秀

あなたの郵趣論文、啓発記事を掲載してみませんか？

フルカラー、ページ数制限なしの The Philatelist Magazine で記事を書いてみませんか？オリジナル研究記事とともに啓発記事やまとめ記事も歓迎です。

郵趣の範疇であると編集部で判断すれば、日本・外国を問いません。伝統郵趣、郵便史、テーマチック、トピカル、カタログコレクション、研究史、文献など広く記事を求めています。既存の紙雑誌で掲載に難色を示された分野であってもぜひご相談ください。

将来の単行本化を前提とした 連載記事のご執筆も歓迎致します。

問合せ先： tpm@stampedia.net

1 宛先地別距離制（重量制従基準）料金の時代 （明治4年3月1日～明治4年12月4日）

ローランド・ヒルによって全国均一料金制と郵便料金前納制が「1ペニー郵便」としてイギリスで導入され、近代郵便制度が1840年（天保11）1月10日にスタートした。郵便料金は、書状の基本料金を全国一律1ペニーとする均一料金制に重量基準による料金体系が設定されて「書状半オンスまで1ペニー」となる。（図1）

31年後の1871年4月20日（明治4年3月1日）に、日本においても官営の新式郵便が東京－京都－大阪の3都市間で発足した（太政官布告第40号）。

東京（日本橋四日市）・京都（姉小路車屋町西へ入）・大阪（中ノ島淀屋橋角）に駅通司郵便役所、沿道の宿駅には郵便取扱所（62ヵ所）が開設されている。郵便料金前納の証票として、竜文切手も4種類（銭四十八文・百文・二百文・五百文）が発行された。

創業時の郵便は、筆書きの有封書状と別仕立（目方にかかわらず1里に付き銭600文増）の取扱制度であった。

書状の郵便料金は距離を主基準とした宛先地別であり、重量は従基準である。3府の郵便役所から「各地時間賃銭表」が作成され、例えば東京から横浜まで銭200文、静岡まで500文、熱田まで1貫、京都まで1貫400文、大阪まで1貫500文等となる。京都－大阪間の計算方法は、東京－大阪間の1貫500文から東京－京都間の1貫400文を差引いた残額の100文である。

書状の基本重量は5匁（18.75g）刻みであり、5匁迄ごとに基本重量の半額が加算された。尚東海道の宿駅から五里四方の在村には別仕立便の他に幸便があり目方に関わらず1里まで銭100文増・2里以上は1里に付き200文増となる。

明治4年7月15日に横浜郵便役所（弁天通三丁目）が設置され、東海道の新式郵便とは別に東京－横浜間にも往復郵便が開設された。東京－横浜間の「毎日朝五時半三時半限別便仕立」は銭248文であったが、明治4年8月（欠日）に銭48文（往復幸便）と大幅な値下げが行われている。

東京－横浜間の往復郵便では、「毎日不限何時別仕立郵便時間賃銭表」や「横浜ヨリ各地別仕立郵便里程賃銭表」の他に「横浜ヨリ近傍村々へ届状賃銭表」等も設定されていて、横浜固有のバラエティーに富む料金大系となっている。

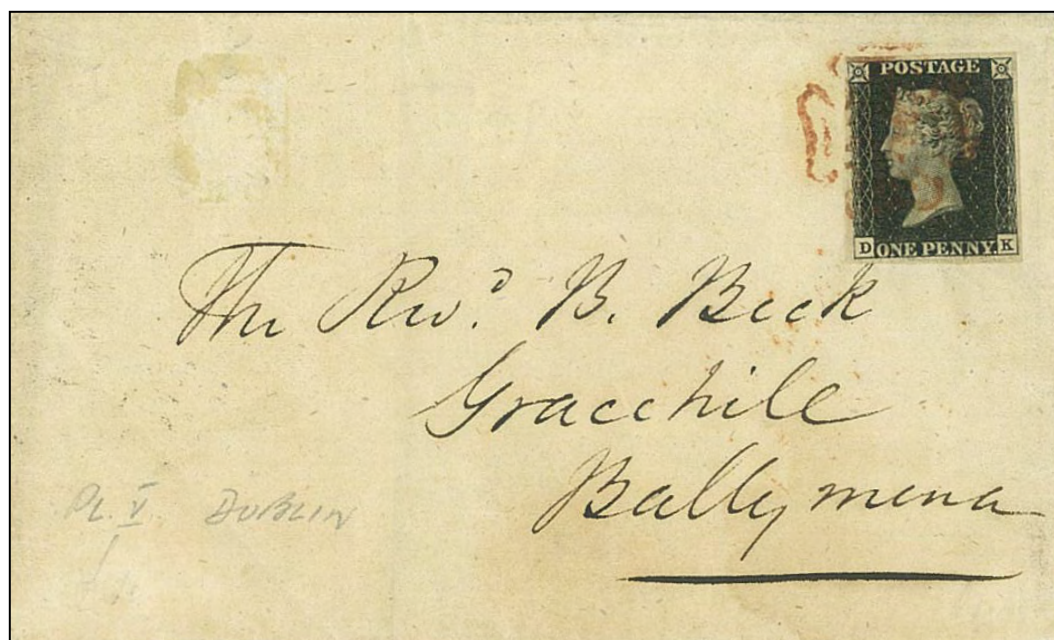


図1 英国の書状基本料金使用例（1ペニー）

1840年発行の1ペニー切手（ペニーブラック）
Plate 5、1841.1.27
ダブリン マルタ十字印（赤）

ダブリン（現アイルランド、当時大英帝国）からバリミーナ（同様）宛

2 里程別距離制（重量制従基準）料金の時代 （明治4年12月5日～明治6年3月31日）

2-1. 幻の基本重量2匁時代

明治4年12月5日には郵便が東京－長崎間に開設され、最初の郵便規則が施行された。郵便規則の「東京ヨリ長崎マテ東海道筋並中国西国道中筋郵便取扱所有之地へ書状賃銭之定」に依ると、基本重量は2匁（7.5g）迄ごとに倍額加算される方式となり、距離は5段階（25里以内銭100文・50里以内銭200文・100里以内銭300文・200里以内銭400文・200里以外銭500文、及び不便地増銭100文）の里程別である。

この明治4年12月5日に実施された基本重量2匁の距離制料金は、すぐさま4匁に重量変更されている。そこで、前島密によって「不都合相生候」につき変更された幻の基本重量2匁時代について概観してみたい。

(1)天野安治氏が、「適正使用例と1枚ばり(1)」(『フィラテリスト』1969年2月号)で、「基本重量2匁は12月中に（日付はよくわからない）4匁に引き上げられた。」(35ページ)と指摘された。『エンタイアを読む』でも、同一見解である。

「均一料金制と二重丸型日付印 100年」(『郵趣』1973年3月号)では、「書状の料金は重量2匁（実施直後4匁に改訂）」と記述されている。

(2)谷喬氏が「重量2匁時代について」(『フィラテリスト』1969年5月号)で、『駅逓明鑑』の記録(12月12日前島駅逓頭の進言、17日省議と20日駅逓司回達)を示し、「これからみると、実際の改正は20日すぎからと思われます。」と述べて、辛未(明治4年)12月6日付けの大阪鎮台より堺県庁に送付されたエンタイアを公表された。(図2)

図2のエンタイアは、谷喬氏が所蔵されている重量2匁時代の使用例である。竜切手銭二百文が大阪の大型地名検査済印で押印され、3匁と朱書きされた重量超過郵便となる。

郵便料金については、和泉国堺郵便取扱所の開所が明治4年12月25日だけに悩ましい。

明治4年12月5日の郵便規則では「東京ハ朱引外西京ハ洛外大阪ハ府外」が不便地となり、未開所の堺には不便地増銭100文が付加される。25里以内・2匁以上4匁迄銭200文の距離制料金が加算されると合計銭300文となる。

やはり、明治4年8月(欠日)の「大阪以西郵便賃銭表」が適用されたものであろう。大阪から堺の宛先地料金は銭100文であり、2倍重量便(4匁刻みではなく、2匁刻みを適用)の銭200文となる。

谷喬氏は『郵便史研究』第27号に「最初の郵便規則改訂版(京都府模刻)について」を発表され、駅逓寮の辛未(明治4年)12月重量改正告示を開示されている。

(3)『日本切手名鑑第1巻郵便史』では、「12月17日より2匁ごとの料金を4匁ごとに改めて、料金の割引きを計った。」(6ページ)と記述されている。

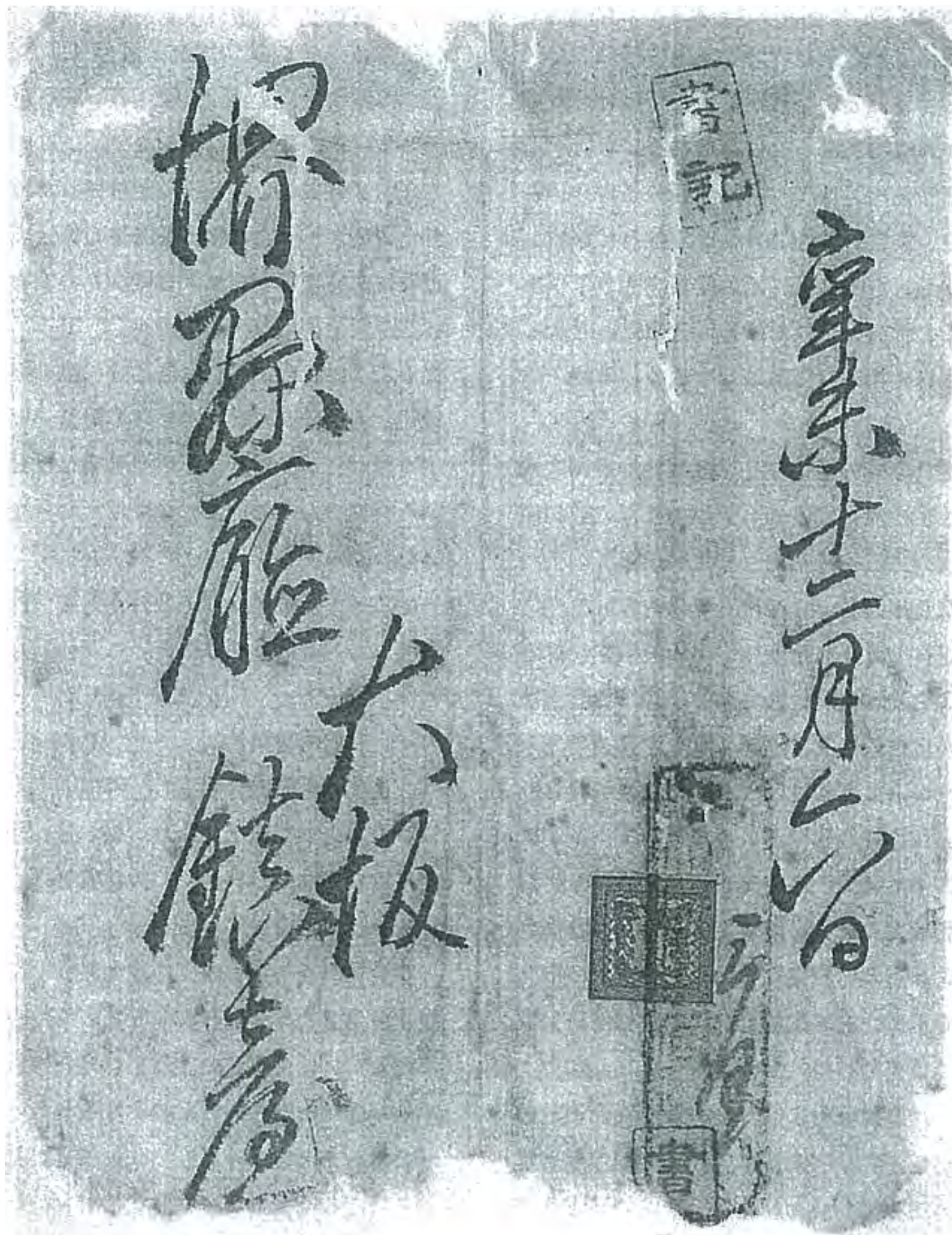


図2 基本重量2匁時代の使用例（モノクロコピー）

竜200文切手一枚貼り、大阪・大型地名検査済印捺印、辛未（明治4年）12月6日3匁と朱書きがあるので、重量超過郵便となり、その部分の郵便料金は、宛先地別100文 × 二倍 = 200文となる。大阪鎮台より堺県庁宛て

(4)島崎透氏が、意欲作の「竜切手と錢勘定—郵便創業と幣制改革の交錯した時代を深訪する—」を『郵便史研究』第10号に発表された。

谷論文を検証して、「2匁区分はごく短期間にしる存在したと判断せざるを得ない。」と進言された。興味深いことには「創業初年度の郵便料金変化の実態」（縦軸に宛先・大阪まで17グループ、横軸に重量・1匁～20匁）を作表され、

- (A) 3月1日の宛先別（5匁区分）
- (B) 12月5日の距離制（2匁区分）
- (C) 12月19日の錢改正（2匁区分据置）
- (D) 12月19日の錢改正（4匁区分改正）

を天保錢の枚数で比較検討されている。作表の結果は「12月5日に実施された距離制料金自体が、近距離便・重量便の値上げと遠距離便・軽量便の値下げを伴うものであったことが判然する。」と要約され、再値上げを回避するための方策として対応した重量区分の変更が「大幅値下げの実際を明示している。」という分析結果から「前島のさりげない処置に、並々ならぬ手腕を感じさせる。」と結ばれた。

前島密の重量区分変更を12月19日の錢（ぜに）改正（錢の切り下げ）にクロスさせて、真相に迫った視角は説得的である。

このように基本重量2匁から4匁への変更時期については、駅逦寮の布告や12月改正規則（京都府模刻）でも「辛未十二月」と記されているだけで、実際の変更日を特定することができない。

想定される日付は、①明治4年12月欠日、②明治4年12月17日、③明治4年12月19日、④明治4年12月20日過ぎの4

つがあげられよう。やはり、谷喬氏が指摘されたように、駅逦司回達の12月20日過ぎが妥当と思われる。



図3 竜半錢切手

2-2. 基本重量4匁時代

明治4年5月10日に新貨条例が公布され、四進法の両分朱文表示から十進法の円錢厘毛表示に移行していった。新貨の交換レートは、1両＝1円、1分＝25錢、1貫＝10錢、1朱＝16錢2厘5毛、100文＝1錢となる。新貨条例によって竜切手も「文」（48・100・200・500）から「錢」（半・1・2・5）へ変更されることになった。

竜錢切手（図3）については発行の布告もなく、明治5年1月18日の大蔵省駅逦寮決議を経て2月（欠日）に正院届けとなっているので、明治5年2月を発行月としている。実際の発売日は、今までに確認されている最初期使用例（竜切手半錢・明治5年3月4日・東京）から推定すると、同年3月初頭であろう。

また河原崎次郎氏の「竜錢見本切手消息」によると、竜錢4種の見本切手が明治5年3月5日付けで駅逦寮出納課から遠江国相良郵便取扱所に公布された資料を開示され、竜錢切手は「明治5年3月5日より前に新造され、その直後が発行日であったことが推定されるのである。」と明察されている（『郵便史研究』第16巻）。このように、郵便の全国施行前夜は、謎だらけである。

明治5年3月1日の改正増補郵便規則から、郵便料金も文単位から錢單位に改正されている。書状料金は、距離制を主基準とした5段階（25里以内1錢・50里以内2錢・100里以内3錢・200里以内4錢・200里以外5錢及び不便地増1錢）の里程別である。従基準の重量は、目方4匁毎に倍増する方式となった。

こうして、郵便創業から1年4カ月後の明治5年7月1日には、新式郵便が全国的に実施（但し北海道の後志・胆振以北を除く）された。

そして、明治5年11月9日には、改暦の詔書により「明治5年12月3日を明治6年1月1日（12月1日を30日、2日を31日）とする」ことになった。我が国における太陽暦採用の初めである。

3 区域別距離制（重量制主基準）料金の時代 （明治6年4月1日～明治15年12月31日）

明治6年4月1日の改定郵便規則によって原則的に全国均一料金制が実施され、同年5月1日には郵便事業の政府専掌が施行された。

郵便創業時の料金前納制に加えて均一料金制と官営独占制の三本柱が確立して、新式郵便は近代郵便となる。均一料金制が実施され、書状料金の設定基準は重量が主基準となった。距離は従基準となり、市内・市外・不便地という3つの区域別になっている。有封書状料金は、1通2匁迄ごとに市内1銭・市外2銭・不便地1銭となる。

（図4）

官営独占制については、明治5年6月1日から東京－横浜間の郵便通送回数が1日5度と増便された時にフォアランナーとして当地間で実施されている（明治5年5月22日付太政官布告第163号）。

官営独占制が、全国実施に11カ月もさきかけてドル箱の東京－横浜間で試験的に施行されたことに留意すべきであろう。

尚、郵便葉書が発行された1カ月後の明治7年1月1日に「明治七年郵便規則及ヒ罰則」が施行され、第58条で

「郵便信書ノ数多クシテ一時ニ差立難キトキハ書籍及ヒ見本ハ次便ニ延スコトモ可有之事」

と明記された。郵便信書の優先送達はいわゆる高等信の発想であり、郵便事業の根幹が信書（後の第1種・第2種）にあることを示唆している。

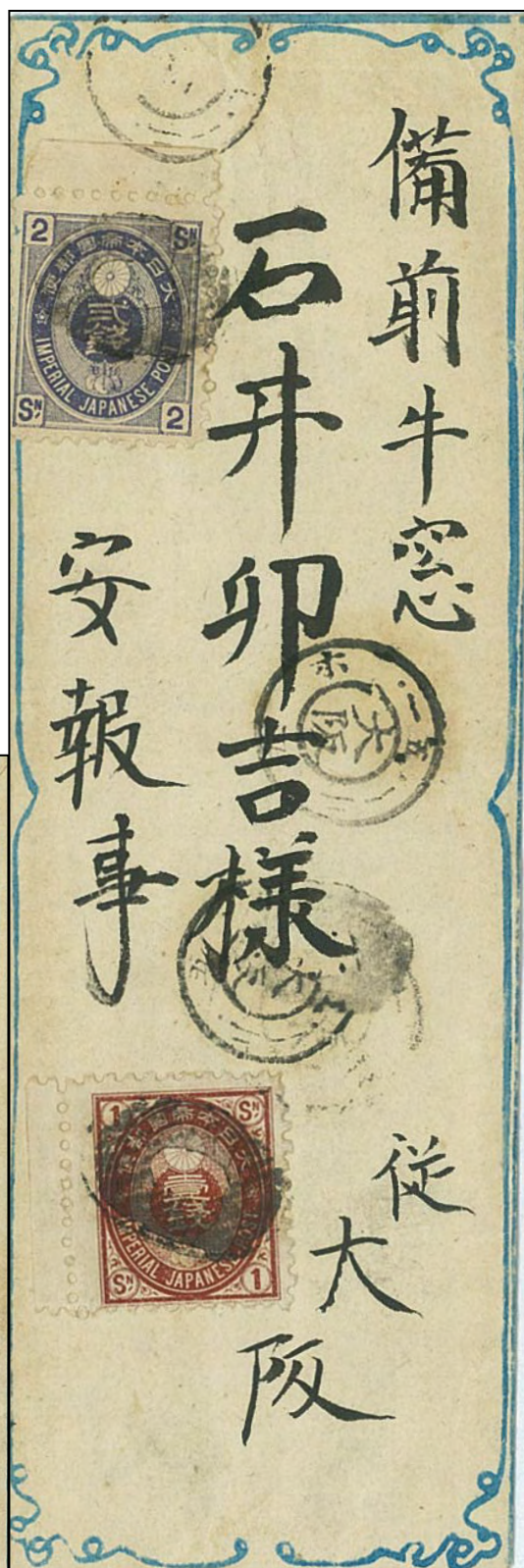
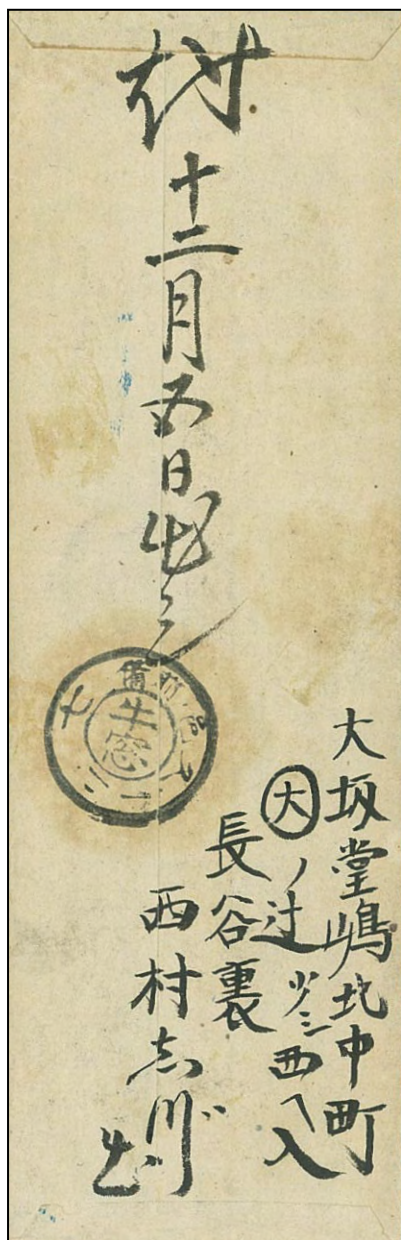


図4 区域別距離制料金時代の使用例(表裏)
明治15年12月7日 大阪→備前・牛窓

4 重量制料金の時代

(明治16年1月1日～昭和41年 6月30日)

4-1 重量2匁ごと2銭時代

郵便条例は明治15年12月16日の太政官布告第59号によって公布され、明治16年1月1日から施行された。これまでは、明治4年12月5日の郵便規則が毎年多少の改正を加えて明治15年まで実施されていた。郵便条例によって、郵便・郵便為替・郵便局貯金に関する郵便法制が一応完備された。

郵便条例では不便地料や市内郵便・地方郵便の半額制度が廃止され、郵便料金の完全な全国均一制が実現した。

郵便物の種別も確定し、

第1種（全部もしくは一部を筆書した書状）

第2種（葉書）

第3種（毎月1回以上発行する定時印刷物）

第4種（書籍・各種の印刷物・写真・書画・絵画・野紙・営業品の見本及雛形）

に4区分されている。

第1種郵便の料金は「重量2匁毎に2銭」と完全な均一料金が定められ、重量基準のみの料金体系となった。

明治18年12月22日には太政官制度を廃止して内閣制度（伊藤博文内閣）が創設され、新たに逓信省（榎本武揚大臣）が設置されている。明治22年2月11日に大日本帝国憲法が發布されて、近代的国家体制が確立した。こうして、明治33年10月1日には郵便法（法律第54号）が施行された。

郵便法は郵便に関する基本法であり、郵便法体系（法―規則―取扱規程）によって日本における郵便制度の近代的な骨格も確立していった。郵便法によって、初めて法―規則―取扱規程が体系化された。それまでの現業では、「取扱規程の類も存在しなかったため、各郵便局では、慣例と口伝に基づいて事務処理を行っていた。したがって、新たに郵便局を開設する際には、新設局員が近隣の郵便局まで出向いて事務処理を練習し、口伝を覚えなければならなかった。」と深刻な事態が続いていた。（『近代日本郵便史』藪内吉彦・田原啓祐著／明石書店、133～134ページ参照）

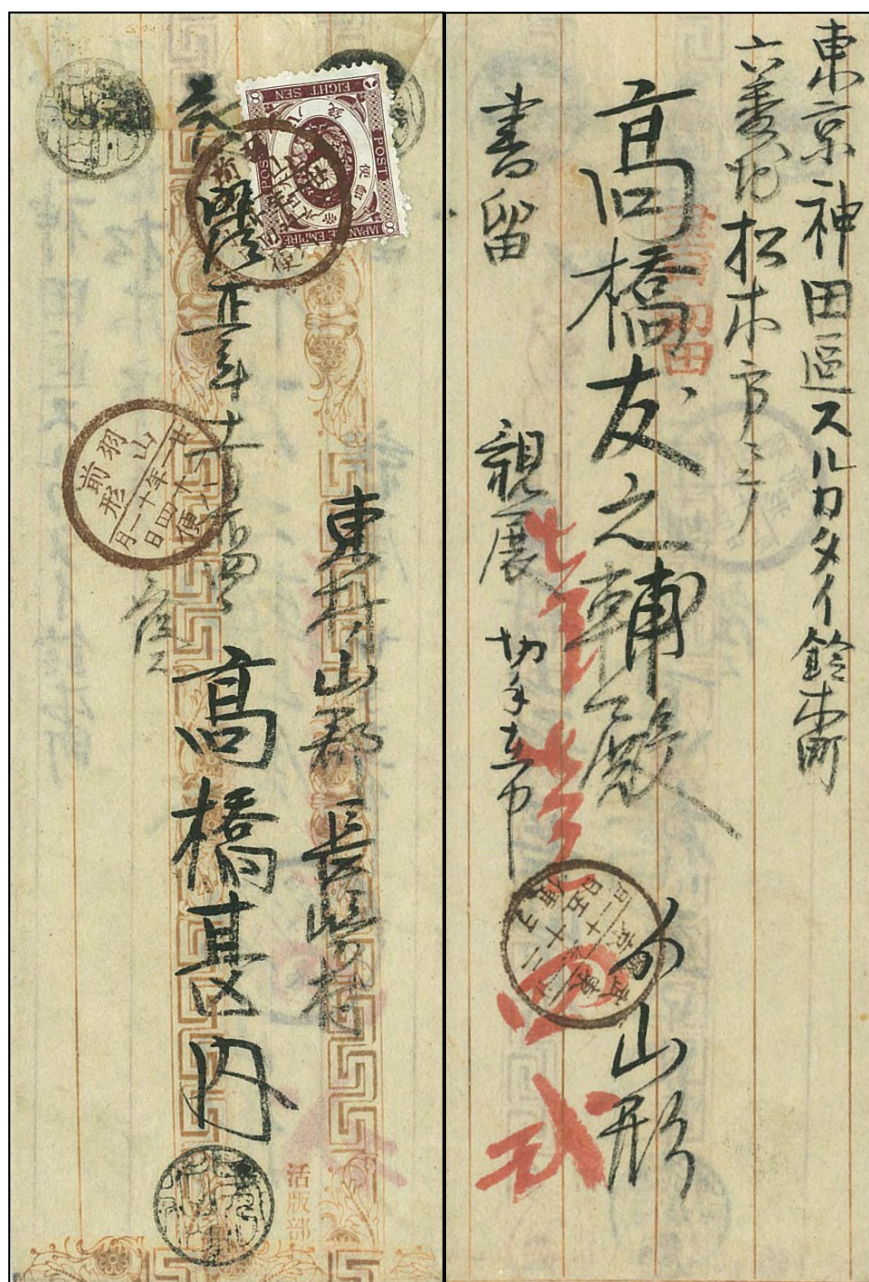


図5 重量2匁ごと2銭時代の使用例（表・裏）

明治21年11月24日 羽前・山形→武蔵・東京、11/25到着

旧小判8銭後期普通紙単貼り

書留書状8銭=書状基本料金2銭+書留料金6銭

4-2 重量4匁（15g）ごと3銭時代

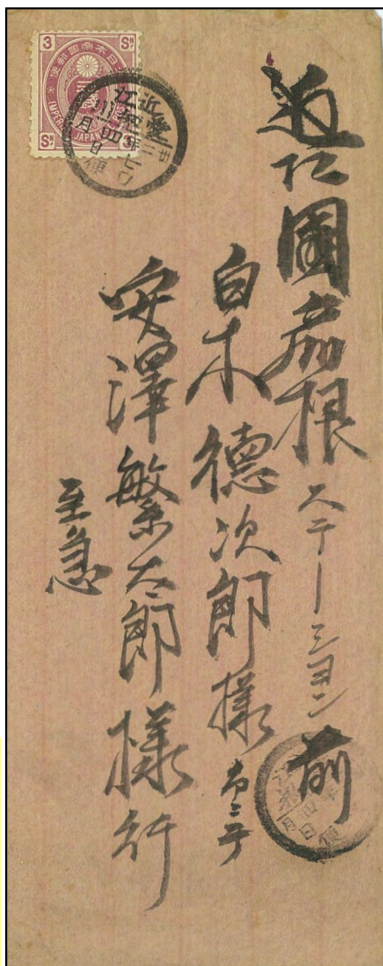
郵便料金は明治32年3月1日に郵便条例が改正（法律第26号）され、同年4月1日から「重量4匁毎に3銭」となった。（図6）この有封書状3銭料金期間は、明治32年4月1日から昭和12年3月31日まで長らく続いている。但し、郵便におけるメートル法が昭和6年8月1日に施行され、第1種有封書状の基本重量が4匁から15gに変更された。

余談となるが、東京－大阪間の郵便料金についていえば、郵便創業時の「郵便賃金」一貫五百文は江戸時代の飛脚料三十六両（仕立便23両＋割増13両）に比べると、大幅な値下げであった。郵便規則時の里程別では四百文（四銭）の賃金となり、全国均一料金時には2銭の「郵便税」に値下げされた。

明治32年3月1日の郵便料金改正によって初めて料金の値上げ（2銭→3銭）が実施されることになった。この件に関しては、日清戦争を契機に財政収入を確保するための手段として郵便料金が値上げされたことから、新聞各紙が値上げ反対論を展開している。

なお、郵便税は郵便法施行時に「郵便料金」と改称された。そして郵便料金が国の独占に属する事業の料金であることから、国会の議決によって郵便法で定められるようになったのは、新郵便法の実施からである。

図6 重量4匁ごと3銭時代の初期使用例
明治32年4月7日 近江・愛知川→彦根
新小判3銭単貼り



4-3 重量20gごと4銭～10円の時代

昭和12年4月1日以降の目まぐるしい書状料金の変遷は、主として戦争を要因とする郵便料金の値上げを反映している。

昭和12年4月1日の郵便規則改正（省令第14号）によって、基本重量と第1種書状料金が「20g毎に4銭」となる。（図7）その後、基本重量20g時代の書状料金は、

- 昭和17年 4月 1日から5銭
- 昭和19年 4月 1日から7銭
- 昭和20年 4月 1日から10銭
- 昭和21年 7月25日から30銭
- 昭和22年 4月 1日から1円20銭
- 昭和23年 7月10日から5円
- 昭和24年 5月 1日から8円
- 昭和26年11月 1日から10円

と推移している。この間、昭和22年5月3日に日本国憲法が施行され、昭和23年1月1日には新郵便法が実施された。

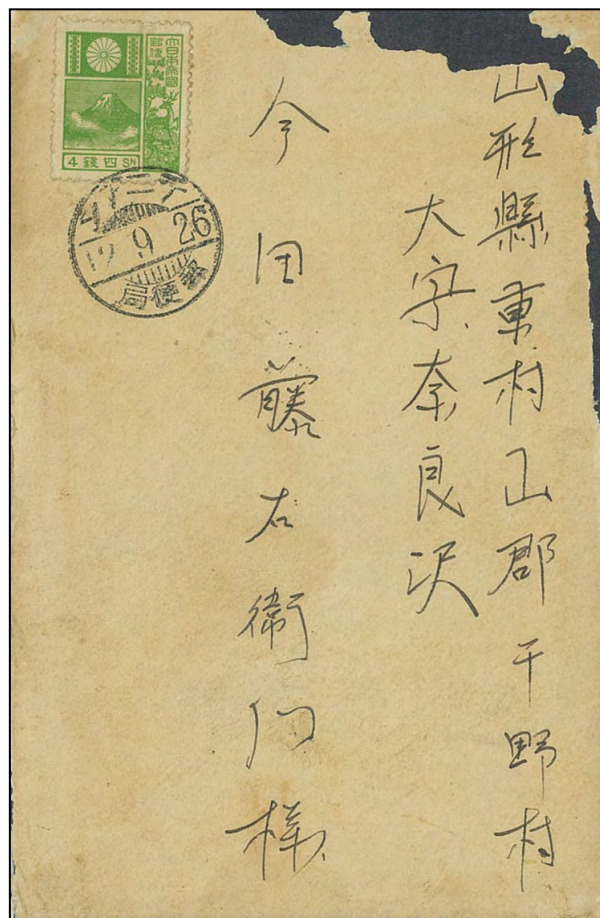


図7 重量20gごと4銭時代の使用例
昭和12年9月26日 テニアン→山形
富士鹿・昭和白紙4銭単貼り

5 形状制（重量制従基準）料金の時代 （昭和41年7月1日～現在）

郵便条例から昭和26年11月1日の有封書状料金改正（20gごと10円）までは、重量を主基準とした倍額料金体系が継続されてきた。

昭和41年7月1日の郵便法改正（法律第81号）は郵便制度の構造的変革となる。第1種有封書状の料金が形状基準によって定形と定形外とに分けられ、重量ごとに段階的料金とする体系に改められた。（図8）

明治16年1月1日の郵便条例から新旧の郵便法を経て長期にわたって続けられてきた重量を主基準とする設定方式が、昭和41年7月1日から形状を主基準に重量を従基準とする新しい料金方式に移行したのである。

郵便料金の設定基準には距離と重量と形状の3要素がある。昭和41年7月1日の改正は封書料金が形状による「定形・定形外」の方式となり、基本重量の変更を伴う料金改正（定形25g迄15円、定形外50g迄25円）となったことでも画期的である。

戦後の郵便史に関しては、行徳宏氏が速達郵便の段階的料金制を発掘・展開されたように、形状料金制度には郵便史の未踏地を開拓する愉びがある。また、現行切手の収集方法も、昭和41年7月1日の新動植物国宝図案切手シリーズを境として質的に変わってくる。

郵便創業以来、郵便物はその内容の性質によって取扱いを区別されてきた。換言するな

らば、封書と葉書が優先扱いされた個人間の通信であった。昭和30年代に至り、第3種以下（第3種・第4種・第5種）の郵便物と料金別納・後納郵便物が激増し、郵便の利用は業務用の通信に移行し始めた。

昭和41年7月1日の郵便法改正は郵便物の「内容」から「形状」への大転換であり、新しい種別体系への根本的な改定でもあった。第5種郵便（印刷物や業務用書類等）が廃止されて、第1種郵便に統合された。第1種郵便物の定形による規格化は、機械化処理に対応するものであった。

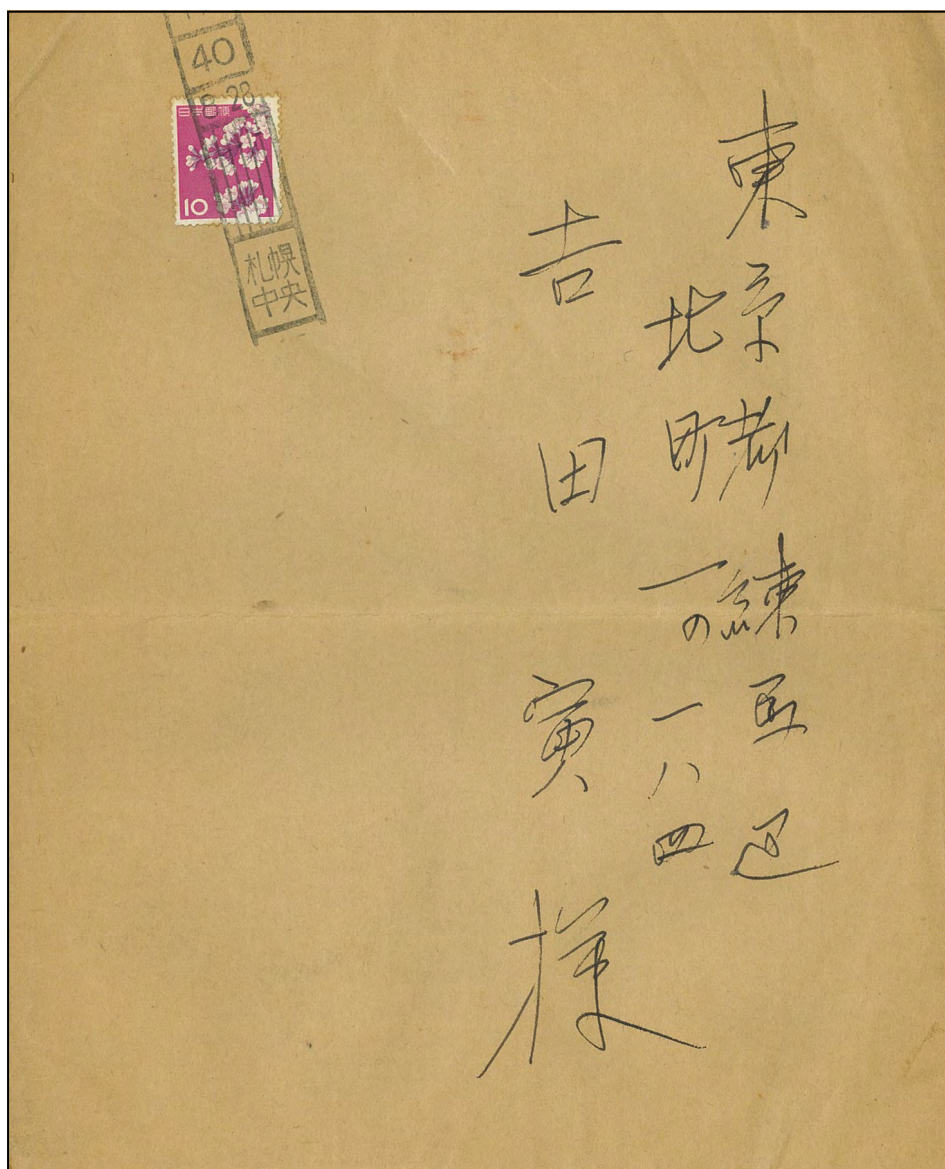


図8 定形という概念がなかった時代の第1種書状の例
昭和40年8月28日 札幌中央→東京・練馬区

郵便の自動化は、埼玉県大宮郵便局において機能実験された。

昭和41年6月27日に大宮郵便局が東大成町の新局舎に移転し、1階に郵便機械化実験室（444平米）のスペースが設置された。

昭和41年7月18日に発光切手（金魚7円・菊15円、図10）と発光葉書（夢殿7円、図9）が大宮局等で発売され、同年8月1日には郵政省郵務局郵便機械化企画室直轄の「郵便機械化実験室」が大宮局に開設されている。

最初の書状押印機N4型（日本電気製）も、定形郵便物の区分導入に備えて昭和41年3月25日に積極配備が始まった。以降、書状の機械押印時代が到来する。

郵便物の特殊取扱は、利用者のニーズに応じて生まれる郵便制度である。昭和41年7月1日の郵便

法改正では、簡易書留郵便が書留郵便の中から新設された。簡易書留郵便の目的は書留郵便制度の合理化にあり、郵便事業を近代化するための具体策であった。

このように、昭和41年7月1日の郵便法改正は、郵便需要の構造的変化に対応する郵便事業の近代化を狙いとしている。形状料金方式への移行は郵便条例以来の料金方式改定であり、郵便物の内容から形状への転換は郵便創業以来の大改正と言える。

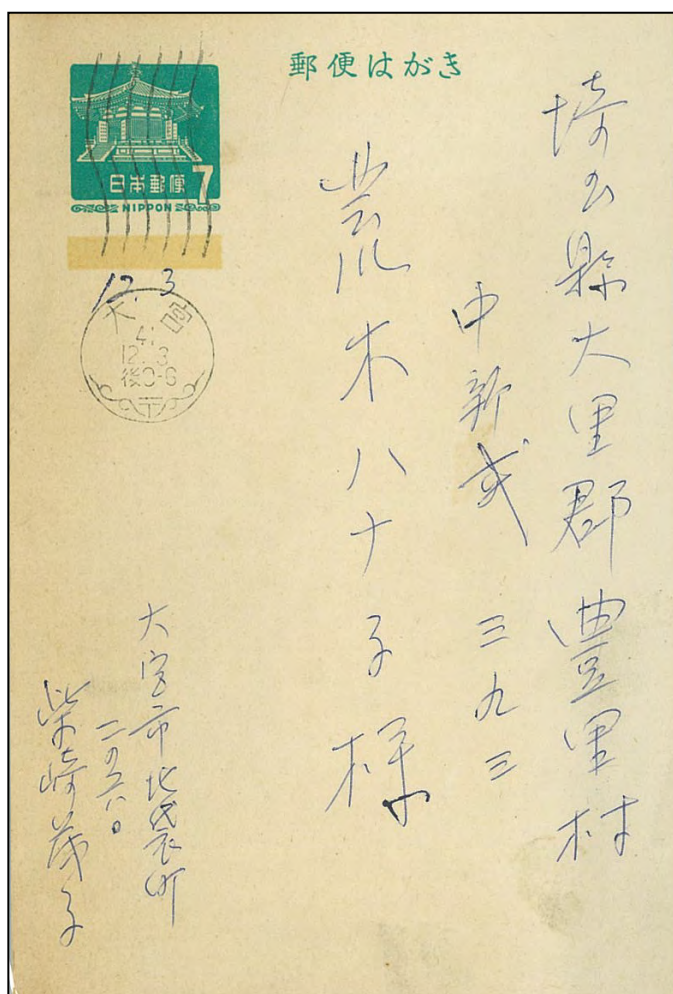


図9 発光葉書使用例
大宮 昭和41年12月3日

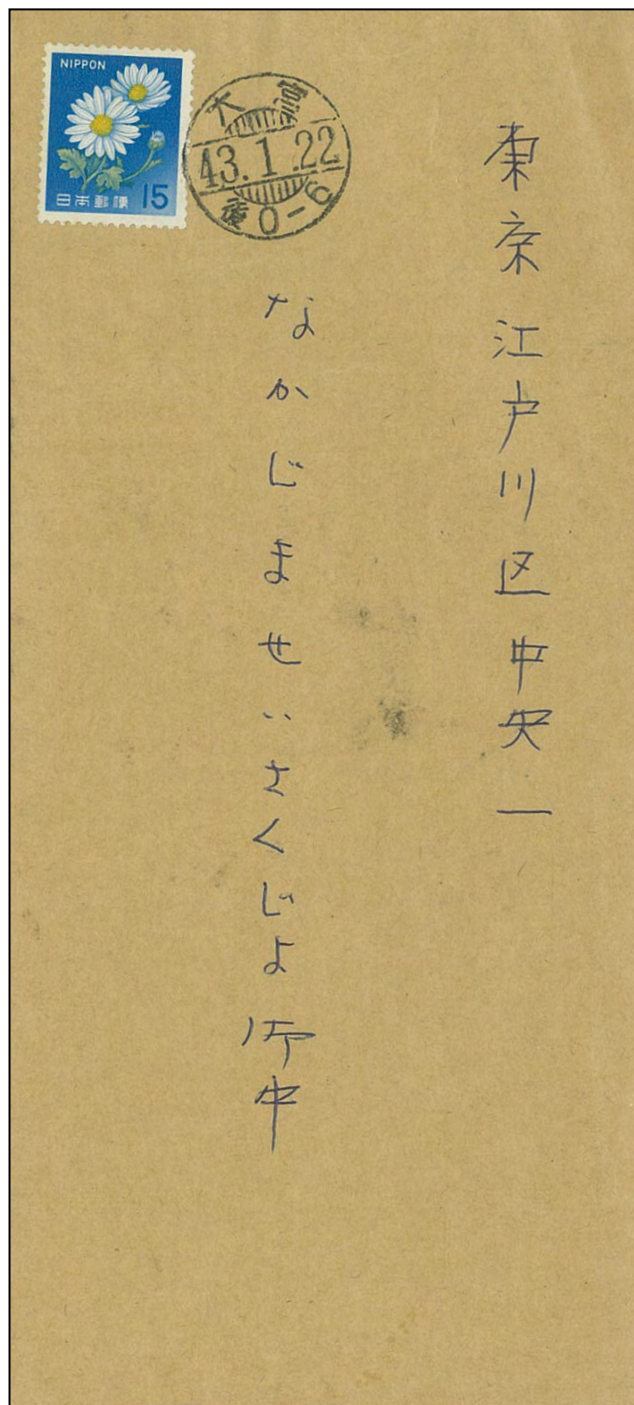


図10 発光15円切手単貼り使用例
大宮 昭和43年1月22日

まえがき

郵便史にご関心のある方、また調査研究されておられる方にとって、郵便史の研究対象と内容は、明治創業期及びそれ以降の郵便事業・運営や各種郵便制度など、戦前の内容に限定して発表されてきた。

これに対比して、戦後に展開された郵便事業・運営や各種郵便制度を体系的に調査研究の対象にした「戦後の郵便史」については、これまで発表されていなかった。調査研究の対象とするには時代が新しいため、対象とするに値する内容があるかどうかとも言及されていなかったのだろう。筆者は戦後の各種郵便制度を知りたいと思って、東京大手町にある逓信博物館の郵政資料室に通い、少しずつ資料調査を進めていた。

定年を契機に本腰を入れて、同郵政資料室で戦後の逓信／郵政公報を暦年ごとに調べ、切手収集に関連する各種公報資料（郵政省告示、公達、通達など）と郵政関連雑誌・新聞を、昭和20年から64年まで抜き出して、時系列的に採録して『戦後の郵政資料』5巻とその後の2巻を含めて合計7巻を私家出版した（平成15年12月から24年1月まで、図1）。



図1 著者の発行した書籍類

郵政省告示、公達等の資料だと、収集家には理解しにくい説明も含まれていたが、それらの資料と並行して発行された郵政雑誌や郵政新聞等があり、そこには具体的な取扱説明や取扱方法が加えられており、各郵政資料の内容を補完するよう並行引用することができた。（図2, 3）

この方法で採録した各種郵政資料が示す具体的な事例によって、収集家が手に入れてきた郵便エンタィアの特徴、その制度の改廃などを解明する手掛かりが見つかってきた。郵政公報資料を調べていく中で、該当する資料の開示と具体的な郵便エンタィアを使用して郵趣雑誌や会報誌に原稿を投稿することができた。収集家として郵便エンタィアの収集・解明・発表をすることの他に、郵政当局が採ってきた郵便事業、経営問題、郵便物取扱いの諸事情の側面も少し見えてきた感がしてきた。

郵政省内の郵政大学その他、大学や研究機関の研究者は、膨大な資料を駆使して戦後の郵政事業史あるいは郵政史を纏めておられるであろう。しかし、郵政当局の研究者が発表する郵政事業史あるいは郵政史には、収集家が収集対象としてきた郵便エンタィアは登場しない。収集家の目線で「郵政事業史あるいは郵政史」の一面を調べて、両面を合体した戦後の郵便の歴史を纏めることができないだろうかと考えてきた。これこそが、収集家が纏める戦後の郵便史になろうと考える。

まだ十分とは言えないが、郵政当局や関連団体が発行し、また調査発表した関連資料の面をさらに調べる必要がある。主題の「戦後の郵便史」と言うには、どんな内容の郵便の歴史があるのかを調べた上で、戦後の部分をどのように解釈できるかどうかを提案することから始めなければならないだろう。

戦後の郵便史を考え、取上げる最大のきっかけとなったのは、昭和41年7月1日施行の郵便法・郵便規則を拙本第3巻（昭和27年12月～42年12月まで）に整理した時であった。

その時著者は、戦後の郵便史の原点が「昭和41年7月1日の郵便法改正」にあると思った。そこで、戦後の郵便史の出発点が「昭和41年7月1日の郵便法改正」にあることを提案し、大方のご意見を拝してみたい。

これから展開する「戦後の郵便史－昭和41年7月1日施行の郵便改革－」を一瞥された読者諸兄は、それは投稿者本人の個別的意見ではないかと言われるかもしれない。

しかし、筆者の意見ではなく郵政当局者がこの時の改正を「郵便事業創設以来の大改革」と述べているので、第1章冒頭の引用文に目を通して頂きたい。

なお、当連載は、4－5回の構成になる予定である。今回は第1章で「昭和41年7月1日施行の郵便法の一部改正」で郵便業務がどのように推移したかその内容を開示する。次回以降展開する第2章以下で、昭和41年7月1日施行の郵便法の一部改正が実施されることになった背景を時代的に発掘し、その後の経過を述べたい。

第1章 昭和41年7月1日施行の郵便法の一部改正

まず第一に、この郵便法・規則の改正が戦後の大改革だと述べている郵政関連誌の記事（「郵便法改正に対する国会の審議」倉沢岩雄氏、『郵政研究』41年7月号 1～2ページ）から以下のように引用する。

「従来の郵便事業は、各種別ごとにその内容によって取扱いを区別することを建前としており、具体的には、郵便本来の業務としての第一種、第二種は国の独占事業として信書の秘密の確保、検閲の禁止等の保護のもとに、他の第三種以下のものとはその通信の内容が重要であるという理由によってその料金も高く、また高等信（第一種、第二種のこと－筆者注）として優先扱いされる等の区別があった。すなわち、郵便物は、伝達しようとする意思の内容によって、一種、二種の本来業務と三種以下の付帯業務という区別が、沿革的にも本質的にも当然のものとして運営されつつ今日に至ったのである。

しかるに、今回の改正においては、従来の考え方を一変させて、通信の内容による区別を第二義的…なものとして、…郵便物の形を重要視し、それを一定の規格化し、その取扱い方法を通じて事業の運営を企業的ならしめることを主眼としている。

すなわち、第一種と従来の第五種を統合して一種とし、定形と非定形とを区別し、できるだけ定形ならしめて機械化になじませるようなものとし、非定形のは料金を高くし、利用者側の努力のもとにできるだけ定形化しようとしている。また第二種も縦横に少しく大きくして国際規格に合わせ、世界的に共通のものとして機械化に備えようとしている。つまり今後における郵便事業の近代化、機械化に備えて、百億通以上の郵便物をいかにスムーズに敏速にさばるか、という企業性の面を強調した改正であり…郵便事業が、一つのマスプロの大企業として、いかに能率的に、機械的に運営できるかの事業者側の意思、都合を尊重する建前と変わってきたものと言えるのであって、まさに、郵便事業創業以来九十余年の伝統を打破した画期的な改正であるといっても過言ではないと思う。」

（なおアンダーラインは筆者が付けた）



図2 著者の資料より新聞の例：通信文化新報 S25.8.2

かくして41年7月1日に施行された郵便法改正では、従来の第1種郵便物と第5種郵便物とを統合して、
(1)一定の形状のものの料金を安くして、
(2)その他の形状のものの料金を割高にする、
という考え方を設定したものであった。

他誌（「昭和41年度本科事業研究報告書（郵便）」郵政大学校 42年7月）の説明を拝借すれば、

- (1)郵便事業を近代化するためになされた制度面の大幅な改革と、
(2)これを推進するための財源を確保する必要からきた料金改正
とを主な内容としたものであった。

「郵便法改正のもと、第一種郵便物の規格化と軽量化を図って取扱作業を容易にし、機械化を促進するために、郵便物を容積と形状によって定形と非定形（定形外）に分けることにした。形状を規格化し、機械化処理に向けられる定形郵便物にはその料金を割安にする一方で、人手による区分処理をしなければならない規格外（定形外）の郵便物には、重量別の割高な段階料金を設定することにして、利用者側に対してできるだけ定形化を要請することにした。」

この改正に伴って、小包郵便物料金令、集配郵便局郵便取扱規程、無集配郵便局郵便取扱規程および鉄道郵便局郵便取扱規程が改正された。

この改正のうち主要事項の改正を以下に取り上げたい。



図3 著者の資料より郵政公報の例：S24-25年頃の物

(1) 郵便料金改正

通常郵便物の料金、通常郵便物及び小包郵便物の特殊取扱いの料金並びに特別取扱いの料金が改正された（表1の比較郵便料金表参照）。

両料金を比較してみると、新料金では重量のある郵便物が重量に応じて段階的に割安になることから、郵便物を大量に差出す郵便利用者は、郵便物の重量を減らせば郵便費用がそれだけ節約できるということを理解してもらえようになり、将来の通常郵便物の小型化への期待も出てくる。

- (1)第1種郵便物の料金が、大きさ、厚さ、その他形状と重量等により定められることになった。
また郵便書簡は第1種郵便物とし、売価と郵便料金とを同額とすることになった。これは郵便法改正に伴う郵便サービス改善のひとつであった。
(2)年賀状とした通常葉書の低料金扱いが廃止された。
(3)速達料金に重量・段階制が取り入れられた（比較料金表参照）。（これまで特殊郵便に段階制料金が適用されたことはなかったので、異例とも言える。）

36.6.1		重量別・料金	41.7.1.	
速達	20gごと	定形		速達
30円	10円	25gまで	15円	50円
	30円	50gまで	20円	
		定形外		
	30円	50gまで	25円	
	50円	100gまで	35円	
	80円	150gまで	45円	70円
	100円	200gまで	55円	
	130円	250gまで	65円	
	150円	300gまで	75円	
	200円	400gまで	95円	100円
	250円	500gまで	115円	
	500円	1kgまで	200円	
	1000円	2kgまで	700円	
	1500円	3kgまで	1200円	200円
	2000円	4kgまで	1700円	

表1 重量別による旧新第1種書状料金の比較

※なお、41.6.30までは最大6kgまでの郵便物を第1種書状として差し出す事ができた。

(2) 第1種郵便料金の改正

1) 定形郵便物

定形郵便物の形状は、長さが14センチメートルから23.5センチメートルまで、横幅は9センチメートルから12センチメートルまでの長方形のもので、かつ、厚さが最も厚い部分で1センチメートルと定められた。重量は50グラムを越えないものとされた。1964（39）年のウィーン大会議で封筒の規格化が定められた。

寸法の範囲 短辺 90mm～120mm

長辺 140mm～235mm

(短辺対長辺の割合は1:1.414を下ってはならない)

封筒の規格を長さ14センチ、幅9センチとしたのは、国際郵便規格に合わせるためであった。

2) 定形外郵便物

定形郵便物及び郵便書簡以外の郵便物を定形外郵便物とする。

(3) 第2種郵便料金の改正

従来の官製葉書の寸法は横9センチ、縦14センチであったが、1965年の国際会議において、10.5センチと14.8センチにすることが決まり、横10センチ、縦14.8センチに改められた。

同じ郵便葉書であるのに、通信文の内容によって通常葉書と年賀郵便葉書の料金が異なることも問題であり、また最近の年賀葉書の差出数は当時と比べて著しく増加しており、これを引受処理するために特別の施設を必要とするようになり、特別費用が年々増加していることを考慮して、年賀郵便を特に低料金で取扱う必要がなくなり廃止することにしたと理由付けた。

(4) 第5種郵便物の廃止

第1種郵便物に統合・廃止された。

封筒の寸法がバラバラで取扱いが難しかった第5種郵便に関して、当局では封筒の規格をJIS規格寸法に合わせるよう整理してきた。41年に最終的に統一されたJIS規格寸法は16種であった。今回の改正で郵政省が推奨する規格は定形・定形外用の7種とした（注2、57～58ページ）

郵政省が推奨する7種の規格とは、長形4号、洋形2号、洋形5号（定形用として重点的に推奨する規格）、洋形6号と洋形7号（定形用）及び角形6号と同7号（定形外用）であった。

(5) 速達郵便料金の改正

戦後速達郵便料金は1種類であった。

今回の改正で、定形外郵便物に課せられる速達料金は、重量に応じて4段階に設定された。

速達料金にこのような段階制料金が設定されたことは、郵便創業以来の画期的な改正であった。

速達料金を重量による段階制に代えた理由は、速達郵便の航空輸送には輸送量を重量と距離によって航空会社に支払っている関係もあった。他方では、郵便物の重量による処理作業上の効率も大きな影響があることから、一律料金を廃止する事にした。（「通信協会雑誌」1966年4月号、「郵便料金改定」その理由と改正の諸点、8-9ページ）

(6) 書留制度の改正

書留郵便の損害要償額の最高限を上げ中、引受と配達についてのみ記録を行い、亡失または毀損の場合は2000円を限度とする実損額を賠償し、損害要償の申し出の取扱いをしない、そして書留料金よりも低料に設定した「簡易書留」制度が新設された。

配達した記録を証明できれば十分であり、封入内容物に対して損害要償を特に要求しないという郵便物に対する利用者からの要請があり、郵便サービスの一つとして新設された郵便の種類である。

(7) 郵便物の容積及び重量制限の改正

郵便物の容積の最大限は、通常郵便物にあっては長さ40センチ、幅27センチ、厚さ15センチ、小包郵便物にあっては、長さ1メートル、長さ、幅及び厚さの合計を150センチと改めた。

第1種郵便物の重量の最大限を4キロと改めた（従前は6キロ）。

(8) 料金減額制度の新設

「郵政大臣の指定する郵便局に差し出すもの」で、「同一差出人から形状、重量及び取扱いが同一のものを同時に3000通以上差し出すもの」で、かつ「料金別納、料金計器別納及び料金後納とする」第1種又は第2種郵便物については、その料金の合計額から、合計額の100の10以内の額を減額することとなった。郵便業務の能率的な運営を図るためと大口利用者への協力に対する当局の企業的な郵便サービスの一つとした。

(9) 書き損じ郵便葉書等の交換サービス

料額印面以外の箇所を書き損じ、または印刷を誤り、その一部をき損じた官製葉書または郵便書簡を、手数料を添えて郵便局に請求したものについては、その交換区別に従い郵便葉書、郵便書簡又は郵便切手と交換することができるようになった。

(10) 経過措置の設置

今回の改正は従来になかった内容を包含しているため、当局ではその改正後の一定の取扱期間（43年12月31日まで）まで引き受けることができるとした。

(1) 定形郵便の規定寸法より短い長さ12センチ、幅7センチ寸法の書状は、そのまま差し出すことができる。

(2) その表面に「第5種郵便」の文字が印刷されている封筒を多数在庫している会社などが、差出時に「第5種郵便」の文字を抹消するのに多大の手数を要し、困難と認められる場合は、そのまま差し出してもやむを得ないこととなった。

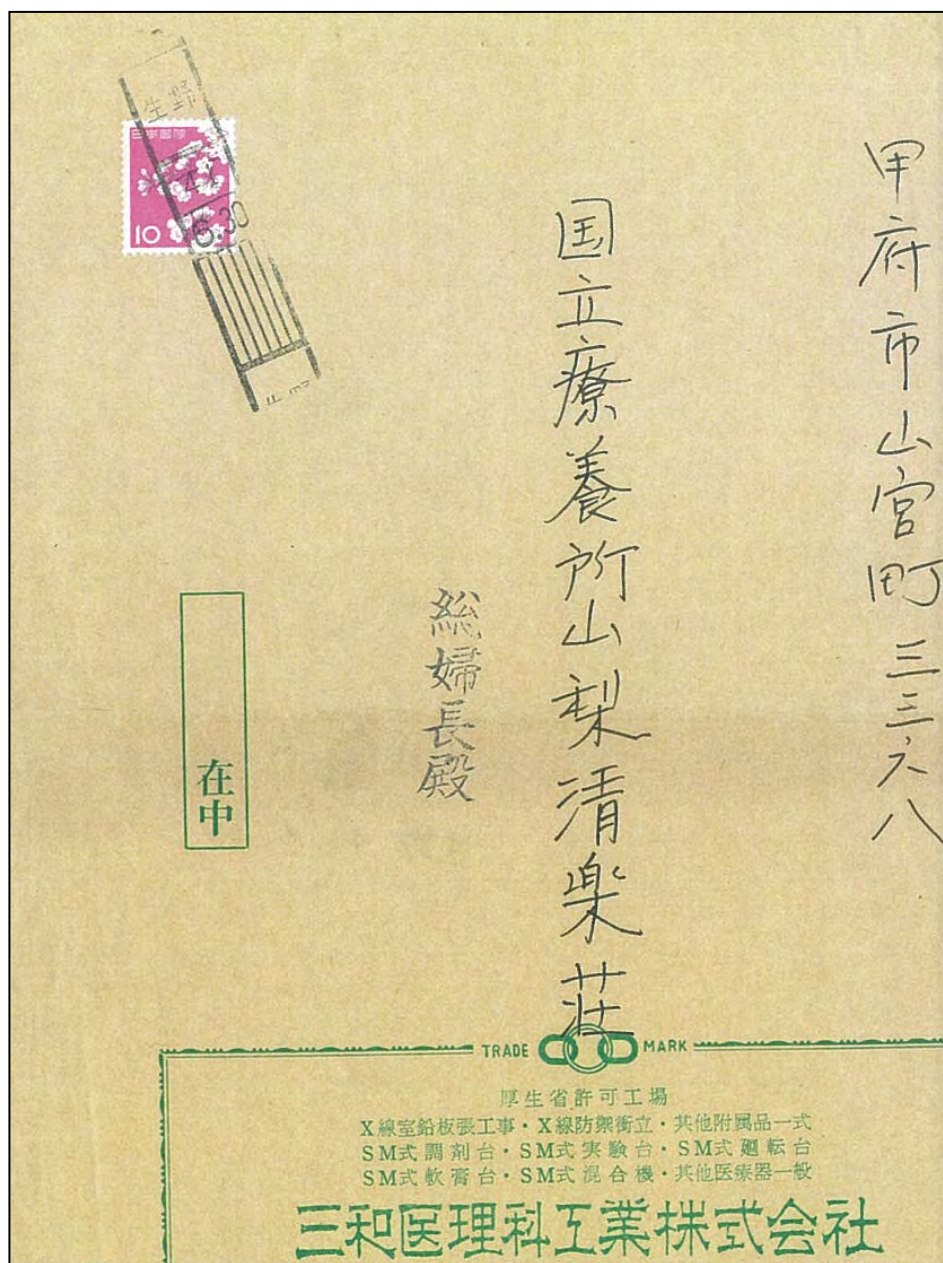


図4 重量制料金最終日使用例 生野→甲府 昭和41.6.30 1961年桜切手単貼り

ここからが、戦後の郵便史の一面の、収集家にとっての現物エンタィアの収集と開示になる。41年7月1日大改正の郵便法のもとで、どのようなエンタィアがあるのか、改正が行われた結果どんなエンタィアが見つかったか、新旧制度の改廃などが具体化したエンタィアがあるかどうか、上記1～10項目の中から実例を示してみたい。

図4は掲出した新旧第1種郵便料金表から見つけた第1種書状で、重量制料金の最終日引受け（41年6月30日）のものである。縦28センチ、横21.5センチもある大型封筒（国内展示用リーフと同サイズ）であるのに、重量はたったの20g以下の軽量であった。郵便料金はこれでも10円！郵便機械化にはとても対応できないほど大きい封筒が第1種書状として引受・配達されていたことがわかる。

定形、定形外サイズは郵便葉書にも適用された。図5は縦21.3センチ、横15センチある絵葉書である。従前の取扱いでは、第1種書状扱いになるため10円料金でよかった。図2は定形最大サイ

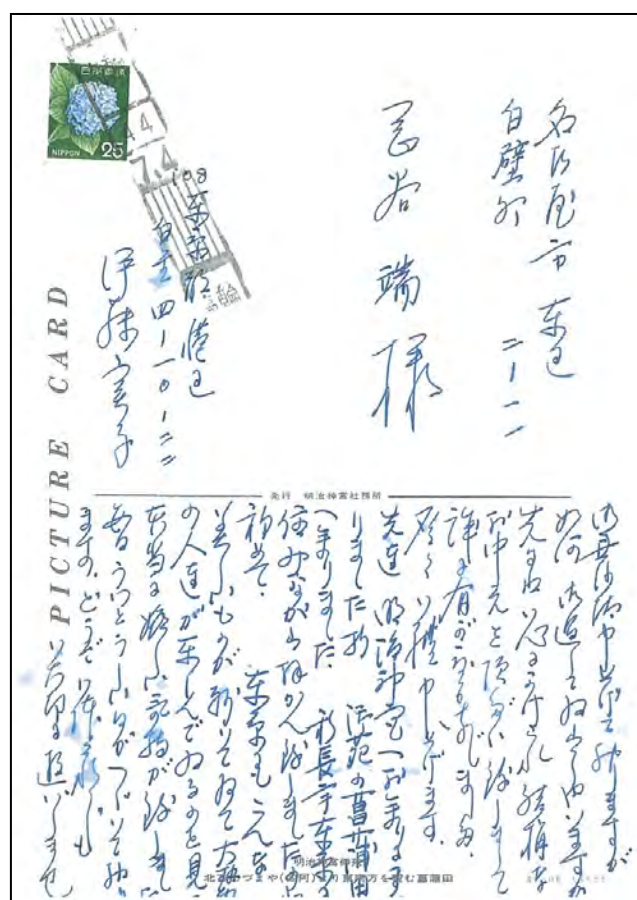


図5 大きすぎて第1種定形外扱いとなった葉書
1966年 25円単貼り 高輪→名古屋 昭和44.7.4

ズ（横12センチ）の横幅を越えているため、定形外郵便扱いとなり、定形外料金分の25円切手が貼付されている。

図6は郵便料金最終日に「第5種郵便」を表示して前日に差出された郵趣家便である。41年7月1日に引受けられていて、第5種郵便物が定形郵便物に統合された初日ということになる。

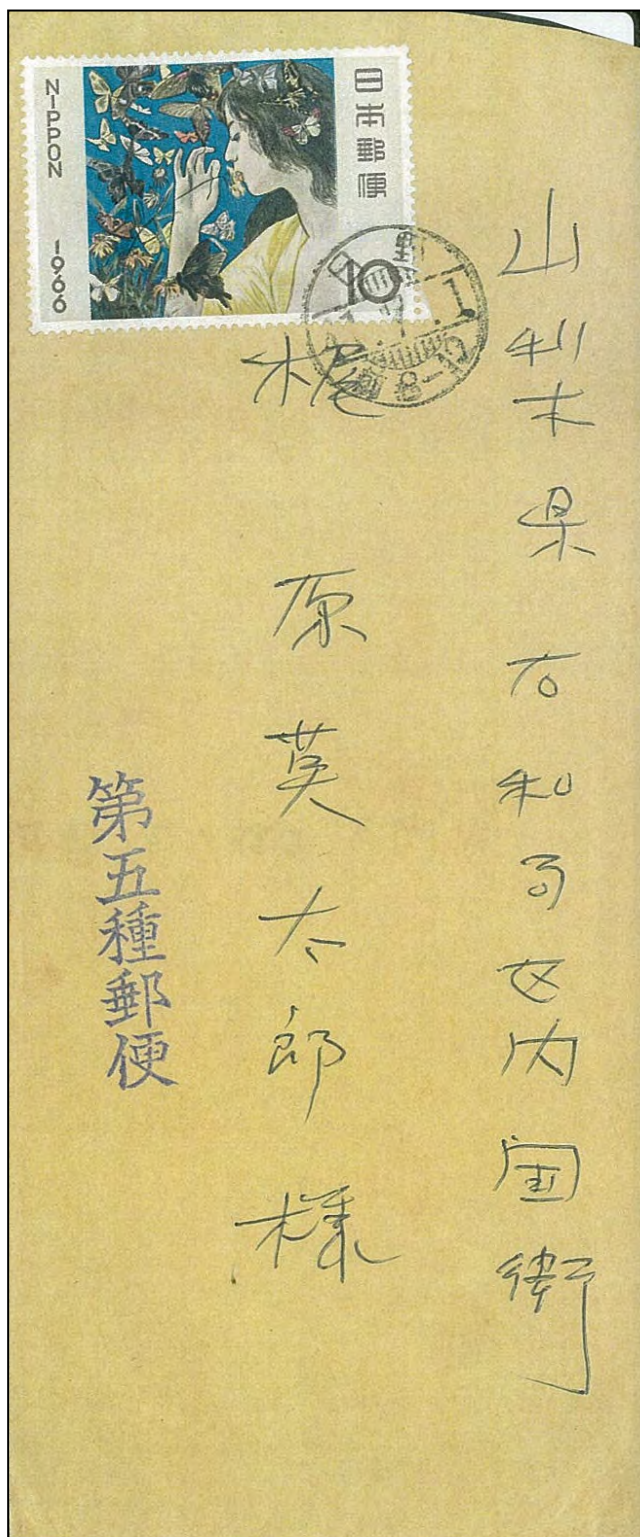


図6 第5種郵便最終使用例・サドル便
1966年趣味週間単貼り 日野→山梨・石和 昭和41.7.1

図7は旅館からもらった“うちわ”をそのまま郵便物として差出したものである。従前なら、第5種郵便となるところである。郵便物が定形サイズ内に納まっているが形状から定形外扱いとされた。

改正料金の中で最も面白いもので、密かに手に入れようとながら20年以上も待っていたエンタィアが、図8の段階料金の速達郵便である。重量 300 gまで75円の定形外郵便を速達引受した時、2段階目の速達料金70円が加算された、速達料金改正翌月の使用例である。

書留制度（6）が改正され、新たに簡易書留郵便が発足した。図9はその制度開始初日に差出された郵趣家便である。

旧料金時の第1種書状の最小寸法は、長さ12センチ、幅7センチであった。図10は当料金改正後の、経過措置期間最終日（43年12月31日）に郵趣家相互間に差し出された最小寸法（長さ12センチ、幅7センチ）の定形書状である。



図7 第5種取扱だった「うちわ」は第1種取扱となり、更にその形状から定形外となった。東京塩尻間 鉄郵。

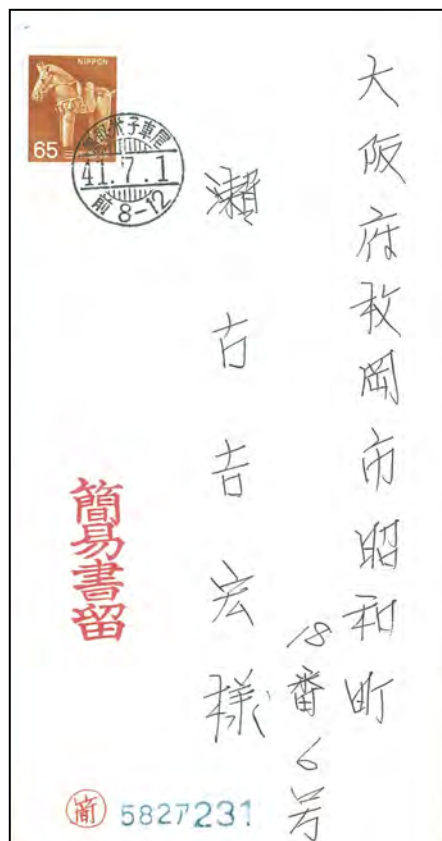


図9 簡易書留初日使用例
鳥取・米子車尾 昭和41.7.1

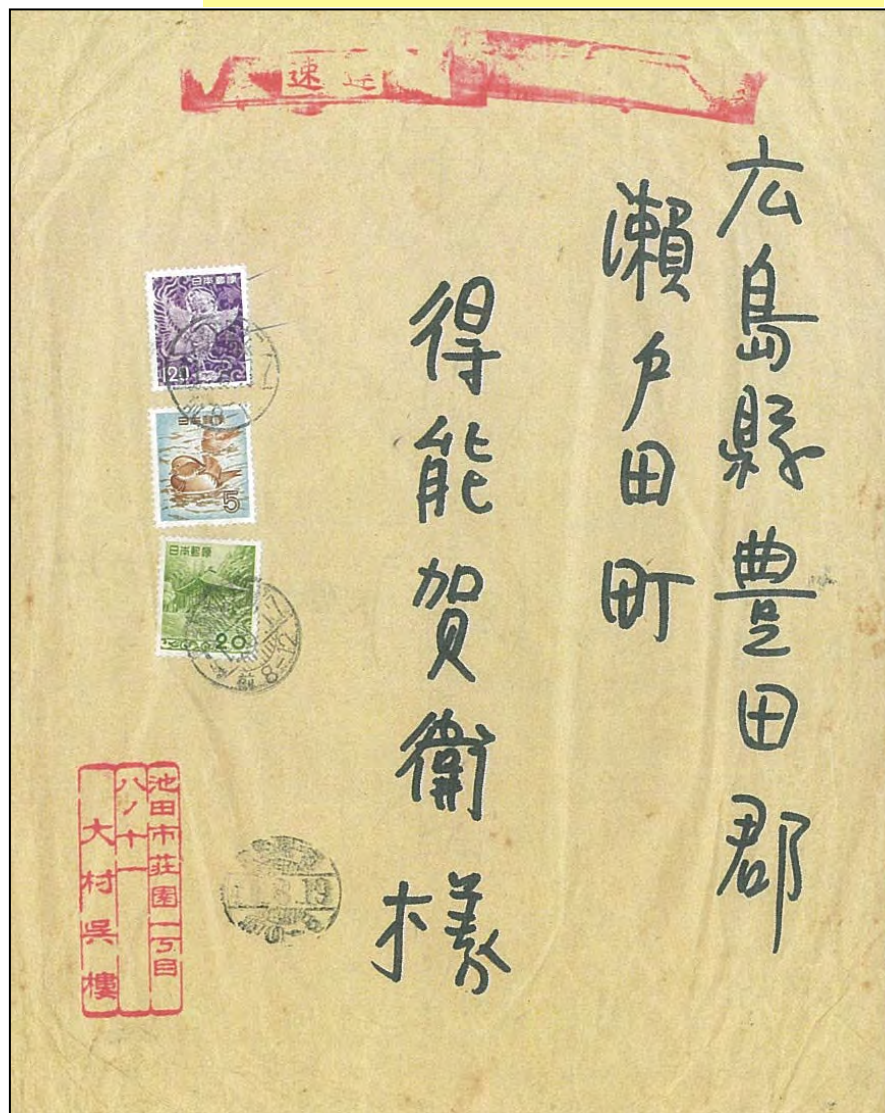


図8 段階料金の速達郵便の使用例
第1種定形外300gまで 75円 + 速達二段階目料金 70円 = 145円



図10 昭和43年末まで経過措置で容認された、旧第1種郵便の最小サイズによる書状使用例
京都中央 昭和43.12.31→調布 昭和44.1.1

41年7月の「郵便窓口日記」

郵便法法案の成立までの期間は長かったが、6月3日法案成立、8日公布、7月1日施行という短時に部内外への周知から具体的な取扱い方についての検討までを果たさなければならないことになり、全国の郵便関係者の間で不安が等しく高まったに違いない。

東京中央郵便局窓口集配部が書いた「41年7月の『郵便窓口日記』－郵便法改正後の1か月を振り返って－」（『郵政』41年11月号 22～24ページ。）より紹介したい。

7月1日（金）。新郵便法施行と10種類の新切手類発売の初日、局内は朝から異常な雰囲気である。

引受郵便物数中、普通通常の別後納は…6月30日の約280万通（前年6月30日の約110万通に対して2倍半強）、消印を要するもの約138万通（前年同日の約40万通に対して3倍半）という膨大な量となったが、これは予想通りの数であった。

まず早朝からの切手マニアの行列が局舎を終日取り巻いた。

引受窓口では、初日から簡易書留8万6千余通の引受に忙殺される。大口利用者は簡易書留を利用するのはいいけれど、株主から「大会社ともあろうものが10円を節約するのか」と文句が出そうなので今後の利用についてはもう一度考えたいと、前途多難を臭わせた。

従来の第5種がどうなっているのかという電話取合わせが圧倒的に多く、その説明に時間がかかった。

7月2日（土）。改正前日の郵便物が内務係へどっと到着。普通通常は2号便配達で約20万通、配達3号便で約19万通が未処理となった。

7月4日（月）には内務係での未開披大郵袋が550個

7月6日（水）。新制度に対する電話照会は相変わらず多い。苦情は圧倒的に定形郵便物に集中していた。「2ミリ大きいだけで定形外の料金を取るのか」と朝からお客さんに怒鳴り込まれる。

7月11日（月）。従来の1種と5種を定形・定形外で比較してみると面白い結果がでた。前期約78万通の1種に対して定形は約60万通（77%）、第5種212万通に対して定形外は約40万通（19%）。総体が減少しているので、「定形化」の方向へ質的に変化していることがわかる。

7月31日（日）。月計からみると、第1種普通通常の引受総体は約594万通で前期の約61%にすぎないものの、うち定形約423万通（71%）、定形外が約171万通（29%）という結果がでた。

引受総数を前期と対比すると、前期第1種24.4%対第5種75.6%であったのが、定形71.3%対定形外28.7%と、その関係がまったく逆になっているのは、法改正の意図するところを考え合わせて、事業の将来のために喜んでいいだろう。

これまで、いくつかの研究誌や同人誌などに和欧文機械印（以下和欧文）に関する記事が掲載され、私も何度か投稿を掲載して戴いた。少々は収集対象としている方が増えてきたかと期待している。

モチロンこんな狭い対象ながら収集方法はいくつかあるようだ。本誌第1号に掲載されたような単片上で局名を追いかけるもの、それをカバーで行うもの、台切手にこだわるもの、などなど。

筆者は和欧文の生まれた歴史、郵政の事情や社会の変化に伴う変更、流れに逆行する変化などやポイントとなるものを収集している。それらを順不同で紹介していきたい。

【第1期】渋谷の標語無し

和欧文は1968年12月の使用開始で、その後現時点で45年が経った消印ではあるが、郵趣史から見れば新しい部類に入る消印である。（表1）

分類	特徴	使用時期
第1期	国名入り縦波6本	1968.12.1～1979.8.31
第2期	元号入り縦波6本	1979.9.1～1990.9.30
第3期	元号入り横波2本	1990.10.1以降現在まで

表1 和欧文の大分類

そんな新しいものでも収集の難しいものが存在している。それらの中で横綱クラスとして出現直後より有名なものが、渋谷局でわずか13日間使用された標語無しである。

表2にも示すが、1968年7月1日には郵便番号制度がスタートし、それに先立つこと1ヶ月の6月1日より郵便番号制度の宣伝をする標語入り

日付	概要
6月1日	標語入り和文機械印使用開始
7月1日	郵便番号制度開始
12月1日	和欧文機械印使用開始
12月29日	標語無し機械印併用開始（翌年1/10まで）

表2 1968年の郵便番号宣伝標語に関わる年表

の和文機械印が使用された。これは全国一斉に切り替えられ、極わずかの例外（恐らく切り替え忘れ）を除くのみで本当に一斉の切り替わりであった。その標語入りが使用されて6カ月後の12月1日より和欧文が使用された。和欧文は当初より標語入りが使われ、1978年10月に標語無しへと再び切り替わり始めるまでは、この渋谷を除けばただ1つの例外もない。

では、何故渋谷で標語無しをわざわざ使用したのであるのか？これは郵政当局の指示によるものであった。参考文献1にその通達が掲載されているので引用しておく。

昭和43年12月29日 事業周知用通信日付印の使用について（郵業金-1251号）（大阪郵政局報郵便版第424号、43年12月18日）

「自動押印機、卓上押印機および書状自動押印機（以下「押印機」という。）に使用する標語入りの刻印（配備局のみ）を使用することになっているが、昭和43年12月29日から昭和44年1月10日までの間に使用する押印機の刻印については、一般の刻印を使用することとするから、行き違いのないよう取り計わりたい。ただし、押印機が2台以上配備されている郵便局にあっては、特定の押印機をお年玉つき年賀はがきの消印に使用する場合は、お年玉年賀はがき用の押印機を除き郵便番号記載奨励に関する標語入り刻印を使用するものとする。」

これは大阪の例であるが、東京でも同様な通達がなされたはずである。今読み返してみても分かり難い文章であるが、要は

（1）12月29日から1月10日の間は機械印が配備されている局は標語無しの印を使用せよ。

（2）2台以上ある局は官製の年賀はがきには標語無しを、それ以外には標語入りを使用せよ。ということである。

この通達が無された理由は何であろうか？通達には理由が明記されていないので明確には分からない。推測で申し訳ないが筆者の考えを記させて頂く。

まず膨大な量が短期間に差し出される年賀状を効率良く捌くために、1962年用を最後に大きさのマチマチな封書の年賀特別取り扱いを廃止した。また1962年用より官製の年賀はがきの印面の下に消印の図を印刷して年賀特別取扱期間のうち12月28日までは消印を省略することとした。

1969年用の年賀はがきには郵便番号の普及宣伝のため、消印の図の下に「あなたの住所にも郵便番号を」という標語も印刷した。(図0) その標語と消印の標語と2重に標語を示すことを避けるためであったと考えている。



図0 年賀葉書料額印面下部の変化

空白スペースに1962年用以降は消印の図を印刷した。また、1969年用にはさらに標語も印刷した。

そのため、年賀はがきには標語無しを、それ以外には標語入りを使用させたのであろう。実際にはそれほどキチンと運用されていなかった。普通の官製はがきや切手貼りの私製はがきに押印するため12月28日までに44.1.1年賀と入った印が標語無しで全国かなりの局にて使用されたし、12月29日以降には標語入りを官製年賀はがきに押したり、標語無しを普通はがきや私製はがきに押した実例が豊富に残されている。

さて、12月29日時点では和欧文は当初の9局に加え、川口が12月8日に使用を開始したため10局が使用していた。(表3) その中で渋谷のみがこの通達に従って和欧文に標語無しを組み込んだのであった。ところで、和欧文は自動又は簡易取り揃え押印機に組み込まれており、その機械

には先端部と末端部の2か所に押印部があった。あまり知られてはいないが、渋谷局ではこの2か所のうち、末端部の1つだけ標語無しを組み込んだのであった(参考文献2)。これは当局の意図とは異なり、押印部が2つあれば1つを標語無しにと解釈をされたのであろう。

この印を郵趣界で最初に報告したのは丸島氏であった。恐らく1月5日に自宅に届いた年賀状の1通にこの印が押されていたか、収友から連絡が入ったのであろう。これを見たあるいは聞いた彼は早速渋谷局に出かけ自分宛てにはがきを差し出した。何通差し出したのかは記録が残されていないが、1通が現存し発表されている(図1)。

郵便局名	使用開始日
東京中央	1968/12/1
芝	1968/12/1
新宿	1968/12/1
日本橋	1968/12/1
渋谷	1968/12/1
川崎	1968/12/1
鶴見	1968/12/1
横浜中央	1968/12/1
横浜南	1968/12/1
川口	1968/12/8

表3 和欧文機械印
初年度の使用局

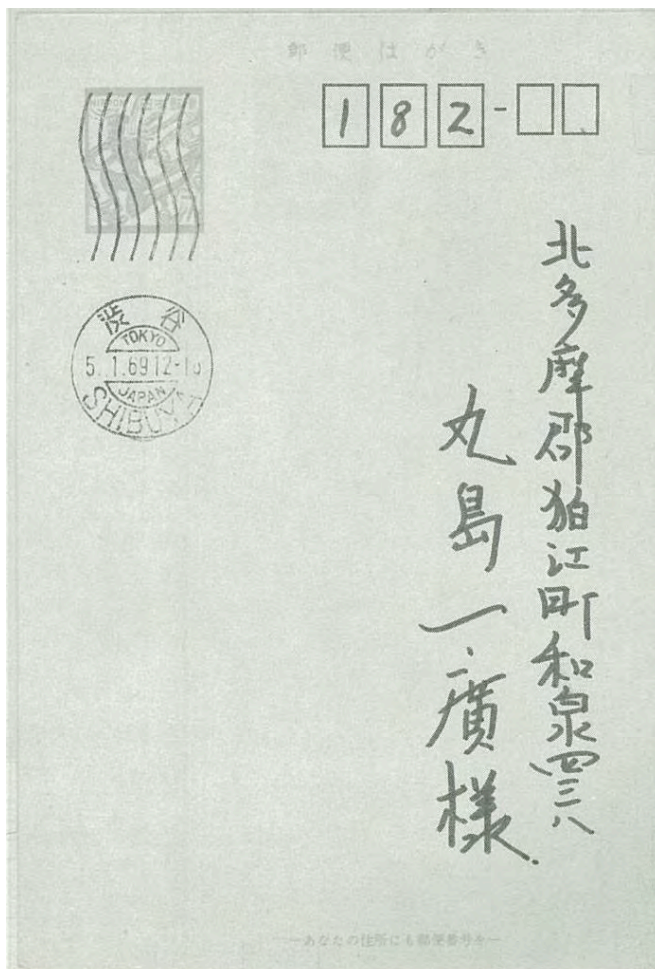


図1 渋谷 TOKYO 5 1 69 12-18 JAPAN SHIBUYA

また彼は発見後、少なくとも1989年7月までは封書1通とはがき約10通の確認と発表している。この封書1通とは参考文献3に掲載の図2である。

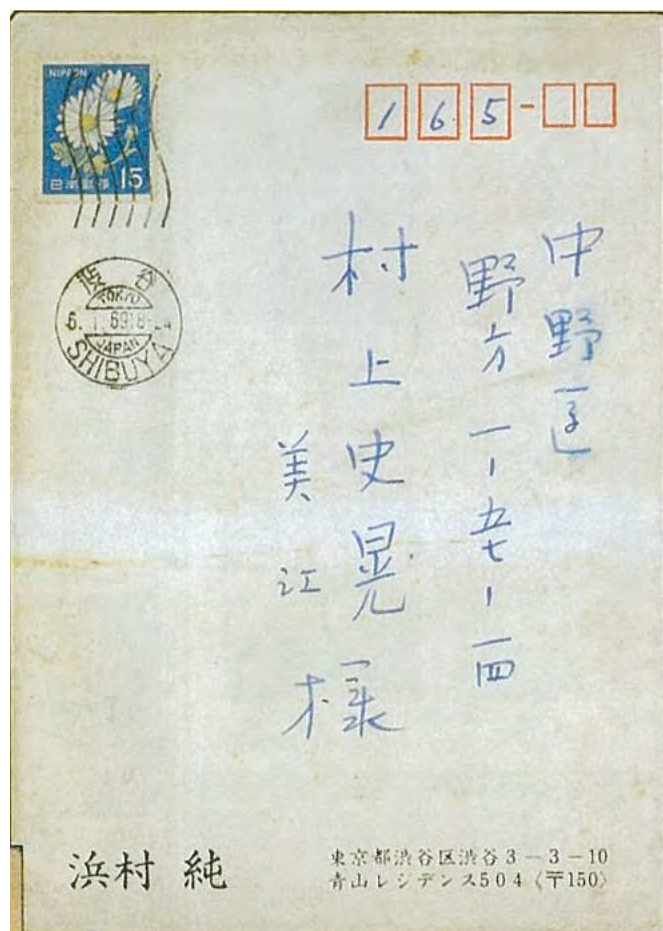


図2 第1期 標語無しの封書使用例 (1/6)

はがき約10通の詳細は発表されてはいないが、図1に加えて参考文献2に掲載された図3と参考文献4に掲載の図4は約10通の中に含まれていると推測される。



図3 1/9の使用例

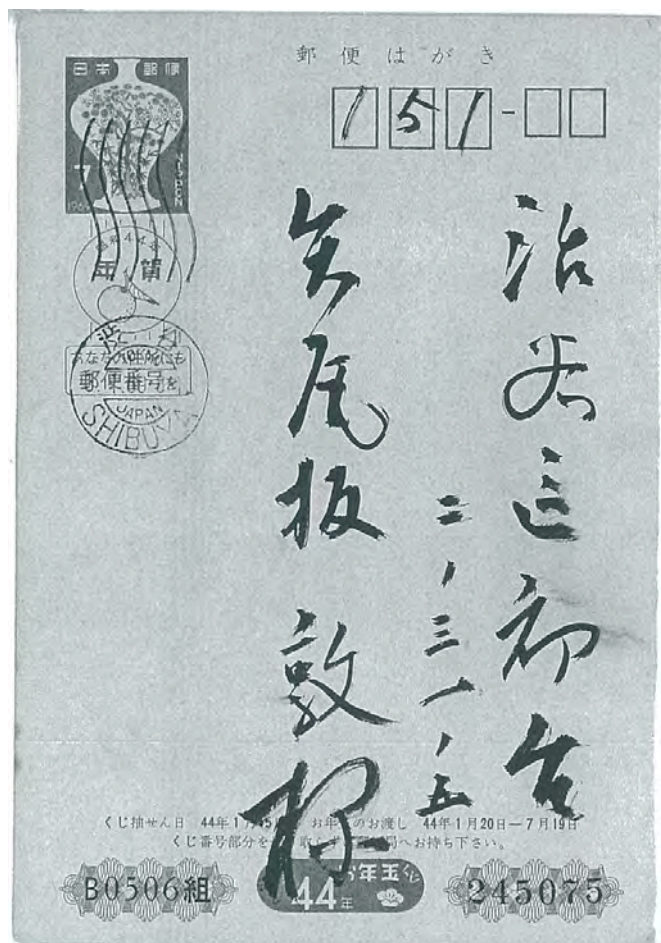


図4 1/3の使用例

筆者はコピーでの確認を含めその約10通以外と思われる封書1通とはがき6通の実物またはコピーを所有している。カットや単片も少数見ている中の2点コピーを所持している。それらが図5～13である。

- | | | | |
|-------|--------|-----|--------|
| 1月 2日 | 12-18 | 図6 | S.K氏蔵 |
| 1月 3日 | 8-12 | 図4 | 参考文献4 |
| 1月 3日 | 18-24 | 図10 | 藤田俊則氏蔵 |
| 1月 4日 | 8-12 | 図8 | 筆者蔵 |
| 1月 4日 | 8-12 | 図11 | 鈴木盛雄氏蔵 |
| 1月 5日 | 12-18 | 図1 | 参考文献5 |
| 1月 6日 | 18-24 | 図2 | 参考文献3 |
| 1月 7日 | (8-12) | 図12 | 鈴木盛雄氏蔵 |
| 1月 7日 | 12-18 | 図5 | S.K氏蔵 |
| 1月 8日 | 12-18 | 図13 | 藤田俊則氏蔵 |
| 1月 9日 | 12-18 | 図3 | 参考文献2 |
| 1月10日 | 12-18 | 図7 | 藤田俊則氏蔵 |
| 1月10日 | 18-24 | 図9 | 筆者蔵 |

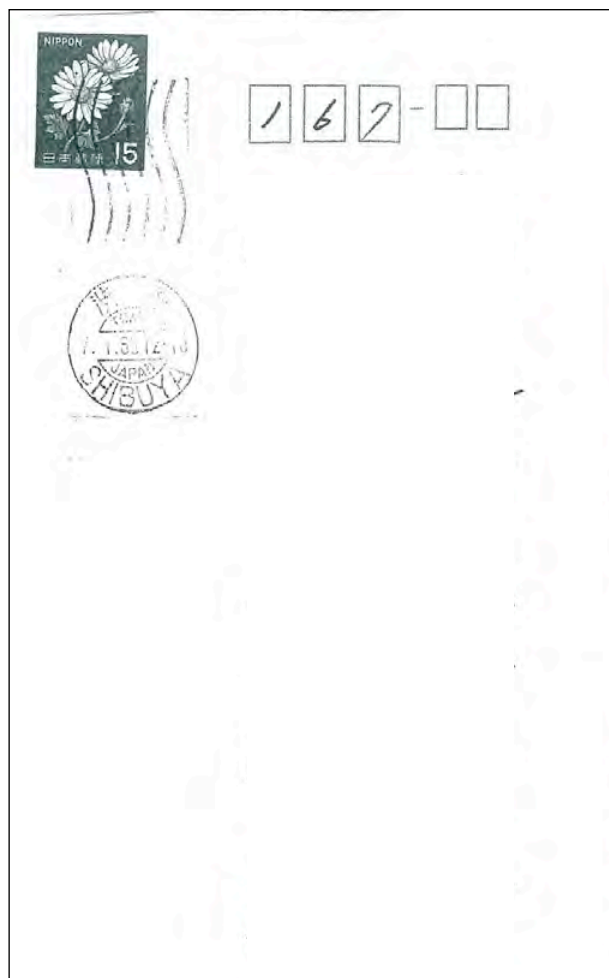


図5 1/7の使用例（宛先を画像から消去しました）

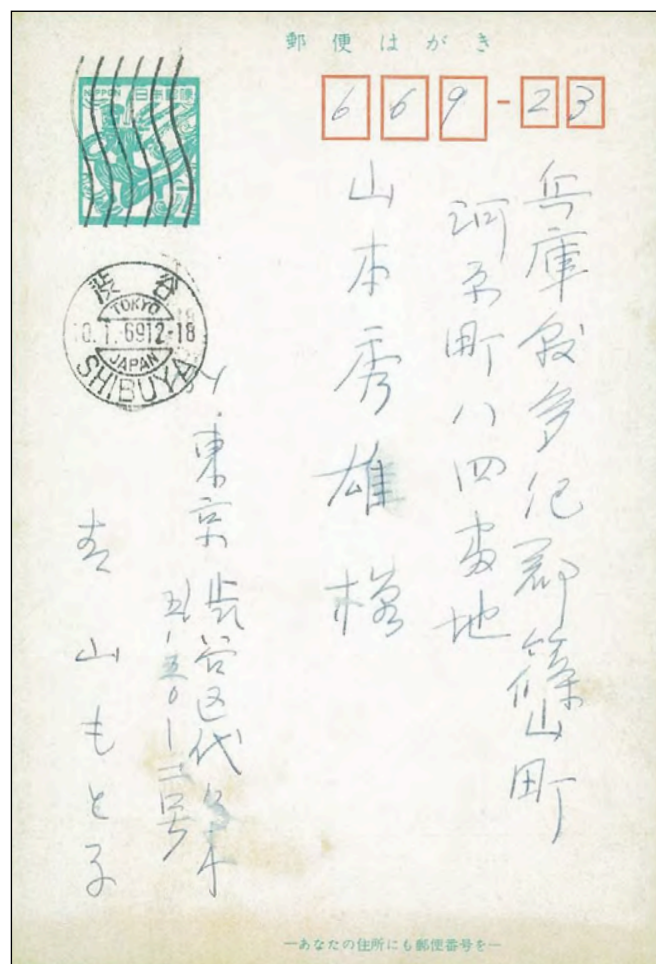


図7 1/10の使用例

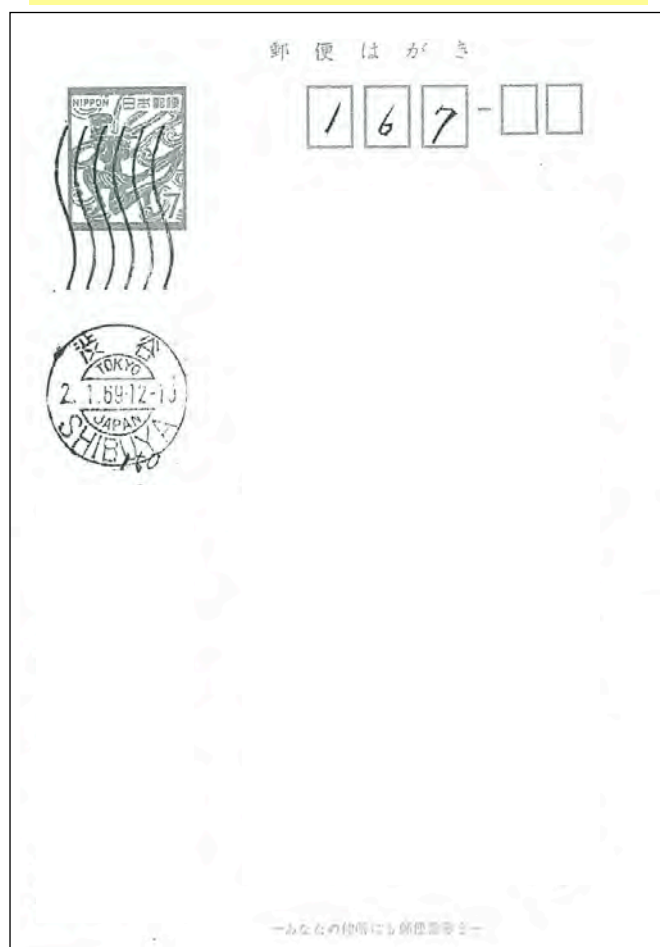


図6 最初期印として知られる使用例(1/2) 宛先等消去

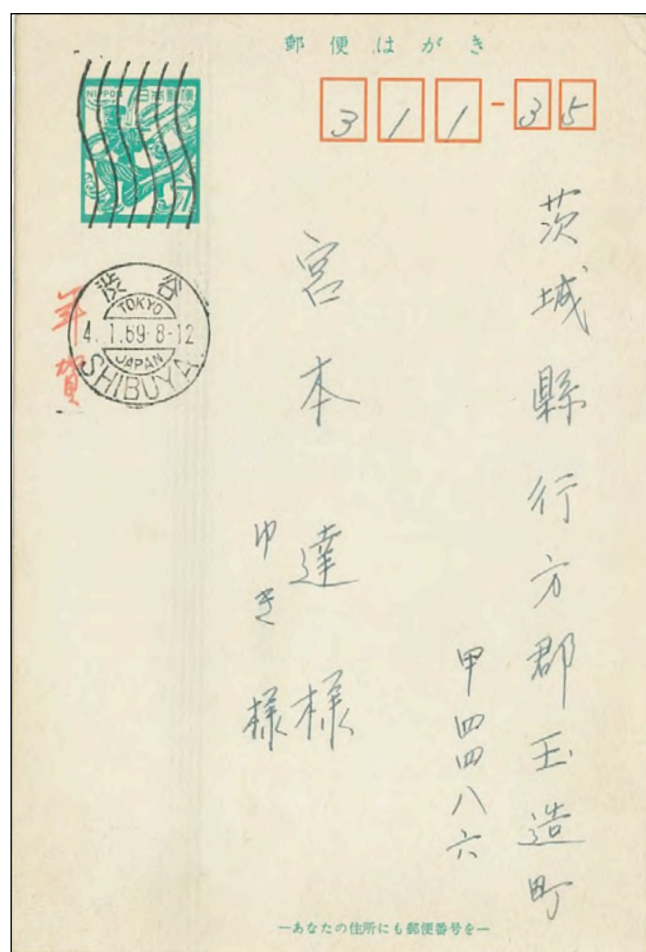


図8 1/4の使用例

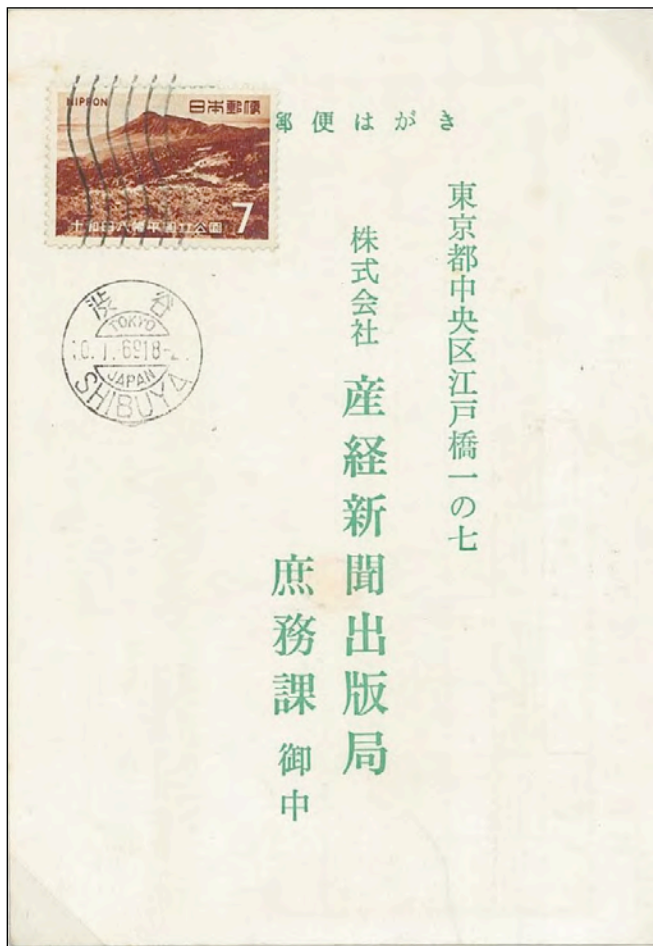


図9 最後期使用例 (1/10 18-24)

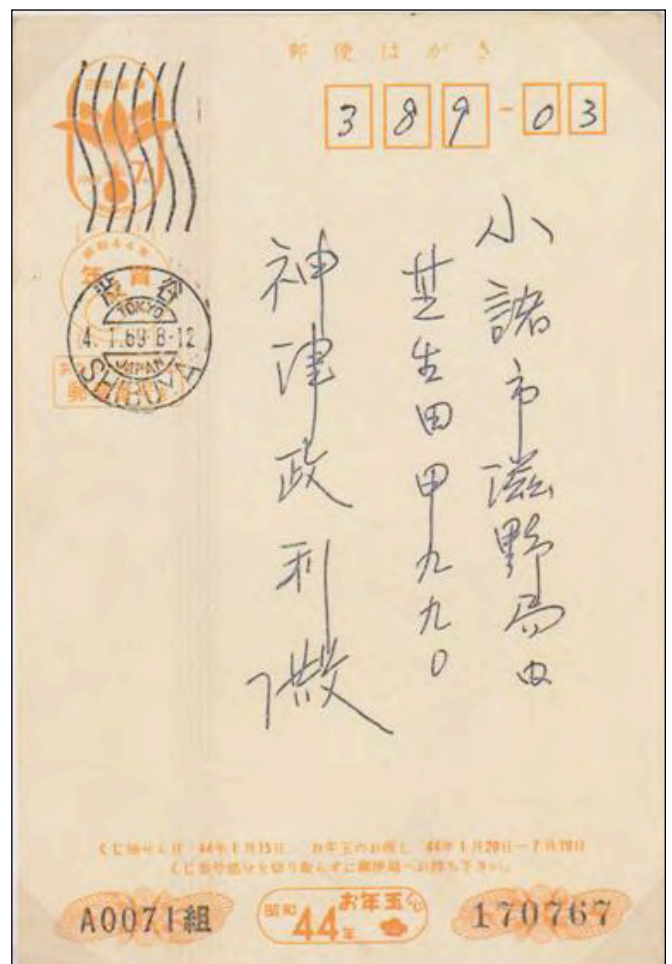


図11 1/4の使用例

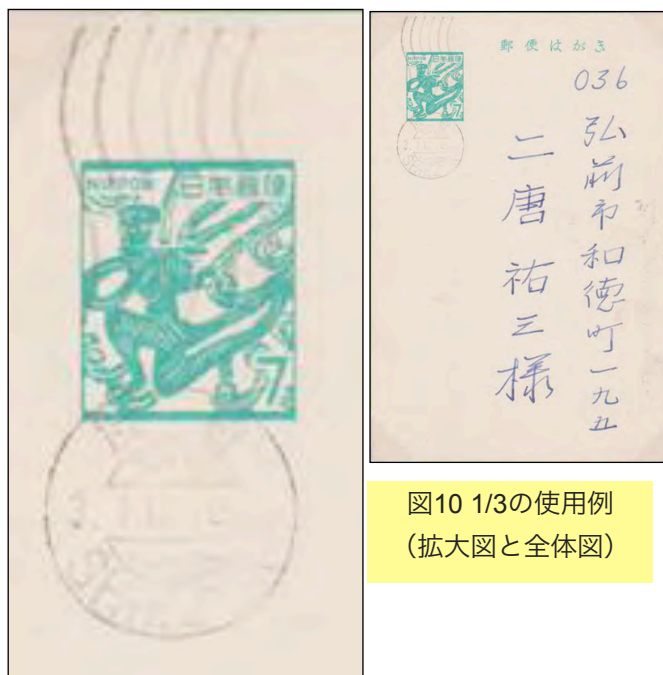


図10 1/3の使用例
(拡大図と全体図)



図12 1/7の使用例



図13 1/8の使用例

使用期間に関しては当初より情報が錯綜していたようであった。参考文献3では1月5日から9日とされているし、参考文献4では1月1日より数日間と記されていた。丸島氏は12月29日から1月10日の13日間としている。筆者は通達に記されていることより丸島氏の意見を支持している。しかし、筆者の現在までの確認は1月2日か

ら10日であり、残りの4日間特に1968年中の使用例の発見が望まれる。

この取り揃え押印機に2か所付いている押印部のもう一方先端部には標語入りの刻印が取り付けられていた。この13日間の使

用例とそれと判断出来る単片とカットをお見せしておこう。

図14が1968年12月30日の使用例である。

図15の単片2枚は肝心の標語部が見えないが、1969年1月7日と10日であり、標語無しでは波部とデータサークルの間が5.5mmに比べ標語入りでは2mmと狭くなっていることより判断できる。

最後に渋谷局の和文機械印も示しておく。図16は年賀はがきに押されたものだが、1月2日で標語無しが押されている。

筆者がエンタィアの詰まった箱から図9を発見・入手したのが約10年前、図7はその後の発見と聞いている。図8は発見後ネットオークションに出品され、筆者が落札してから2年も経っていない。今後更なる発見が期待できるアイテムである。読者諸氏からの新たな報告を望んでいる。

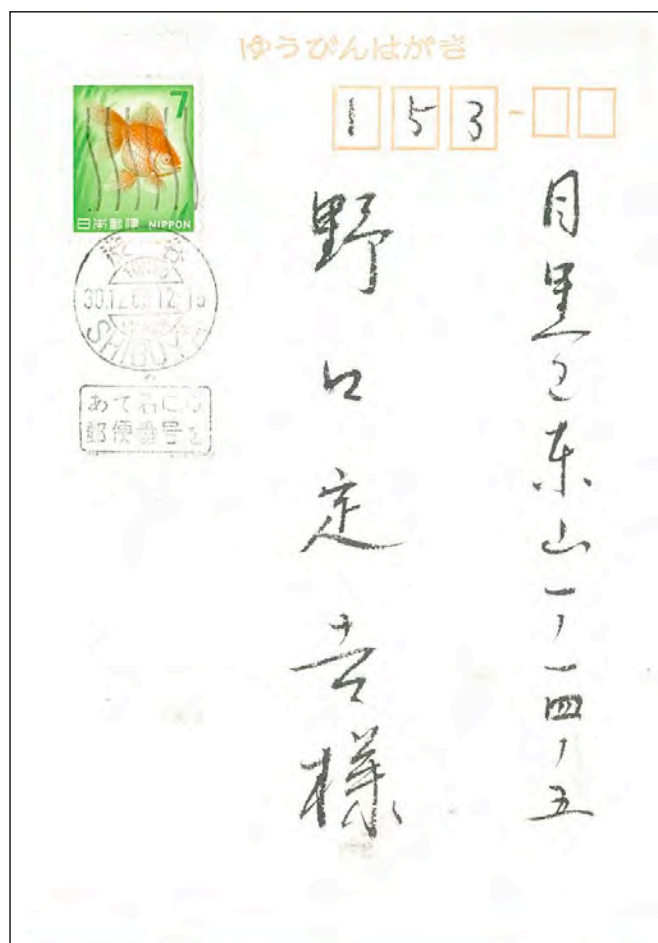


図14 標語無し印併用期間の、標語有り印 (12/30)



図15 標語無し印併用期間の、標語有り印 (1/7,1/10)

参考文献

1. 戦後の郵政資料第4巻
(行徳宏氏 2007年)
2. 「和欧両文表示日付印(1)」
(藤江球生氏) 全日本郵趣 1972年8月号
3. 「現代の機械日付印」(丸島一廣氏) 日本
フィラテリー 1989年7月号
4. 「和欧併示機械日付印」(森賀節行氏)
「泉」39号(1993年12月1日)
5. 現行切手ミニペックスの記録
(JPS現行切手例会 1979年)

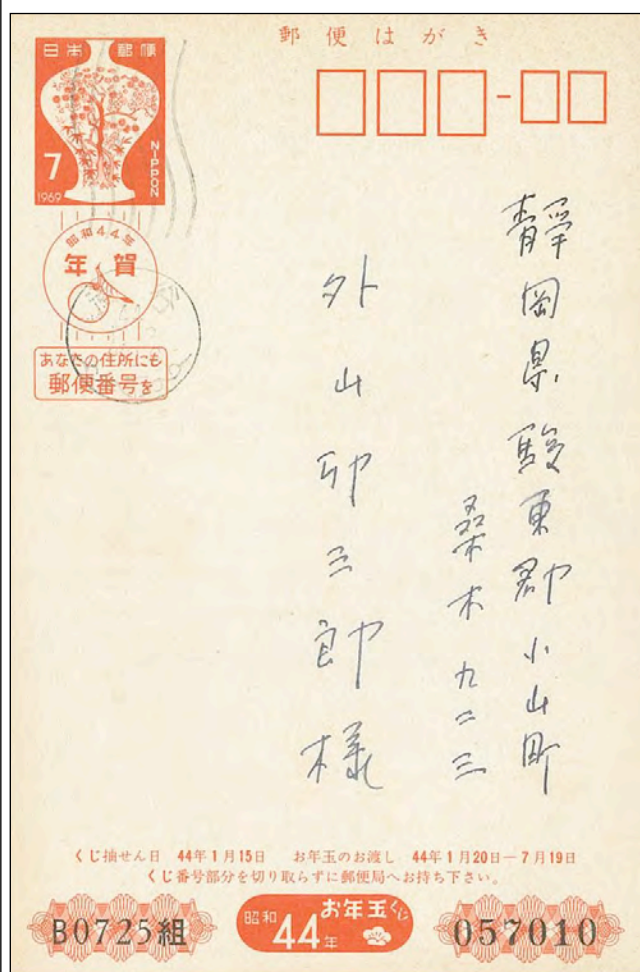


図16 標語無し和文機械印渋谷 S44.1.2

試行ローラー印は当初、昭和50年4月1日（1975）から昭和51年12月31日（1976）までの2年間の試用期間で使用が開始されました。

上記期間の印影を一期と分類していますが、これに加えて追試の形で昭和53年（1978）までの2年間、二期の印影が使用されました。

使用頻度の高い大局（芝・高輪）等は2年目の昭和51年には使用をやめています。いろいろ理由は考えられますが年号の脱落、強度の点に問題があったようです。

二期の試行ローラー印は、これらの点を改良したもので、そのテストの為に、再度昭和52年11月1日から試用が再開されたのです。

今回は、色々問題のあった、一期印に関わるものを中心にバラエティを紹介したいと思います。

①丸亀の半欠け印（昭和51年）

あまり見掛けない局で難局の1つですが、試用開始直後の完全な状態の印影（図1）と試用末期の欠けている印影（図2）の両方をお見せします。

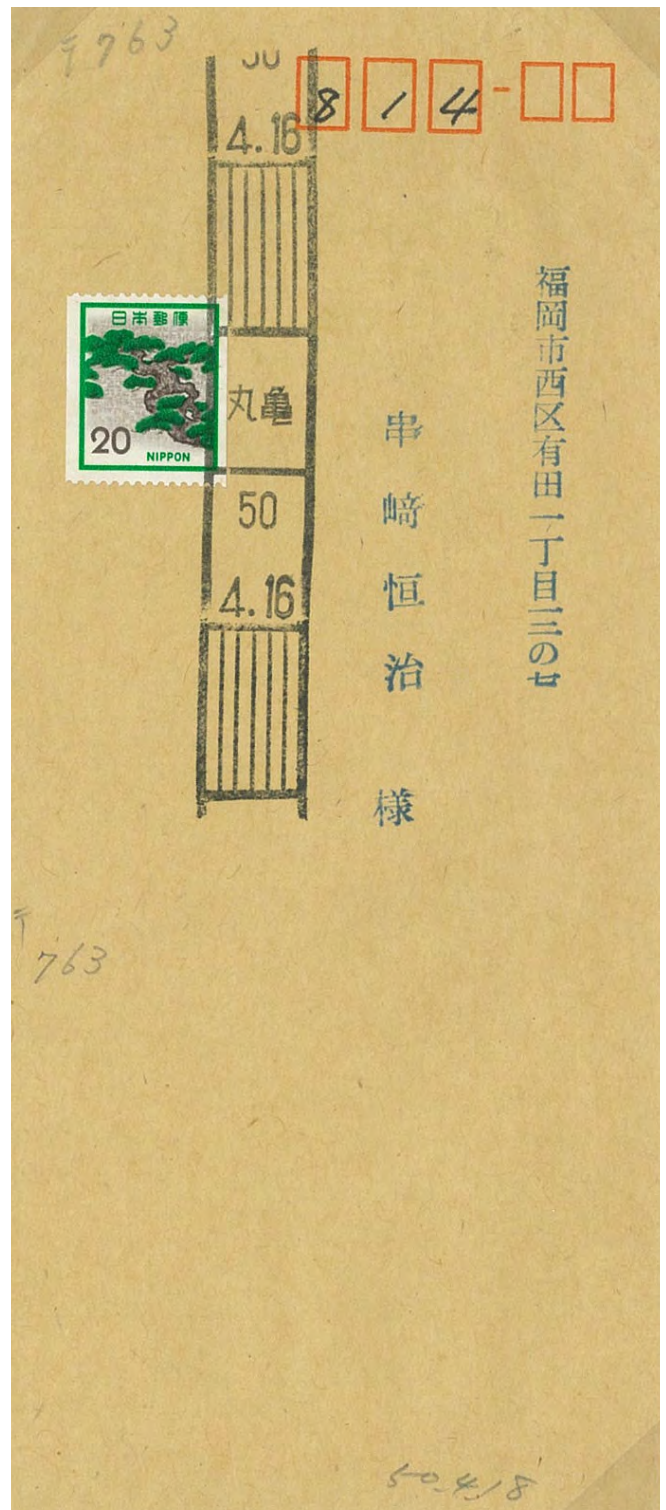
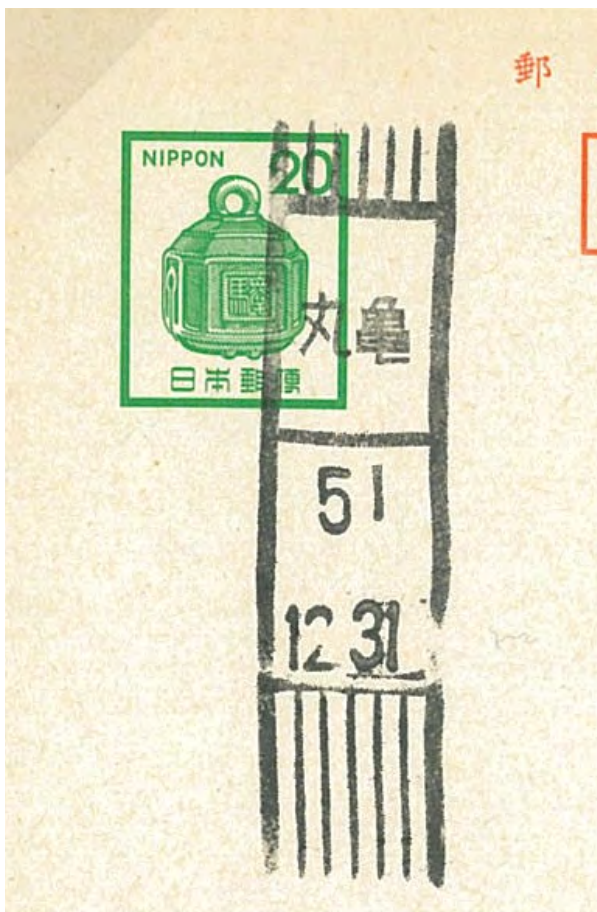


図1 丸亀局の試行ローラー印（昭和50.4.16）

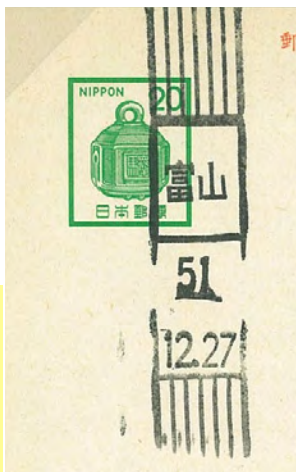
当初は問題があったわけではない。
使用開始直後の完全な状態の時の印影

（←）図2 日付部分の右側の線が欠けた丸亀局の
ローラー印、試用末期の印影（昭和51.12.31）

②富山の半欠け印（昭和51年）

使用頻度の多い局で多く残っていますが、試行ローラー印一期の強度について語るには必要なマテリアルです。（図3）

図3 年号部分の両側の線が欠けた富山局のローラー印
試用末期の印影
（昭和51.12.27）



③門司局。二期に一期印を誤使用（昭和53年）

試行ローラー印は、年号活字を入れ替えて使用できるか試用するために制作されました。

したがって、昭和53年から開始された二期においても、一期用のローラー印の外枠に年号活字をはめれば使用できるというロジックは成立します。

しかし、実際に第二期に使用された第一期の印影はほとんどありません。

図4はカバーでないのが残念ですが、貴重な印影です。

今後、発掘が広がり、誤使用の状況が解明されることを願っています。

図4 第二期に誤使用された第一期の印影
（門司、昭和53.?.17）



④福山。年号活字の逆差し込み

試行ローラー印の年号活字は、構造上ローラー印本体の台形の穴に差し込むように作られています。

この年号活字を向きを逆にして穴に差し込んで使用してしまうと、図5のような印影になります。

同様の使用例を芝局および灘局で確認していますが、恐らく他にもあると考えています。

欧文の月活字を代用活字として使用した福山局の使用例が、昔のP.O.BOX誌に掲載されていましたが、あれはローラー印にガタがきていたので調整してはめ込んだのではないかと推測しています。



図5 福山局

⑤四日市。月活字の天地逆。（昭和53年）

月活字や日活字を天地逆に取り付けてしまう事は構造上起こりえます。（図6）

図6 月活字の天地逆
（調布 昭和53.?.9）



以上、試行ローラー印の構造にまつわるバラエティをご紹介します。

なお、二度にわたる試行期間を経て、一期のバラエティの原因となった問題点を改良した二期印で問題ない事が確認されたため、昭和56年1月1日（1981）から全国に配付するローラー印として、二期と同様の物が正式に採用されました。

昭和56年1月1日(1981)から正式に年号植替式のローラー印が全国に配備されました。

新型の配備は全国統一であり、昭和55年まで使用されてきた直彫のローラー印の配備はないと予想されていましたが、実際には東京郵政、九州郵政(沖縄含む)の一部の局と大阪中央局で使用例が見つかります。(表1に使用局一覧)

直彫ローラー印の年号位置は、年号植替式ではありえない位置となります。(図1)従って一見してその違いは分かるのですが、その使用について試行ローラー印のような告知がなかったため、ごく一部の印影を確認した人しか当時は気づきませんでした。



図1 年号直彫式(左)と年号植替式(右)
年活字が縦方向に中央に位置するのが直彫式、
上よりに位置するのが植替式の特徴である。

県名	局名	昭和56年	昭和57年	備考
東京	東京中央	○		
東京	東京中央・日比谷パイクビル内	○		分室
東京	東京中央・観光ビル内	○		分室
東京	東京中央・大蔵省内	○		分室
東京	日本橋	○		
東京	京橋	○		
東京	神田	○		
東京	豊島	○		
東京	豊島・巣鴨	○		分室
大阪	大阪中央		○	
福岡	田主丸	○		特定局
福岡	豊前	○		
福岡	八女	○		
福岡	甘木	○		
福岡	大川	○		
福岡	前原	○		
大分	三重	○		
長崎	厳原	○		
長崎	三角	○		
熊本	熊本中央	○		
熊本	熊本中央・花畑町	○		分室
熊本	菊池	○		
熊本	熊本・阿蘇	○		特定局
熊本	荒尾	○		
熊本	熊本東	○		
鹿児島	鹿児島南	○		
鹿児島	揖宿	○		
鹿児島	国分	○		
沖縄	首里当蔵	○	○	特定局
沖縄	浦添西原	○		
沖縄	浦添勢理客	○		
沖縄	沖縄・米須	○		

表1 昭和56/57年 直彫ローラー印 使用局リスト



図2 東京中央
昭和56.1.20
直堀ローラー
170円貼り
第一種定形外

収集のポイント1 比較的簡単な使用局

郵便使用量の多い時期でしたので、まとまった分量の使用済みやカバーが入手しやすい環境です。東京・大阪の普通局については、著者は長らく収集する中で、該当する郵便物をそれほど無理もせずに掘り出すことができました。（図2-4）

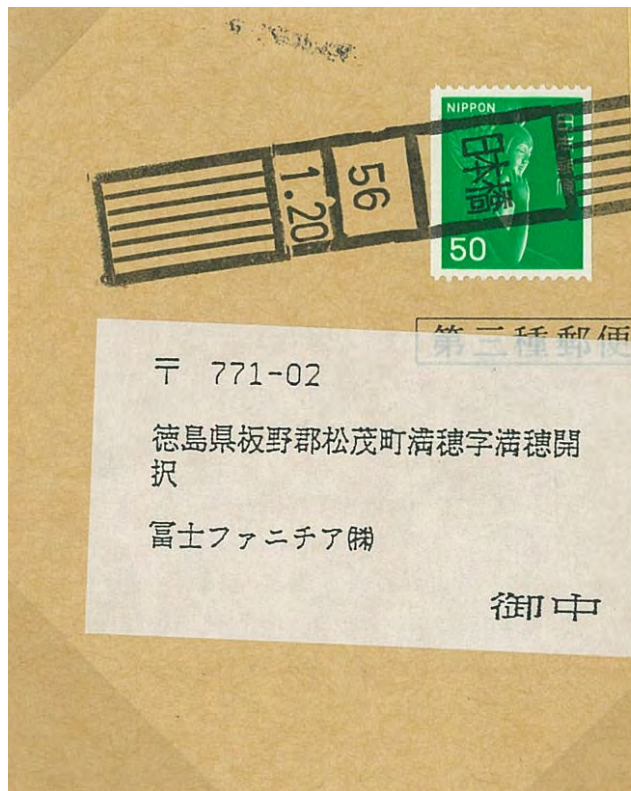


図3 日本橋 昭和56.1.20 直堀ローラー
50円貼り 第三種便



図4 大阪中央 昭和57.2.26 直堀ローラー
45円貼り 第三種便

収集のポイント2 東京郵政の分室等

東京郵政管内で苦労しないのは、あくまで普通局に限った話です。

東京中央局の分室である、大蔵省内、日比谷パークビル内、観光ビル内の三局にはCTOが残ってはいるものの、少ない様に思います。豊島局の巣鴨分室は更に難しいと思います。（図5）

カバーの入手も難しいと思います。



図5 東京郵政局管内で使用された直彫ローラー印の内、入手の難しい4局の印影

収集のポイント3 沖縄

沖縄郵政管理事務所内の局はすべて難しいです。
(図6)

首里当蔵局は以前から知られていましたが、残りの局は最近になって知りました。首里当蔵局のみは、昭和56年だけでなく昭和57年(図7)も使用しています。



図5 沖縄郵政管理事務所内で使用された直堀ローラー印、全4局



図6 昭和57年に直堀ローラー印を使用した2局の内、首里当蔵局は非常に少ない。

収集のポイント4 九州

九州郵政局管内の局は、熊本中央局以外はいずれもたいへん少ないと感じています。数多くのBOXを開けてようやく何点か収穫があるという感じでしょうか。(図8,次ページ)

特にカバーについては難易度が高く、九州のカバーは、熊本中央局くらいしか存在を知りません。試行ローラー印と違い作り物も少ないため、特に九州郵政管内の使用例は、見つけ次第高くても買いだと思えます。

まとめと考察

昭和56/57年の直彫ローラー印は、年号植替式の採用が決定する前に従来の方法で製造されていたローラー印です。

発注にあたっては毎年一回発注したのではなく、何年分かをまとめて発注したという事も推測できます。この辺りは、前後数年のローラー印の自体の比較を行う事により、解明できるのではないかと考えています。

また、昭和56/57年に直彫ローラー印を使用した局で、年号植替式の印の使用も最近見つかってきました。(九州郵政管内の某局)

このような両方式の配備は、東京郵政局管内では未確認ですが、今後解明したいと思えます。

ローラー印はあまり人気がないので、まだまだ掘り出せる可能性はあると思いますし、昭和56/57年直彫ローラー印の使用局も増えるのではないかと考えております。



図8 九州郵政局管内で使用された直彫ローラー印の一部

郵趣家便というと毛嫌いする人もいるし、収集する上で一般信より劣るものと見られている。しかしながら郵趣家便でなければ存在しないものなどがあり、収集を進めて行けば行くほどに無視できない存在となる収集家は多いのではないだろうか。

実際JAPEXでも収集家便を作品に入れて金賞を受賞した作品もあるほどである。筆者も郵趣家便にはかなりお世話になっている。それらを実例を挙げて紹介し、積極的な活用を提案したい。

郵趣家便の種類

さて、郵趣家便にはどんなものがあるのだろうか。思いつくままに列举してみる。

1. 制度 初日・最終日
2. 料金 初日・最終日
3. 切手 初日・使用期日最終日
4. 消印 初日・最終日
5. 珍しい種類の郵便
6. 中高額面単貼りや多数貼り

7. 短期間料金
8. 意識的に使わないと使用済みやカバーの収集が難しいと思われる切手使用（小型シートや寄付金付きなど）
9. 使用局限定や期間限定の消印
10. 発売局限定切手使用
11. 切手の出現初期使用
12. 日付そろ目や日付に意味のある日差し出し（誕生日や記念日など）
13. 切手に縁のある地（郵便局）での差し出し（ご当地など）

などであろうか。

こうして列举してみると、郵趣家が作らなければ存在しないものや入手がかなり難しいものが多い。それらは一般信を待っていたら一生かかっても入手のチャンスさえ無いと思われる。こうした場合、郵趣家便をうまく収集に取り入れることが大事と思う。

今号より何回かに渡って出来る限り項目別に紹介してみよう。



図1 昭和26.10.25-10.31の一週間しか適用期間の無かった国内航空便の初日使用例

制度初日（国内航空便）

まずは代表的なものを挙げてみる。図1のカバーはよく見られるものであるが、このカシエ付きの封筒を使用した一連のカバー以外はほとんど存在せず、国内航空便を示す上では欠かすことは困難。

国内航空最初の料金は昭和26年10月25日より31日までのわずか7日間で改正されてしまったので、その料金を示す上でも重宝な存在。

そうは言っても目の肥えた読者諸氏には物足りないと思い、図2も掲載しておく。こちらはもう少し皆さんの好みに近いだろうか。更に少ないその7日間の国内航空はがきであり、恐らくそれ程多くは作られなかったと想像する。貼付切手が新昭和4円2枚でなく産業8円か透かしなし8円または記念特殊の8円切手ならもっと良かったのに。と言うのは贅沢か。



図2 昭和26.10.25-10.31の一週間しか適用期間の無かった国内航空便の葉書の初日使用例

制度初日（簡易書留）

昭和41年7月1日郵便制度の大改革があった。最も大きなものは定形制度の導入であるが、それに加えて簡易書留の制度が導入された。

制度当初は周知も不足していたのか、それとも簡易という表現に不安を覚えたのか、書留とは10円しか変わらないため敬遠されたのか、いろいろな理由があると思うが結果として当初はあまり使われなかったようで、制度初月使用などまず見ず、年内まで対象を広げても少ないのは収集している方の間では知られている事実である。

こんな状況では制度初日の一般信なんて期待できない。また、この当時初日カバーは作られていたものの実通で作られたものは非常に少ない。

ずっと待ってやっと現れたものをゲットしたものが図3である。一見一般信のようであるが、他の切手で同じ様な使用例が他にもあることと未開封であることより郵便趣味家便と考えている。しかしこれら一連のカバーは確認しているものが1種の切手に1通だけで、同じものが今後出て来ても少数であろう。郵便趣味家を嫌ってはいえ入手出来なかった好例と思う。



図3 簡易書留制度の初日使用例
昭和41.7.1
前橋

制度初日（郵便番号枠ゴム印の郵便局への配布）

昭和43年7月1日より郵便番号制度が導入された。それに先だって周知のための番号枠ゴム印が4月1日に各郵便局に配布した。その日に作られたはがきが図4。一見あて先郵便番号枠入り飛天はがきに見えるが、枠入りは43年6月1日発行で消印の日付は4月1日であること、印面縦線が細いこと、はがき下部に「あなたの住所にも郵便番号を」の標語がないことより枠なしの旧飛天はがきに枠のゴム印を押したものとわかる。

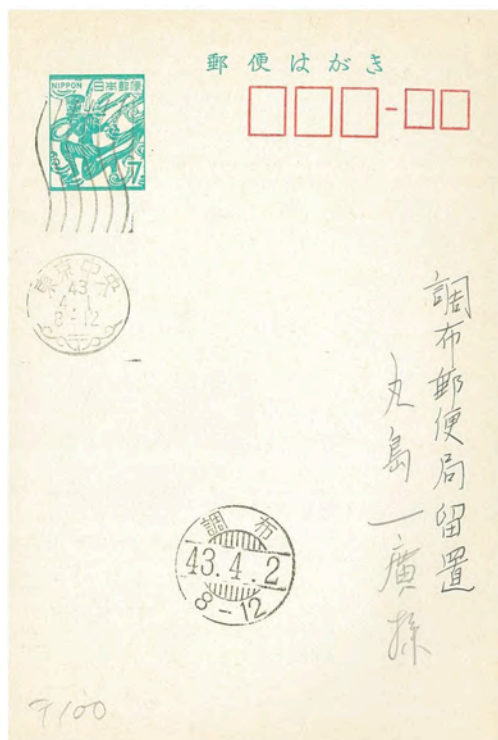


図4 昭和43.4.1に各郵便局に配布された、郵便番号枠ゴム印を押捺した葉書使用例 東京中央

図5は郵便番号実施初日に番号記入して差し出したもの。この日東京中央局では波部にハトの入った機械印を使用した。その印が押されており、冒頭に示した郵趣家便の種類の9番目にあげた「使用局限定印」も兼ねたものとなっている。

制度初日（年賀封書の再開）

図6は私が作ったもので恐縮ではあるが、制度初日使用をそれほど沢山所持している訳ではないのでお許し願う。年賀特別郵便は昭和37年用を最後に封書の取り扱いが中止された。ほぼ四半世紀経った昭和61年用より再開されて現在に至っている。これは初年のものである。こういうものは作っておかないと後からでは欲しいと思ってもなかなか機会が無い。

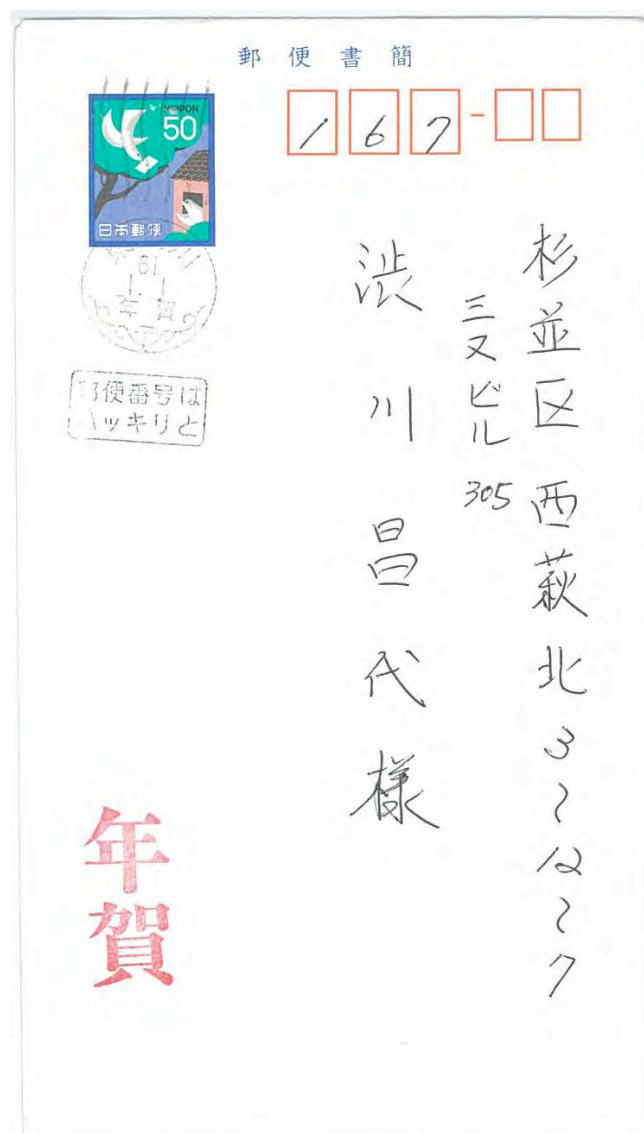


図6 昭和61年の年賀特別取扱から、定型書状と郵便書簡も含まれることになった。その初年度の使用例

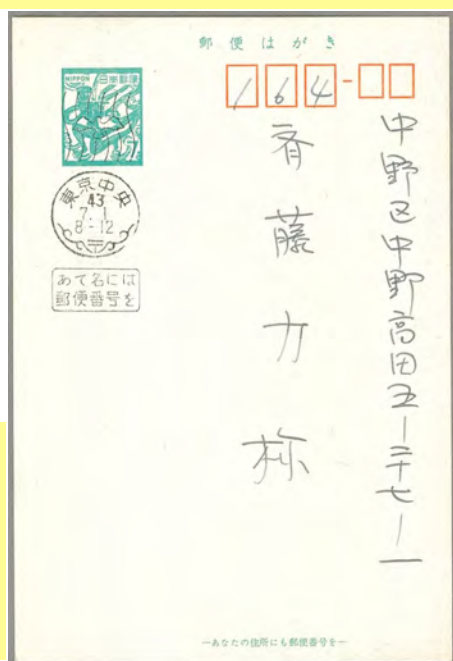


図5 郵便番号実施初日使用例
東京中央
ハト入り機械印
昭和43.7.1 8-12

制度最終日（沖縄復帰）

昭和47年5月15日に沖縄が返還された。それまでは訪れるのにパスポートが必要だったり、検疫で甲子園の土が持ち込めなかったりと外国扱いであった。

郵便料金でも特別地帯として船便は国内準拠。航空便は第1地帯宛てより安い特別な料金が設定されていた（第1地帯料金が課された時もあり）。

それがこの復帰により、沖縄県として完全に日本国の一部となった。前日の5月14日まではそれまで通りであるので、国内はがき10円に対し航空はがきでは20円となっていた。図7は返還前最終日差し出しである上に、同年2月1日発行のミニパックまたは切手帳の切り取り単片が貼付されており、3ヵ月半の短期使用にもなっている。



図7 沖縄の日本国への復帰前日の沖縄宛て航空便葉書
1972.5.14 京都・中京局、差し立て
1972.5.19（復帰後）八重山局、着印
20円松ミニパックもしくは切手帳一枚貼り

制度最終日（小笠原復帰）

沖縄返還に先立つこと4年、昭和43年6月26日に小笠原諸島が返還された。それまでは琉球と共に特別地帯とされ、他の外国宛とは異なる特別な料金体系となっていた。

図8は返還前日の6月25日に航空便で差し出したもの。到着は返還後だが、差し出し時点での扱いとなるため、特別地帯宛の航空料金30円に郵便書簡を使用し15円の切手を貼ってまかなっている。特別地帯宛の郵便は琉球宛てが収集界でよく見られるが、小笠原諸島宛の郵便は少なくその意味でも貴重。よくぞこんな使用例を残してくれたと感謝に堪えない。



図8 小笠原の日本国への復帰前日の特別地帯航空便
1968.6.25（復帰前日）大阪中央局、差し立て
1968.7.9 小笠原局、着印
郵便書簡、1968年趣味週間

～ 金井コレクション、D.Feldmanにより英文版も発行 ～

今月の初め、予約していた待望の「金井宏之コレクション 日本手彫切手」（一般財団法人 切手文化博物館発行、製作 株式会社 鳴美、以下、金井和文本）が届いた。

金井さんの手彫切手は、特別展示されると、その都度、有馬に出かけて、メモを片手に勉強させて頂いたが、これからは自宅でゆっくり拝見できると楽しみ始めたところであった。

その矢先、吉田敬さんから、先にDavid Feldmanから出版された「Great Philatelic Collections Kanai Classic Japan 1871-1876 The First Issues」（以下、金井英文本）と併せて、本誌に紹介して欲しいとの依頼のメールが飛び込んだ。期限は今週いっぱいとのこと。電子本の特性としてボリュームについての注文はないとのが救いである。原稿のボリューム合わせは、執筆すること以上に、難業である。

まず、金井和文本から紹介する。

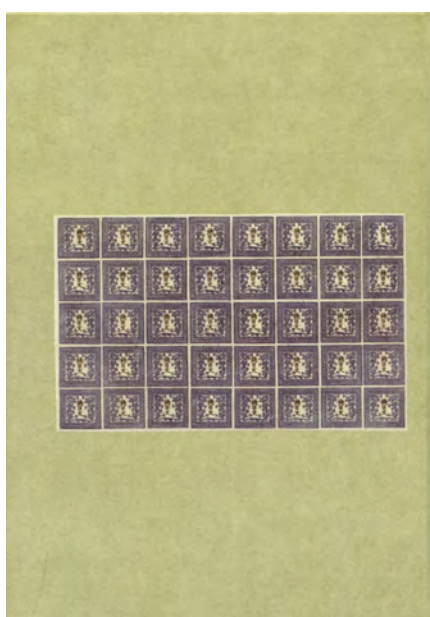
3冊に分けられている。第1巻 竜切手、第2巻 和紙桜切手、第3巻 洋紙桜切手・鳥切手。これらの3冊に付されているものであるが、使用の便にと、解説のページだけを1冊に簡易製本したものが加

わり、計4冊が頑丈なカバーに入れている。4冊とも表紙の生地は竜500文の黄緑とは、地味だが心憎い選択とみた。

この金井コレクションの凄いところは、一言でいえばこういうことであろうか。

手彫切手に限らないが、切手の蒐集家はある段階に来ると、切手展を意識し、出品するリーフ作りを頭に描きながら蒐集を進めるようになる。金井さんといえども、英領、特にモーリシャスの蒐集ではそうであったかもしれない。切手展を意識するようになると、とくに目玉となるようなアイテムについては、ここには、これとこれがあるから、これはもう要らないといったことになる。よく言えば、バランス感覚である。こういったことに捉われず、ひたすら手彫切手の蒐集に取り組み、切手展はそこから選び出して出品するという姿勢を貫いた良き時代の収集家として、真っ先に頭に浮かぶのが、金井さんである。

第1巻を見てみよう。現存する竜切手の未使用シートは完揃いである。シートのない200文第2版には、未使用最大ブロックが入っている。因に、このコレクションには54枚の未使用シートが入っている。



消印とカバーに目を向けると、品川差立の楷書検査済カバーと西京差立の篆書検査済カバーから始まり、3文字検査済はこのほかに、カットも何枚か入っている。地名入検査済カバーや多数貼のカバーは、100文1版のシートをそのまま貼った44枚貼カバーを筆頭に、重量級が並ぶ。手彫切手を楽しむなら、欲しいものは、チャンスを見逃さず、貪欲に集めるというアプローチがネギ5銭まで貫かれている。ぜひ、手元に置いて、各ページをじっくり味わって頂きたい。

金井和文本 第1巻竜切手 表紙(500文黄緑ペア)と裏表紙(100文シート)

現存8枚の「玉六のヨ」と現存2枚の「赤20銭リ」が抜けているがこのことについては、第3巻末の、金井さんの蒐集を生涯に亘って支えた橘喬一さんの手彫切手収集の苦労話をぜひお読み頂きたい。橘さんでなければ書けないことが披露されていて興味は尽きない。

話を戻すと、こういった姿勢で蒐集された手彫切手であるから、研究材料としても、ずば抜けた利用価値がある。

第1巻の巻頭には、「氏の三周忌にあたり、尽きることのなかった切手蒐集への情熱を偲び、・・・」との発刊の辞からはじまり、金井さん生涯の盟友、石原実理事長の「はじめに」と続く。「ご覧いただければ、手彫切手の面白さ、奥深さを実感していただける・・・。この書が、多くの方々の郵趣研究の一助になればこれに勝るものはありません」と締め括っておられる。

ついで、金井さんの業績の紹介、「見どころ」へと続く。ここでも、「オールカラーの原寸で掲載する・・・。原寸で再現することで、版研究には非常に有効であるし、本書ではあまり踏み込んでいない目打の研究にも役立つことがあるのではないだろうかと考えた・・・。手彫切手研究に貢献できるような形で出版することが、金井の願いであると考えて出版に踏み切った・・・」とあり、手彫切手の目打に関心のあるものにとっては、大変うれしい配慮である。かように、手彫切手の研究材料として提供したいという主旨が随所に述べられている。

さて、金井本の紹介であるが、まず、実に重い本である。持ち運ぶと膝・腰に来そうになる。その代償として、各ページは、これまで国内で出版されたどの本よりも鮮明で、美しい。有馬で展示さ



金井和文本 第2巻 和紙桜 表紙(20銭イ墨点)と裏表紙(30銭イ シート)



金井和文本 第3巻 洋紙桜 表紙(茶1銭チ)と裏表紙(鳥15銭シート)

れる都度、通い詰め拝見した各ページが478ページに亘って実寸で精密に再現されている。また、付録?としてサザランド切手のページもある。

この本の重さは、まさに研究材料として、止む得ない重さなのであろう。具体的に語ってみよう。

和紙紅4銭の第2版の未使用シート写真は、一般に頒布された資料としては、ウッドワード本あるいはこれから復刻した切手文化会刊のコロタイプ印刷したものしかない。幸い、それでも、苦労を重ねれば、確信の持てる再構成ができたのであるが、金井和本の写真を使えばもっと楽に作業を進めることができることを確かめることができた。

掲載の写真と調べたいサンプルとを2倍に拡大して精査すれば苦もなく結論が出る。

金井さんが、研究対象としてもっとも情熱を傾けられたのは和紙仮名入切手であったが、第2巻にその成果が、実に36ページに亘って披露されている。市田左右一著「墨六」と併せて、例えば、「墨六」と同じ大きさに拡大して使えば、実に快適に市田番号に到達できる。やってみれば判ることであるが、「墨六」には、金井さんの資料が大きな力になったことも実感できよう。

また、各巻の末尾と別冊に解説文が掲載されている。匿名であるが、通読すれば誰の手になるものか見当がつく。敢えて、判らないとしておこう。カバーとか郵便史のところは、事実を集めて語る部分が多いだけに、執筆者の卓越した知識が披露されており、得難い解説文といえよう。勿論個々のテーマをみれば、地元の方とかそれぞれ専門の識者はおられよう。この機会に無礼講で議論することにすれば本書の出版の意義もさらに深まるのではないだろうか。

一方、切手の製造面の解説に目を向けると、眉唾の内容も随所にみられる。1つだけ例を挙げると、洋紙桜仮名なし切手の279ページの解説である。左右の飾り枠のタイプIとタイプIIでの在庫管理などとの記述は頂けない。カバーの解説が秀逸なだけに、製造面のいくつかの解説がそのまま、定説として通用して行く恐れがあるので、ちょっと触れてみた。

もう1つの課題である「金井英文本」の紹介であるが、正直に感想を述べると、書棚を飾る本としては、豪華さ、美しさではこの本(右図)の方が遥かに上である。金文字に上品なブルーのコントラストが凄い。こちら一目見て惚れ込んで購入してしまった。ルーペで観察したところでは、各ページの図版も美しく緻密である。試しに、和紙紅4銭2版の一部をスキャンして2倍に拡大してみたが、「金井和文本」と、多分、同様と思われるコピーを得ることができた。ただ、難点は、この豪華本を痛めずコピーすることはなかなか難しそうである。この出版には、CDが付されている

が、このCDの役割はパソコンに移して眺めるためのもののようである。パソコンの画面で見ると、実に快適にページを捲りながら各ページを眺めることができる。タブレットでも使えば、多分電車の中でも快適に見ることができよう。小生にはこのCD版をこれ以上解析をする能力がない。

期せずして、2冊の金井本は、コレクションを出版物とする際の、出版の手法の選択を考える課題となりそうである。研究材料として使えることに重点を置くか、その素晴らしさを美しく豪華に表現することに意義を見出すか、それに、ユーザーも、利便だけでなく、出版経費のことも考えて反応しないと大切な資料が残らないであろう。ひとまず、今回は、手彫切手の蒐集家の一人として、貴重な金井コレクションが2つの出版に結びつき、併せてどちらの観点からも申し分のないものが後世に残されることになったことを喜ぶたい。



書籍名：金井宏之コレクション 日本手彫切手
発行：一般財団法人 切手文化博物館
製作：株式会社 鳴美
発行年：2014年
価格：6万円

書籍名：KANAI Classic Japan 1871-1876
※Great Philatelic Collections book の一冊としての発行
発行：David Feldman (スイス)
発行年：2013年
価格：200ユーロ

～ ドクター＝市田左右一博士のベースとなった外国切手収集 ～

郵趣の世界でドクターと言えば、市田左右一氏（図1）のことであることは広く知られおり、伊藤由巳氏が何かの雑誌に、市田氏が広く収集家からドクターの愛称でいつも呼ばれていたことを紹介しています。



図1 1963年にロンドンにレヴィ氏（右）を訪ねた時の写真、左が市田左右一博士「桜切手」（1965）より

その市田氏は、工学博士と言う本物のドクターであると同時に、世界の切手や郵趣事情に通じる（図2）など、切手博士としてのドクターでもありました。



図2 当誌1号20ページでも紹介した市田氏が世界の収集家に当てたカバー。同様の貼合せが複数存在する。

その市田氏の業績と言えは何と言っても、手彫切手を体系的にまとめたことであり（図3）、また、F.I.P.副会長としての数々の事業、中でもクラシック中心であった国際展に現代郵趣を取り入れたことが上げられます。



図3 市田氏の著作の中から、1965年に出版された、「桜切手」335ページの本編（左、英文）と日本語訳（右）

これらの事については日本の郵趣界ではよく知られたことですが、意外と見落とされている点に、氏の外国切手収集家としての側面があります。

氏は先に述べたように、手彫切手を体系的に位置付けるという日本郵趣史上最も優れた研究成果を残しましたが、その考えの根底に流れるものは、氏が戦後の早い段階から米国や喜望峰（図4）、セイロン（図5）を始めとする外国切手収集に学んだ事にあると思われます。



図4 英領喜望峰の三角切手



図5 英領セイロン初期の無目打切手

「アメリカ切手収集の思い出」の連載は下記のように展開しています。（第1回目のみ、図6/ページに掲載）

1回目：高級品を専門的に扱うことで有名な、米国のレイモンド・ウェル氏が来日した際に市田氏の米国コレクションを鑑賞し、帰国後に「日本に一流の米国切手収集が存在することは、夢にも思わなかった」と、氏のコレクションの感想を米国の郵趣誌に紹介したエピソード。連載の導入部です。

2回目：貧しい財力の中、10年以上の長い年月をかけ、知識を武器に少しずつ収集したことを、1850年発行のブルー・フランクリン（図7）を例に紹介。

3回目：ブルー・フランクリンの製造方法を述べた後に、転写ズレやクラックなどの変種と希少性を紹介し、これらのマテリアルの入手には、文献による学習や研究者からの教示など知識を得ることが大切。このことについて掘出し物や、研究者との交流をあげて具体的に述べています。

4回目：日本切手との交換相手から送られて来たブルー・フランクリンが、タイプ3の中でも極めて希少な99R2の位置の切手であったエピソードを紹介しており、ここでも知識の大切さを強調されています。

5回目：全部で2,600の位置があるブルー・フランクリンのポジション確定の調査研究について、アッシュブルック氏やナインクン氏の業績に触れながら紹介しています。市田氏は、この中で「（ブルー・フランクリンのポジショニング）その仕事の困難さは想像に難くはない。これに比べると日本手彫切手の研究など幸福なものである」と述べています。

本連載は、市田氏特有の読みやすい文章であるので、サラリと読み進んでしまいがちですが、本連載を繰り返し熟読すると、氏の手彫切手研究の基礎がブルー・フランクリンにあることを知ることができます。



図7 1851年 米国 1セント 青 フランクリン

アッシュブルック氏やナインクン氏が行った版の傷や転写ズレを調査し、ブロックなどからポジショニングを行う方法は、市田氏の『墨六』や『青一』に見られる手法と同一のものです。

市田氏が5回目の連載中において、アッシュブルック氏の仕事について「彼の1セントに対する仕事は全くパイオニヤ的な性格があるのは、ウッドワードの事業によく似ている。しかしウッドワードの仕事よりはるかに組織的である。これは彼が1枚の切手に研究を集中したから体系を持たなくてはならなかったのであろう」と述べ、市田氏の後年の仕事が、彼等の強い影響を受けていること表しています。

記事名：「アメリカ切手収集の思い出」1～5

著者：市田左右一

雑誌名：全日本郵趣 14～16、19、21

出版社：全日本郵趣連盟

発行年：1964年5～7、10、12月

アメリカ切手収集の思い出

I

市田左右一

ミシシッピー河がメキシコ湾にそそぐ河口にニューオルリーズという港町がある。デューシーの黒人街、船員のうろつく怪しげな酒場、それに南方の疫病ではなかなか有名だがこの町に世界で随一の切手の買手が店をはっている。ウィール商会といって兄弟で経営にあたっている。その地方には、どう考えてみても、切手のお客がたくさんいそうにないのだが、コロンブス高額切手の未使用シートが出るとウィールがロンドンで買い、モーリスの有名な2枚貼りのカバーが出ると、この商会が競売で落した。およそ世界の収集界で話題になりそうな切手が出る競売には、必ず顔を出し何十万ドルでもさっさと買ってゆくのが、この店の特徴である。ところがこの店が売りに出たのを余り聞かない。

2、3年も前のことだが、この商会の主人レイモンドが日本を訪れたことがあった。オーストラリアから私のところに手紙をくれたので、帝国ホテルに会いにいった。ごくごく少量の取引がわれわれにあったのが運のつきで観念して会いにしてみると、見るからに歳少し前のなかなかの好男子、そして独身、世の女性を楽しませるために生れたような男ではあったが、開口一番

「日本に何かいい買物はないかい。ぼくはいわでも30万ドルまでは用意しているから、ぜひ紹介して欲しい」

これぐらい明らかに返事ができることはない。「ない」と。しかしこれだけで引揚げるわけにはいかなかった。いかに国際的遊び屋とはいっても、日本の夜の魅力と申しますか買物のことなんかすっかり忘れて楽しんでくれたので、大いに助かったが、帰る日になって厄介なことを思い出し、どうしても何か買物がみたいと云い出したので、やむなく私のアメリカの収集を見せることにした。

私が米国切手の収集をはじめたのは、終戦後3、4年頃で、今は故人になった神戸元町の園部の店で、状態のよい2番切手を買ったときで、以来なけなしの資金でアメリカの金収集家を相手に悪戦苦闘して、ようやく一

揃い面がそろった程度だったが、全く犠牲的精神でレイモンドに見せることにした。

第1頁に彼はおどろいた。

「君、こりゃ偽物だよ」と園部から買った2番切手を指した。やれやれこの調子じゃ恥多しだと覚悟をきめていると、また曰く「だが、こりゃよく出来ているよ、ぼくの考えではこれはスペラッティだ。スペラッティのアメリカ物はごく少く、安心しなさい真物と大差ない値うちがあるよ」

頁が進んで1860年の逆刷り切手のところに来ると、彼はページからこれをはずし、ピンセットで透してみていたとたん、この15セント切手が急に飛び去った。あわてたわれわれが、その行方を追うと、これが換気孔の金網のところに吸いつけられるようにピタリと止った。胸をなぜおろしたのは、むしろ彼の方で「やれやれ、もう少しで50万円の買物をするところだった」

結局彼は何も買わないで2、3日のつきあいの日本の夜の魅力の見送りをうけて米国へ帰っていった。

おれのつもりかどうかわからないが、ある米国の切手雑誌に、珍らしく彼が紀行文をのせて曰く「日本の3日は実にすばらしかった。私のお得意先である市田氏のおかげで、日本の魅力的な風習や人間関係がよくわかった。同氏は親切にも自分の米国の収集を見せてくれたが、米国19世紀切手の珍品がページごとに盛られてあるのをみるのは愉快だったと同時に、米国以外に日本に米国切手のかかる一流の収集が存在するとは、夢にも思わなかった」と。

お世辞もいいところだが、自分のお得意様の収集内容を知らなかったと云う点は、ちとふにおちない。それはともかく、この一文がかなりきいて、方々の米国の関係者から手紙をもらった。この紀行文には15年前くらいの私の写真が出ているので、例の「そろそろ遺産として整理されるために、お売りになるのなら弊店を」という葬儀屋の広告は受取らないですんだ。

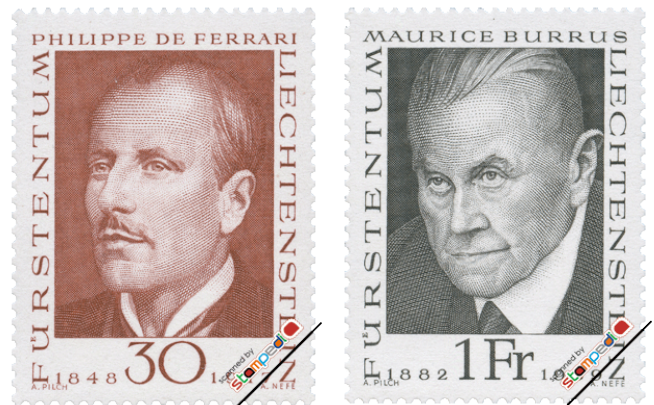
～ 昭和33年に競売された世界トップコレクションの日本の部 ～

キャスパリー (Alfred H. Caspary, 1878～1955年) の名は、フェ拉里、ハインド、リヒテンシュタイン、ビュルスなどと共に、今後も郵趣界に語り継がれていく伝説のコレクターの一人だと思います。

彼の収集内容については、オークションを主催したハーマー社が残した16分冊にものぼるカタログに記録されており、このカタログは完全揃いがオークションに出品されるたびに、毎回数百ドルの高値で落札されています。

この16回にわたるオークションの売上げは、2,895,146ドルを記録しました。これを当時のレートである1ドル360円で計算すると1,042,252,560円になります。大卒の平均初任給が13,467円で、自動車のスバル360が425,000円の時代です。

キャスパリーコレクション「日本の部」は、16回にもおよんだセールの最終回として1958年10月28・29日の両日、ニューヨークのシェラトンホテルクリスタルルームで開催されました。



リヒテンシュタインが1968-1972年に発行した郵趣家を描く切手。本文に紹介した4名からフェ拉里(左)、ビュルス(右)が発行された。

一般的には、この16回目のセールを「日本の部」のセールと呼んでいますが、正確には「アジア・主として日本の部」の売立てになります。表紙(図1)を見ても「ASIA Chiefly Japan」と書かれているのが、おわかりいただけると思います。

オークションは全体を673ロットに分けており、ロット1～5がベルシャ。6～18が上海書信館。19がシャムで、20以降が日本という構成になっています。

日本は20～631が手彫。632～661が小判。662～665が菊。666～667が田沢。668～669が記念。670～671が在中国。672が在朝鮮。673がアルバム6冊のコレクションという具合です。

このオークションカタログには、のちに金井スタンプ商会によりコレクションがオークションにかけられた、グロックナーが序文を書いています。

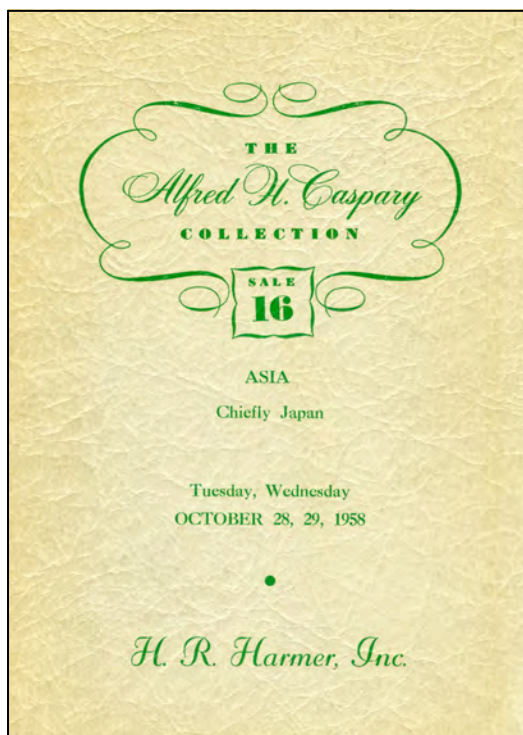


図1 Caspary Sale 16 表紙

SECOND SESSION 1874 WITH SYLLABIC CHARACTERS, 6 SEN/ETC.		40
375 ○	Syll. 8, 9, 12. One each, fine to very fine	(29 S. 8, 9, 12) 56.50
376 ○	Syll. 8(3), 9(2). All used, averagely fine	(29 S. 8, 9) 70.00
377 ○	Syll. 9. Block of 3. Fine	(29 S. 9) 42.00+
378 ○	Syll. 10. Fine used copy	(29 S. 10) 65.00
	See illustration on page 39	
379 ○	Syll. 11. Well centered and very fine	(29 S. 11) 65.00
	See illustration on page 39	
380 ○	— Another copy, almost as fine as previous	(29 S. 11) 65.00
	See illustration on page 39	
381 ★	Syll. 12. Unused copy. Fine and scarce	(29 S. 12) 65.00
	See illustration on page 39	
382 ○	— Two used copies. Thinnings, fine to very fine appearance	(29 S. 12) 55.00
20s RED VIOLET		
383 ★	Syll. 1. With "Specimen" dot and only existing thus. O.g. and fresh, well centered and very fine. The rarest stamp of Japan of which only a very few copies exist. Unpriced (30 S. 1) unpr.	
Illustrated in the Woodward Book		
See illustration		
384 ★	Syll. 2. O.g. and fresh, extra margin at top, otherwise very fine	(30 S. 2) 225.00
	See illustration	
385 ★	— Another o.g. copy. Fresh and fine	(30 S. 2) 225.00
386 ★	— O.g., fresh, fine and attractive copy	(30 S. 2) 225.00
	See illustration	
387 ★	— Another o.g. copy. Good color, gum wrinkles and minute thinnings. Attractive copy	(30 S. 2) 225.00
	See illustration on page 39	

図2 カタログの内容

この序文の中で重要なのは、キャスパリーと言うと手彫切手を連想してしまいがちですが、グルックナーは手彫切手はもちろんですが、小判切手にも言及しています。

すなわち「小判切手のコレクションは特に素晴らしい。ブロック、色調と多くの稀少な目打があり、優れた専門コレクションである」と指摘しています。このことから、キャスパリーの小判切手コレクションは、1950年代以前の段階で既に色調や目打、ブロックという、こんにちの小判切手コレクションと、同様なスタンスを持って作られていたことがわかります。

このことは、当時の日本切手収集のレベルを考えると特筆すべきことと思われます。おそらくキャスパリーは、ウッドワードの『大日本及び全属国の郵便切手』を参考に日本切手の分類をおこなっていたのではないかと想像されます。

さて、肝心のカタログの内容についてですが、全ての図版が白黒であり、主としてシートやブロックを中心に、一部に稀少な単片切手を掲載しています。（図2）

消印を中心とした記述は全く見当たりませんが、当時の一般的な収集形態としては、むしろそれが自然な形だったのではないのでしょうか。ましてや、全世界を対象としたコレクションの一部としての日本切手収集だったのですから、なおのことです。

このコレクションの最高値を記録したものは、3,600ドルを記録したロット383の和紙カナ入（イ）20銭墨点です。（図3）その他、和紙カナ無20銭のシートは1,100ドル。竜5銭青緑のシートは950ドルでした。

しかし、これらの切手よりも有名だったのが、竜200文第1版の「腕落ち竜」で、現在でこそ、この切手の確認数は増えてきましたが、1958年当時では公に確認されていたのは、イギリスの収集家が所持していた1枚だけだったのです。



図3 桜切手 和紙赤紫色20銭仮名「イ」、墨点

ところが、このコレクションには4枚もあることが、このカタログにより確認されました。そして、このうちの30枚ブロックのものが390ドルで落札されています。

キャスパリーコレクション全体から見れば、日本の部はけっして力の入った分野とは言えそうにはありません。というのも、このコレクションの核となっているのがシュトルツコレクション（シュトルツコレクションは、モーザーとガードナーコレクションの全部と、オズボーンコレクションの一部から成り立っている）で、これに若干のウッドワードからの収集品が加わっているにすぎず、積極的に収集を拡大したとは考えられないことからです。

それでいて、これだけのコレクションが形成されたのですから、まさに古き良き時代のコレクションと言うことができるのではないのでしょうか。

書籍名：Alfred H. Caspary Collection Asia
出版社：H. R. Harmer（オークションハウス、米国）
発行年：1958年

郵趣活動の記録

競争切手展への出品

MALAYSIA 2014

編集部

第8回郵便史シンポジウムと航空郵趣展 Aerophilately 2014

和田文明

イベントレポート

郵政博物館グランドオープン

編集部

テーマティク出品者の会切手展

榎沢祐一

東海凱旋展

祖父江義信

郵趣団体の活動PR

ヨーロッパ切手展実行委員会

菟郵会

大橋武彦

小判振舞処

長田伊玖雄

stamp club

長田伊玖雄

外国切手出品者の会

重山優

当コーナーでアピールしたい郵趣団体の皆様へ

郵趣イベントのレポートや郵趣団体の活動をアピールしたい方は下記へご相談ください。

問合せ先： tpm@stampedia.net

今年の12月1日から6日にかけての6日間に、マレーシアの首都クアラルンプールで、アジア国際切手展(FIAP展)が開かれることが分かりました。

(会場はKuala Lumpur Convention Center)

ところでたしかに「アジア国際切手展(FIAP展)」は開催されるのですが、それとは別に三部門だけ「国際切手展(FIP展)」も併催されます。以下の部門です。

国際切手展としても開催される部門

- ・ユース部門
- ・テーマティック部門
- ・現代郵趣部門

つまり、この三部門に出品できる作品をお持ちの方については、FIP展に出品する事もFIAP展に出品する事もどちらも選択できるということです。

またこれ以外の部門に出品できる作品をお持ちの方(例: 伝統郵趣、郵便史、文献など)にとっては、2014年にエントリーできる国際展がとくに締切られた PHILAKOREA2014 しかなかった状況から、一つ選択肢が増えたことになります。

そもそも、12月の国際展開催というのはあまり例を見ませんが、マレーシアは 外国人旅行者数世界9位という観光王国であり、同政府は2014年を VISIT MALAYSIA YEAR にし、外国人旅行者数を2,500万人(2012年)から2,800万人に増加させる事を目標としており、切手展もその一環かもしれません。



同切手展の開催決定を受けて、日本における国際郵趣連盟、アジア郵趣連盟への加盟団体である、任意団体 日本郵趣連合では、MALAYSIA2014のコミッショナーを決定しました。

コミッショナーとは、国際展において最初から最後まで出展者がお世話になる方で、たいていの場合、国際展への出展経験も豊富なベテラン郵趣家選ばれます。

MALAYSIA2014コミッショナーには、経験豊富な郵便学者の内藤陽介さんが就任され、今後出品作品のエントリーから始まる諸々のやり取りはすべて内藤コミッショナーと電子メールで行うことになります。

内藤コミッショナーから、出品申込の受付期間は4月1日から8日の間と指定されていますので、出展希望者は、当該期間に提出できるよう、ホームページを見てご準備ください。

<http://yosukenaito.blog40.fc2.com/blog-entry-3226.html>

ちなみに内藤さんのホームページに書いてない事も含めて、いくつか補足します。

1. 国際切手展への出品資格として国内の競争切手展で、金銀賞以上を獲得している必要があります。
2. 出品申込をしたからと言って必ず展示ができるとは限りません。
日本人の申込書は、内藤さんからまとめてマレーシアの切手展委員会に送られますが、同委員会で審議の結果、実際に展示する作品とそれ以外を決定するからです。
3. 競争切手展は、ルールが明示された審査競技で、スポーツではフィギュアスケートに近いと私は考えています。競技で良い結果を残す為には、ルールと判例の理解が不可欠です。
4. コミッショナーは、国際切手展に前日入りし、終わってから帰国する時間的負担だけをとっても基本的にはボランティア行為です。やりとりをする時は相手に迷惑をかけないように配慮をしてください。コミッショナーを誰もやりたがらなくなると、日本人は国際切手展に参加できなくなってしまいます。

第8回郵便史シンポジウムと航空郵趣展 Aerophilately 2014 和田文明

アメリカで航空郵便史のシンポジウムと、このシンポジウムに合わせてFIP認定の航空郵趣の専門切手展“Aerophilately 2014”が2014年9月12日から14日までペンシルバニアの“アメリカ郵趣センター”で開催されます。

第8回 郵便史シンポジウム

フィラテリスト、学術研究者、郵便歴史家などによる「郵便史に関するシンポジウム」(Postal History Symposia, 図1)が、国際切手展“Washington 2006”が開催された2006年から昨年(2013年)を除いて毎年開催されています。

共同主催しているのは、郵趣文献の団体であるアメリカ郵趣リサーチ・ライブラリー (American Philatelic Research Library)、1886年に創立され33,000人の会員を擁するアメリカ郵趣協会 (American Philatelic Society)、ワシントンDCにあるスミソニアン国立郵便博物館 (Smithsonian National Postal Museum)の三者です。

毎回異なる郵便史のテーマが前年の秋にそれぞれの団体のHPなどで示され、テーマに基づいた研究論文の募集がシンポジウム開催の数か月前(今回は2014年5月1日締切)までに行われます。選考の結果、秋に開催されるシンポジウムで研究発表講演が行われています。

過去の郵便史シンポジウムのテーマは、表1の通りです。なお、シンポジウムの開催場所は、当初ワシントンDCの国立郵便博物館とペンシルバニア州のアメリカ郵趣協会(APS)の本部会館である“アメリカ郵趣センター”(図2)で交互に開催されて来ましたが2011年以降は“アメリカ郵趣センター”で開催されています。今回の第8回郵便史シンポジウムも“アメリカ郵趣センター”(図2)で開催されます。



図1 郵便史に関するシンポジウムの様子



図2 APSの本部会館であるアメリカ郵趣センター

開催年月	開催場所	郵便史シンポジウムのテーマ
2006年11月	スミソニアン博物館	What is Postal History (郵便史とは何か)
2007年10月	APS本部	Further, Farther, Faster: Transportation Technology and the Mail (より遠く、より速く：輸送技術と郵便)
2008年9月	スミソニアン博物館	When the Mail Goes to War (戦争と郵便)
2009年10月	APS本部	Post Office Reforms (郵便局の変革)
2010年9月	スミソニアン博物館	Stamps and the Mail: Imagery, Icons & Identity (切手と郵便：画像、アイコン、アイデンティティ)
2011年9月	APS本部	How Commerce and Industry Shaped the Mails (商業や産業はアメリカの郵便をどのように形成してきたか)
2012年11月	APS本部	Blue & Gray: Mail and the Civil War (北軍と南軍：郵便と南北戦争)
2014年9月	APS本部	Development of Transoceanic Air Mail Service (大洋横断の航空郵便発達史)

表1 郵便史シンポジウムのテーマ

第8回目の開催となる今年の郵便史シンポジウムのテーマは、“Development of Transoceanic Air Mail Service”(大洋横断の航空郵便発達史)で、大西洋や太平洋などの大洋横断の航空郵便に係わる郵便史がテーマです。例示として次の四つのテーマが提示されています。

1. 南大西洋における航空郵便のコンペティション：エアーフランス、ツェッペリン、ルフトハンザ
2. 北大西洋における航空郵便の発達：カタパルト航空郵便－ツェッペリン－DLH－パンアメリカン
3. 太平洋横断航空郵便：パンアメリカン“クリッパー”
4. 大洋横断航空郵便サービスに関する第2次大戦の影響：中断された航空路線と新規航空路線

今回の郵便史シンポジウムは航空郵便史に関するテーマなので、主催団体には、アメリカの航空郵便取扱が開始された1918年から5年後の1923年に設立されたアメリカの航空郵趣の団体であるアメリカ航空郵趣会(American Air Mail Society、)も加わって、四団体による共催となります。

なお、郵便史シンポジウムの共催団体の一つであるスミソニアン国立郵便博物館は、これまでの郵便史シンポジウムの研究成果を取り纏めた100ページ以上の論文集を二冊刊行しています。

“Smithsonian Contributions to History and Technology”(歴史とテクノロジーへのスミソニアンへの貢献)シリーズ第55号には、第1回(2006年)から第4回(2009年)まで郵便史シンポジウムの論文が収録され、同シリーズ56号には第5回(2010年)と第6回(2011年)の郵便史シンポジウムの論文が収録されています。(図3)

これらの郵便史の論文集は、アメリカ郵趣協会の郵便史シンポジウムのウェブサイトを通じて、PDFファイルを無償でダウンロードすることができます。<http://stamps.org/Postal-History-Symposium>

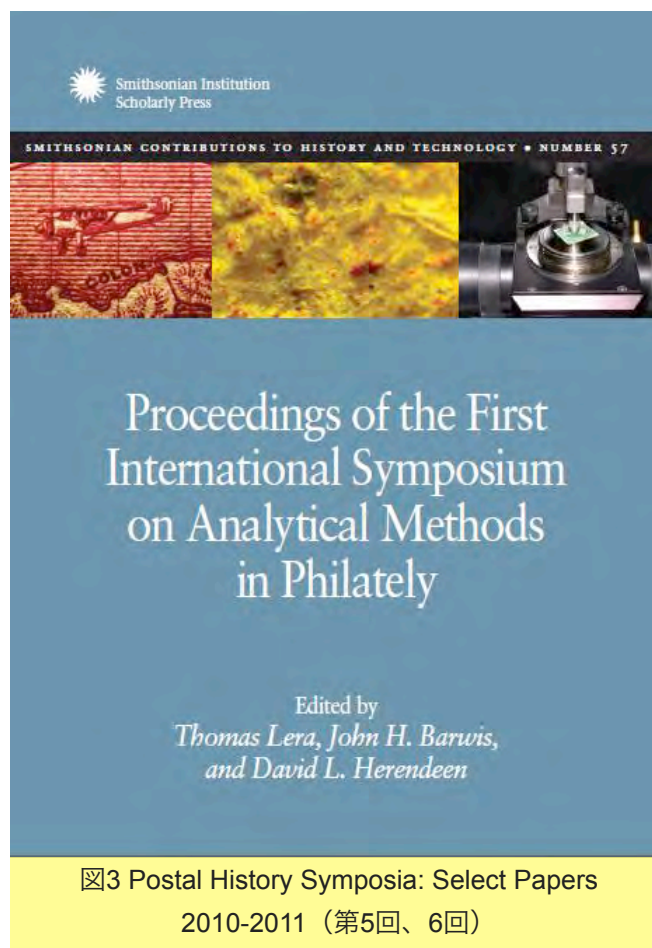


図3 Postal History Symposia: Select Papers
2010-2011 (第5回、6回)

Aerophilately 2014

今年の郵便史シンポジウムの特色は、共催団体にアメリカ航空郵趣会が加わったことと、シンポジウムの開催期間に合わせて航空郵趣の専門郵趣展“Aerophilately 2014”がFIP(Fédération Inter-nationale de Philatélie)の認定(Recognition)を受けて郵便史シンポジウムの開催期間に合わせて開催されることです。

ブラジル国際切手展の開催期間中の2013年11月23日に開催されたFIP理事会は、“Aerophilately 2014”をFIP認定(Recognition)展であることを承認しました。FIP理事会は“Aerophilately 2014”の開催について非常に肯定的だったようで、「FIP認定の特殊な展示会である“Aerophilately 2014”は、将来の小さな国や地域での展示会のためのモデルとして役立つことを願っている」と報告されています。ちなみに、FIPの認定(Recognition)料は5,000スイスフラン(約58万円)だそうです。

国際展レベルの展示である5フレームと8フレームの両方のコレクションは、コロンビアやカナダなどの海外からも審査員を招いてFIPの審査員資格を有する審査員による完全FIP基準で審査されます。

アメリカ郵趣協会のHPでは、今年の8月に開催が予定されている韓国の“PhilaKorea 2014”と並んで国際切手展(International Shows)のコーナーで案内されていますが、“Aerophilately 2014”を『世界的な参加によるFIP認定の“航空郵便のみ”の国内展』として紹介されています。

“Aerophilately 2014”の開催期間は第8回郵便史シンポジウムと同じ9月12日から14日までの3日間で、会場もシンポジウムと同じアメリカ郵趣協会(APS)の本部会館の“アメリカ郵趣センター”で行われます。なお、9月13日(土)には、郵便史シンポジウムの基調講演並びに“Aerophilately 2014”のパルマレス(表彰式)の開催が予定されています。

展示クラス

“Aerophilately 2014”の展示クラスは、次の7つのクラスに分けられています。クラス1からクラス6までは、5フレーム乃至8フレームで、クラス7は1フレームに其々限られています。FIP基準による審査は、クラス1から6までの、5フレーム乃至8フレーム展示に限られています。

1. 航空郵趣 (Aerophilately)
2. 宇宙郵趣 (Astrophilately)
3. 航空切手(Traditional, limited to airmail stamp issues only)
4. 航空郵便史 (Airmail postal history)
5. 航空と宇宙に関するテーマチック(Thematic, limited to airmail, aviation or astro subjects)
6. 航空ステシヨナリー(Postal Stationery, limited to airmail postal stationery only)
7. ワンフレーム(上記クラスの1フレーム展示)
尚、展示スペースの制限から、非競争展示のオープンクラスなどは設けられていません。

出展料

出展料は非常にシンプルで合理的です。エントリ一料として50.00ドル(約5,000円)に加えて、1フレーム当たり10.00ドル(1,000円)です。ワンフレームは\$50+\$10で60.00ドル(約6,000円)と割高ですが、5フレームは\$50+(\$10×5)で100.00ドル(約10,000円)、8フレームは130.00ドル(約13,000円)と1フレームあたり16.25ドルと割安になります。

宿泊

エキシビションホテルには、会場の“アメリカ郵趣センター”から6マイルほどの“ベストウエスタンプラスユニバーシティパークイン&スイーツ”(ペンシルバニア州ステートカレッジ, 図4)と8マイル離れた“カントリーイン&ステート”の2つのホテルが指定されています。宿泊料はベストウエスタンホテルの場合、アメリカ郵趣協会(APS)特別レートの一泊72.00ドル(約7,200円)となっています。会期中は一定の部屋数をシンポジウムと郵趣展のために確保(Block)しているそうです。



図4 ベストウエスタンプラスユニヴァーシティ パークイン&スイーツ

応募締切

郵便史シンポジウムへの論文の応募と“Aerophilately 2014”の応募の締切りは共に2014年5月1日です。“Aerophilately 2014”のコンタクト先は以下の通りです。

Contact: James W. Graue, zepkat@gmail.com

Phone: 509-924-4484

Address: 11911 East Connor Road,
Valleyford, WA 99036

<http://www.americanairmailssociety.org>

著者の予定

著者は1987年来のアメリカ郵趣協会(APS)の会員で、“25年会員”の榮譽を受けています。これまでにアメリカの書留郵便や配達証明などの郵便史やアメリカ郵政の航空公用郵便、1938年アメリカ航空郵便20周年記念イベントの“ナショナル航空郵便週間”をテーマにいくつかのコレクションを作り、多くの日本国内の切手展やFIPやFIAPの国際切手展にも出品して来ました。

是非今回の郵便史シンポジウムへの参加と“Aerophilately 2014”へ出品と参観をしたいと考えていましたが、実は8月21日から24日にコネチカット州ハートフォードで開催が予定されていますアメリカ郵趣協会(APS)の“Stamp Show 2014”への出品と参観を予定し、仕事の調整をしておりましたので、その僅か20日後に開催される郵便史シンポジウムへの参加と“Aerophilately 2014”への参観は適わず、『アメリカ郵政の航空公用郵便、1911~1945』(図5)のコレクションをクラス4の“航空郵便史”部門へ5フレームで出品のみを行う心算です。

このコレクションは、ジャカルタで2012年6月に開催されたインドネシア国際切手展と2012年11月にUAE(アラブ首長国連邦)のシャルージャで開催されたFIAPのアジア国際切手展に出品し、共に大銀賞を獲得したコレクションです。図5は、タイトルリーフとアメリカで航空郵便と取扱が開始(1918年5月15日)されて18日後の1918年6月3日差出しの24セント航空切手が貼付されたニューヨーク郵便局からボストン郵便局宛の初期の公用航空郵便カバーです。

このコレクションは、バーチャル切手展スタンペディア・エキシビションに全リーフを掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

<http://www.stampedia.net/stamp/exhibition/72/ja>

『ザ・フィラテリスト・マガジン』の読者の方で、郵便史シンポジウムへの参加や“Aerophilately 2014”へ出品と参観をご希望の方は、先ほどのコンタクト先にEメールなどでお問い合わせ下さい。未だ十分間に合います。

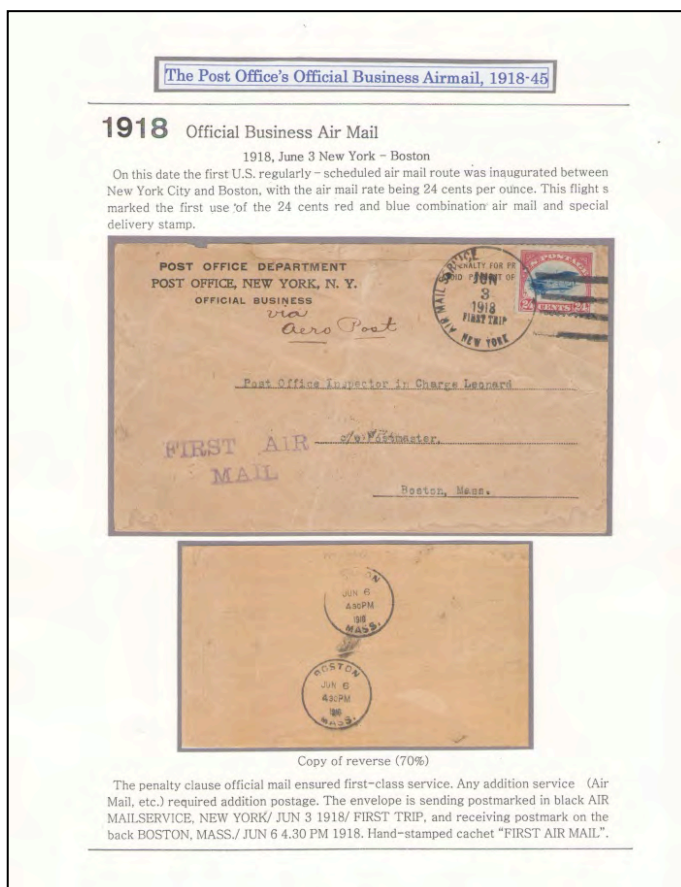
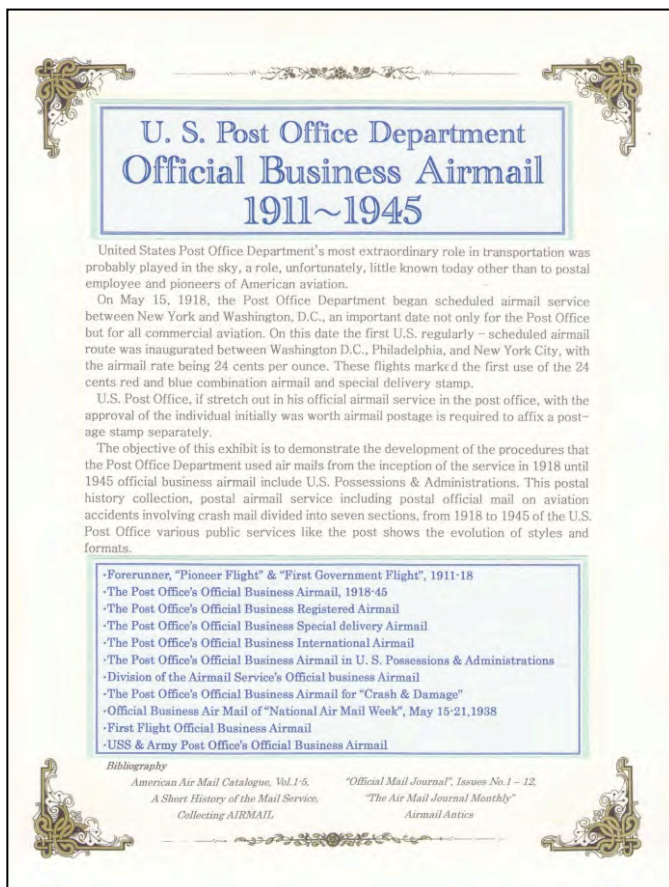


図5アメリカ郵政の航空公用郵便、1911-1945

3月1日のオープンを前に、郵政博物館は2/27に報道陣向け発表会を行いました。当誌もメディア枠で発表会に参加する事ができましたので、普段は撮る事ができない写真も含めてご紹介いたします。

地下鉄押上駅から「郵政博物館」が入居する東京スカイツリータウンのイーストヤードに向かう途中の地下街には、オープンを翌月に迎えて郵政博物館の広告（図1）が多数見かけられます。



図1 押上駅 地下街

※ちなみにイーストヤードへは都営浅草線が最も近い

イーストヤードのエレベータに乗っても広告は出続けていました。（図2）



図2 イーストタワーエレベータ内にて

ちなみに、九階に入居する郵政博物館へは、八階でエレベータの乗り継ぎをしないと行けません。この点は不便というか、スカイツリー関連ビルの構造に疑問を感じつつも、入口に到着。



図3 郵政博物館 入口

受付のお姉さんがにこやかにお出迎えしてくれる。右に見える機械は入場券を購入する自動販売機です。ちなみに入場料は大人300円、高校生以下の学生150円です。通信総合博物館時代と比べるとちょっと高くなりました。

ちなみに2/27は、報道陣向けの発表会でしたが、当誌の取材の目的は

- （1）どれくらい報道陣が来ているかの調査
- （2）郵趣イベントを開ける可能性はあるか？
- （3）郵趣アイテムの撮影でした。

一つ目については大成功だったと思います。図4のようなプレスツアーに参加するメディアは一回



図4 プレスツアーで説明をする学芸員の井上卓朗さん

あたり二十人以上居り、質問も積極的に行われていました。

この成果は即日、新聞社のネットニュースとして表われ、その一部は翌朝の新聞紙面に掲載されました。(図5)



図5 左よりmsn産経、日刊スポーツ、はてブニュース

二つ目の郵趣イベントを開ける可能性があるかについては、勝手に「切手の博物館みたいなミニペックスが、ここでもできるようになったらいいのに。」という想いで取材してきました。

郵政博物館は同時入場者数が300人までという制限からも分かる通りスペースは広くありません。したがって、JAPEXや全日本切手展を現在の規模で開く事は不可能です。

しかし郵趣の振興には切手の博物館で行われている非競争切手展も重要です。通信行政も範疇だった通信総合博物館時代に比べて郵政だけになった今回は、郵趣要素の強い展示もあるのではないかと思います、図6のフロアマップで左上部分にあたる企画展示ゾーンに期待していました。

この部分、確かに場所は広く、切手の博物館のミニペックス二つ分くらいのスペースはあるのではないかと思います。

図6

郵政博物館 フロアマップ

右上のメッセージシアターや沢山のシミュレーターは、金持ってるなーという感じです。

33万点の外国切手コレクションが常設展示されたのは良かったです

デジタル系で一つ感心したのは、手紙ラウンジに設置された絵はがきクリエイター

ブリクラ式で無料で絵葉書を作れます。



ただ、企画展示は開館の3/1から5/25まで開催される落谷虹児展（図7）を始め、数ヶ月単位の企画がある程度決まっている様で、ここはミニベックス用ではないのかなあ、と感じました。



図7 「花嫁」原画（落谷虹児展）

一方僕が目にしたのは、フロアマップ右下のイベントスペース（図8）や手紙ラウンジです。当日は報道陣の荷物置き場として使われていたのですが、ここには特に展示が行われておらず、2,3日のミニベックス等に場所を貸してくれるのならとても意義があると感じました。

ソラマチにあるので飲食施設も近く、通信総合博物館に比べてきれいで近代的、駅からも近い。関係者の皆さん、いかがでしょうか？



図8 イベントスペース

最後に、報道陣に撮影させてくれた館内展示品の中より郵趣に偏った物をいくつか御紹介します。これらについては追って、当誌でそれぞれ詳しい記事を執筆する際に使用したいと考えています。





テーマティック・フィラテリー（テーマ郵趣）は、切手のほかカバーやステーションナリー、消印など多種多様な郵趣材料を使い、ストーリー性のある作品を構成しようとする知的遊戯です。

私たち“テーマティック出品者の会”はテーマ郵趣の作品をつくり、内外で開催される切手展を参観して研究するとともに、自らも出品し、入賞を目指すメンバーで構成されています。昨年に比べて会員も増加し、会員の受賞歴も着実に積み上げてきました。

1月17日から19日にかけて、ミニペックスを開催し、昨年開催された内外の切手展への会員の出品作品ならびに今年開催が予定されている国際切手展への出品予定作品のリハーサル出品を中心に、日常の活動の成果の一端を皆様にご紹介しました。

また、来場者数が今回は過去最高となり、用意していた50円、80円のフレーム切手のうち、初日には早くも50円のフレーム切手が完売しました。

国際展出品を目指すという目的をお持ちの方であれば、これから、テーマティック収集を始めたい方、オープン・フィラテリーを手掛けている方も大歓迎ですので、テーマティック出品者の会に参加してみませんか？

展示作品

「産業革命期から現代までの都市の公共交通とその発展の背景」(5) 榎沢祐一
(Thailand 2013 大金銀賞受賞)

「地図の歴史」(5) 西海隆夫
(Brasiliana2013 大金銀賞受賞作品)

「朝鮮戦争」(5) 内藤陽介
(Thailand 2013 大金銀賞受賞)

「芸術家たちの肖像史 ～西洋美術 600年の軌跡～」(5) 江村 清
(JAPEx 2013 大金銀賞受賞)

「ヒトラーとナチス・ドイツの興亡」(3)北村定従
(JAPEx 2013 金銀賞および小倉謙賞受賞)

「多義的解釈の図像」(1) 小林卓夫

「赤十字って何だろう」(1) 小林 有

「バラのきた道 その生い立ちと人々とのかわり」(5) 山田精一 (JAPEx 2013 金銀賞受賞)

「ドラクロワの芸術と生涯」(5) 川辺 勝
(JAPEx 2013 大銀賞受賞)



会期中に行われる恒例の作品批評会では、FIP国際展審査員資格を持つ内藤陽介氏によるアドバイスも行われた。この活動により、近年、会員の国際展への進出は目覚ましく、日本のテーマティック作品の水準が向上している。

東海凱旋展 開催報告

東海郵趣連盟



東海郵趣連盟では、昨年の国際展・全日展・JAPEXにおける東海4県の出品作品の選抜凱旋切手展を日本郵便東海支社、名古屋中郵便局、岐阜中央郵便局のご協力を得て、平成26年1月12日に名古屋中郵便局2階「もうやいプラザ」にて開催しました。

当日は、東海地方の郵趣家を始めとして、日本郵便 東海支社 郵便事業本部 営業部長 大竹出様、同営業企画係 主任 那須友彰様、東海四県以外で東京から井上和幸様、吉田敬様、関西から高野昇郎様、須谷伸宏様など、東海地方以外からのご参加も多数頂くことができました。

この切手展が全国的に見ても、2014年の正月明け一つ目の切手展だった事も幸いしたかと思えます。出品者による講演や作品解説もご好評をいただき、一日だけの開催でしたが多いに意義のあるものとなりました。また、来年の開催も検討して行きたいと思えます。

(↗)名古屋中郵便局の2階という利便性のよい場所での開催の為一般客を含めて120名のご来場がありました。

展示者を中心とした記念写真。東海地方以外にも多数のフィラテリストがお越しになりました。

展示作品 ※かっこ内の数字は展示フレーム数です。

- THAILAND2013 大金賞
「日本手彫切手1871-1876」(8) 愛知 祖父江義信
- 全日本切手展2013 金賞
「手彫証券印紙1873-1883」(5) 愛知 長谷川純
- 全日本切手展2013 金銀賞
「小判切手の外信印」(5) 岐阜 小寺雅弘
- JAPEX2013 金銀賞 ベストワンフレーム賞
「日華連絡船船内郵便局 1937-1943」(1) 三重 小坂彰宏
- JAPEX2013 金銀賞 審査員賞詞付き
「支那加刷・田沢・旧大正毛紙6銭・8銭の色調」(1) 静岡 柳川英幸
- JAPEX2013 金銀賞
「フィリピンの航空郵便の発達」(8) 三重 若園泰三
- JAPEX2013 大銀賞
「旧議事堂2円往復はがき」(1) 愛知 石代博之



ヨーロッパ切手展とは

ヨーロッパ切手展は1840年から今日までヨーロッパで発行された切手を主題とする非競争切手展で、毎年ヨーロッパの中でも特定のテーマ（地域・主題）を決めて開催しています。

切手の本場であるヨーロッパをさまざまな角度から見つめ、ヨーロッパという地域についてそのつと新たな視点を持ち、ヨーロッパの切手の新鮮な驚きを見つけたいという思いから行われる収集家有志による切手展となっています。

第2回ヨーロッパ切手展

2月28日に日本郵趣協会事務局より発表されましたが、第2回ヨーロッパ切手展を、昨年同様、JPSのミニペックスの一つとして、2014年10月10日-11日(金土)に開催する事が決定しました。

今年2014年が日本とスイスが国交を樹立して150周年の記念の年という事で、第2回展のテーマは「スイス」です。

当切手展は、在日本スイス大使館が実施している「日本・スイス国交樹立150周年記念事業」に承認されたイベントであり、切手を通じてスイスを知ることができるイベントとする予定です。



日本スイス国交樹立150周年記念切手（スイス、2014）

当日は、スイスに関連する作品を40フレーム展示する他、次のようなことを計画しております。

- ・オーディオガイダンス
- ・日本スイス国交樹立150周年記念切手の分譲
- ・//・スイス郵政販売分の分譲
- ・記念小型印の使用
- ・スイス宛て外信便差立&回収サービスの実施
- ・フレーム切手の販売
- ・切手コレクションの分譲
- ・展示作品を収めた作品集の発行

スイスに関連する展示作品の募集をします。

この第2回展に展示する、スイスに関連する切手コレクションを現在募集しております。

伝統郵趣、郵便史、テーマティック、オープンはもちろん、カタログコレクションやトピカルも歓迎致します。

- ・上記のテーマで出品したい。
- ・上記のテーマに関連した販売品がある。
- ・切手展のプロモーションに協力ができる。
- ・切手展開催日にお手伝いができる。
- ・現在上がっていない地域・主題を提案したい。

出品に限らず、上記のようにご協力いただけそうな方は、主催者までお気軽にお声かけくださいますようお願いいたします。

2015年 第3回のテーマは「バルト三国」

加えて、作品公募期間を長く取るため、今回第3回のテーマも決めました。ラトビア・リトアニア・エストニアの再独立25年にちなんで「バルト三国」を予定しておりますので、出品を希望される方は是非今から計画を練って頂ければ幸いです。

ヨーロッパ切手展事務局

吉田敬（yoshida@kitte.com）

広島菟郵会創立40周年記念誌

菟郵



旧小判30銭11L

平成26年5月

広島菟郵会

広島菟郵会創立40周年記念誌、表紙(4/30刊行予定)

広島菟郵会とは

広島菟郵会は、40年前に本格的コレクターを目指す会員により創立しました。小判～田沢切手を対象としてきましたが、最近では郵便史及び外国切手にも対象を広げて活動しています。

冊子を数多く刊行するのが当会の特長ですが、このたびは20周年記念誌以来の久しぶりとなります。私達のような活動が、地方でも可能なことを知ってもらうため発刊します。

記事一覧（予定）

40周年を祝う

- 40年を振り返って（天野安治）
- 創立40周年にあたって（大橋武彦）
- FORTY—FORTY額面40の切手世界の最初の40枚（吉田敬）

個人コレクションから【伝統郵趣日本】

- 旧小判—12銭、30銭、45銭（大橋武彦）
- 小判切手二重丸印KB2（村岡博）
- U小判中期白紙のリーフより（井上和幸）
- 新小判1円・菊20銭10銭1銭4枚貼価格表記郵便カバーほか（長野行洋）
- 菊切手収集の40年（飯田文雄）
- 大正切手（西本正賢）
- 震災切手上的の鉄道郵便印（岡藤政人）
- 収集3本柱～手彫切手、金魚35円、岡山県郷土郵便史（近友勝彦）
- 私の切手収集25年と今後の目標～第2次昭和凸版40銭（横矢仁）
- 第一次国立公園（斉藤克二）

個人コレクションから【伝統郵趣外国】

- 勉強になった菟郵会～スイス切手、満州と満鉄（小林莞爾）
- オランダ領東インド1864—1948（榎原晃二）

個人コレクションから【郵便史】

- 19世紀末20世紀初頭日本発世界へ（天野安治）
- 似島俘虜収容所（日独戦争）（古井健）
- 安藝国不統一印（西永義憲）
- 安芸/広島局KG印の字体別（日向正則）

その他

- 銀銅賞「小判切手」のその後（大橋武彦）
- 収集復活の記～19世紀の米国で、28年ぶりのJAPEX出品（榎原晃二）
- 広島菟郵会発行冊子の記録（大橋・榎原）
- 執筆者紹介等

スタンペディア・ショップでは、この
記念誌の注文を受付中です。

<http://stampedia.shop-pro.jp/>

最近の情報 (120)

最近の情報発信 10 周年記念



小判振舞処

最近の情報発信10周年記念誌、表紙(4/20刊行予定)

小判振舞処では、平成16年より私信の情報版を出し続けております。この4月で10年を迎え「10周年記念誌」を作ることにした。今回は28名の方が書き下ろしていただき30篇記事206頁分が集まりました。現在、校正、編集集中で表紙、目次等は原案ですので、デザインの変更、目次の変更があるかもしれません。

本来、仲間内だけに配布する信書であります。前例にならうご希望者には有料で配布いたします。「小判切手とその時代」がテーマですので極限られた狭い世界の事柄に、ご興味のある方は是非この世界にお越しく下さい。完全予約制で制作いたします。追加発行等は一切致しません。予約者のみ詳細はご案内いたします。4月20日前後発行予定です。

記事一覧 (予定)

小判はがきの便号 (近辻喜一)
小判切手アラカルト (設楽光弘)
旧小判切手のエンタイヤより (城野隆三)
祝10周年、新たな5年に向けて (小寺雅弘)
赤二と二重丸型印 (平尾勉)
U小判5銭二重丸型印 (浅井治)
UPUカラー (はがき) としての赤二使用例 (穴戸俊介)
新小判100面版P12トンボ付考 (渡辺修)
満州 (中国東北) で使われた小判切手 (稲葉良一)
小判8銭2次原版のプレーティング (井上和幸)
オフペーパーに使用時期を語らせるー西野本から学んだことー (高野昇郎)
山口の印刷局銘はがき (村岡博)
明治35年の赤二 (田中寛)
明治初期の日本切手のデザインに影響を与えた外国切手 (イオニア諸島そしてスイス等) (吉田敬)
「郵燈」の小判切手に関する論文について (古家美和)
丸一型日付印の印類配布時の資料 (田畑裕司)
明治14年日本帝国郵便規則抄録 (水口公秀)
北上川の舟運 (佐々木義郎)
琵琶湖湖上逋送経路の変更に伴う郵便逋送の変化 (北川丈二)
鉄道停車場内設置の電信取扱局所と小判切手 (片山七三雄)
二重丸型、丸一型日付印の引受便数と集配便数の推定 (石代博之)
大坂の二重丸KB2印の話題 (梅原徹)
紀伊国の消印 (横矢仁)
肥後・熊本局の記番印について (立山一郎)
書留番号表示の変遷(東京深川/深川萬年町局) (鎌倉達敏)
北海道の二重丸印 (抜粋) (長野行洋)
静岡局の二重丸型日付印 (抹消印) (長田伊玖雄)
「没書入」郵便事務封皮 (設楽光弘)
特別寄稿：新昭和切手落ちこぼれ話 貼り換え、リタッチ、珍目打 (大村公作)
最近の情報100号～119号索引 (水口公秀)

スタンペディア・ショップでは、この
十周年記念誌の注文を受付中です。

<http://stampedia.shop-pro.jp/>

～ 年一回発行のジュニア向け郵趣雑誌 (フリーペーパー) ～



図1 2014年版の表紙

- スタンプクラブホームページのご案内
- [特集]切手のフリマってどんな感じ?
- パケットで始める国別切手コレクション (英国)
- テーマティック収集の進め方
- [マンガ] ハワイ宣教師切手殺人事件 (図2)
- 読者プレゼント

また、この雑誌の発行に先駆けて、年初よりメールやホームページと言ったインターネット版のスタンプクラブの構築を進めてきました。(図3)



図3 stamp club ホームページ



図2 [マンガ]ハワイ宣教師切手殺人事件より

3万部のフリーペーパーから興味を持ってくれたジュニア収集家が「千人に一人」毎年出現すると仮定して、その30人/年の受け皿になるように、ネットコンテンツをこれからも毎週一つずつでもよいので充実させて行ければと思います。

なお、stamp club 2014は、その発行にあたり、日本全国のフィラテリスト及び切手収集団体の皆様から一口2,000円でご支援を頂戴いたしました。お名前をご紹介しますと共に、御礼申し上げます。(順不同)

※名前の後の数字は一口以上のご支援を頂いた場合の口数です。

久野徹 様, 行徳国宏 様, 岡藤政人 様, 伊藤文久 様 (2), 菊池達哉 様, 奥山昭彦 様, 内田雄二 様, 大橋武彦 様, mapstampfan 様 (3), 榎原晃二 様 (5), 大嶋篤二 様, 福田達也 様 (2), 豊田陽則 様, たぬぞう 様, 柳川裕文 様, 岡本哲 様 (10)

(医)博成会 高円寺・川崎歯科 様, JPS沼津支部 様, 日本郵趣協会静岡支部 様, 福山支部 様, 日本郵趣協会鹿児島支部 様, 日本郵趣協会八尾支部 (5), 吉田敬 (2)

より合計49口 98,000円のご支援を頂きました。

このご支援により、日本で唯一のジュニア専門の切手収集雑誌を本年も発行する事ができました。心より感謝申し上げます。

書籍名: stamp club 2014 (通巻2号)

出版社: 無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

発行年: 2014年4月1日

発行部数: 30,000部

販売価格: 無料 (フリーペーパー)

外国切手出品者の会では、毎回メンバーが交替で、The Philatelist Magazineに、会の紹介記事を書いています。第2回目は、大阪在住の重山優が担当します。

メーリングリストで学ぶタイトルリーフの作り方

全日展2012に出品するにあたって、作品の構成はある程度固まっていたものの、トップリーフについては100%満足のいくものが出来たとは言えない状況でした。そこで、トップリーフの画像をメーリングリスト（以下、MLと省略）にアップして、皆さんの意見を伺う事にしました。やり取りは18通にのびりました。

会員からのアドバイス

「何かたりないな一、と思ったら、展示の構成についての記載がありませんね。用紙別なのか、額面順なのか、発行順なのか、最初製造面を全部見せて次が使用例とか、あるいはカタログ番号順とか、そういった作品の展示そのものに関する素朴なことです。」

「すかしの方向の図が大きなスペースを占めていて、これをみると用紙とすかしが分類の第一の基準になっているのかな一、と推測はできるのですが、すかしの方向別に切手を整理しているのでなければ、この図は大きすぎるかなと。」

「これらの用紙は全ての額面に存在する訳ではない」という言葉とすかしの方向を示す図よりも、横軸に額面、縦軸に用紙／すかしを取って存在するしないをマルバツで記載した表の方が見たいな、って思います。

重山「いやあ、一番痛いところを突かれてしまいました・・・・・・・・

ご指摘の件、今回の肝となるべき部分と思いますが、実は額面と透かしの関係をまとめた記事ってまだ確認していないのです。世の中のどこには存在している、と思っているのですが・・・

でも、頂いたコメントは正論だと思いますので、とりあえず透かしの図は削除し、そのスペースに一覧表を入れてみました。透かしの分類については、今回展示するマテリアルを基準にして記入してあります。従って、これ以外にも存在すると思

香港版烈士切手

香港版烈士切手とは、香港商務印刷局で印刷され 1939 年から 1941 年にかけて発行された普通切手の総称である。

用 紙

用紙には大きく分けて透かし無し及び透かしありに分類される。まず、透かしなしが発行され、その後透かしありが発行された。透かしなしは厚紙と薄紙に、透かしありは裏面から見た透かしの向きにより以下の 4 通りに分類される。なお、これらの用紙は全ての額面に必ず存在する訳ではない。



正水印

反水印

倒水印

倒反水印

目 打

全て単線目打であり、様々なピッチの目打器が使用されている。また、バラエティーとして縦又は横目打漏れが報告されている。「無目打」は横流れ品と考えられるので展示していない。

原 版

印刷するための原版は縦 5 × 横 5 の 25 面が基本となり、これを転写する事によって実際の印刷用原版が作られた。原版には定常変種が多く知られており、図版とともにそのポジションも明記した。また、特定の版にのみ存在する変種も報告されているので、そちらも合わせて明記した。

使 用 例

香港版烈士切手は、周囲を旧日本軍に囲まれた状況下で印刷され各郵便局へと供給された。そのため、全ての額面が中国全域で使用されたとは言え難く、限定された地域でしか使用されなかったと考えるべきである。また、度重なる料金値上げによって本来の使用目的を失ってしまった額面も多い。従って、使用例はもちろんのこと、使用済ペアやブロックを適時配置しどのような地域で使用されたのか理解出来るように配慮した。

図1 一番最初メーリングリストに投げてみたタイトルリーフ
透かしの画像を大きく表示したのが特徴だったが・・・

われますので、展示していないものについては未確認という記号で表示しました。

展示の構成についてのコメントは、他のコメント部分とのバランスをもう少し考えたいので中途半端ですが速報(?)版ということで・・・」

(ここで図2を再度MLに流しました。)

重山「小変更ばかりで「またか」と思われるかもしれませんが、展示順及び展示方法について追加してみました。

皆さんのアドバイスのおかげで、自分でも想像出来なかった様なトップリーフが出来つつあると思います。中身を見て拍子抜けしなければいいのですが・・・(図3を再度MLに流しました。)

会員からのアドバイス

「最初に重山さんが示してくださった案と、今回の案とでは、後者の方が重山さんの出品する作品とその切手についての情報が段違いに多いですね。このため、最初の案では雲を掴むような印象だったのが、今回のこの案を読むと非常にイメージがしやすくなってきていると思います。このトップページを読めば、このシリーズの使用済のある地理的範囲を明確にしてみようか、という動きが中国切手収集家の間で出てくるかもしれませんね。

重山さんも楽しんで(?) トップページの改作をして下さっているのではないかと思います。皆さんの意見をこうして全て反映していくのは簡単なようで、そうではない事を知っていますのでその点に敬意を表したいと思います。

そこで調子に乗って質問なのですが、このシリーズの名称が『香港版烈士切手』であるのは分かりましたが、では国名は何と表記したらいいのでしょうか?

これが例えば私の場合であれば「ルーマニア・麦の耳シリーズ」と簡単に表記でき、リーフの最上部にはROMANIAと国名を表記できます。しかしこの香港版烈士切手では、その国名に該当するのはどう書くべきでしょうか?

英語表記だったら CHINAでいいのかもしれませんが、中国は時代時代で国名が変化しているので、『中国・香港版烈士切手』と書くのがいいか、『中華民国・香港版烈士切手』とするのが妥当か、悩みませんか? 軽くいなしてCHINAと書く手もありそうに思えますが、果たしてそれがいいかどうか、私には分かりません。

JAPEXなどで中国切手のコレクションが出品される時、しばしば

香港版烈士切手

香港版烈士切手とは、香港商務印刷局で印刷され 1939 年から 1941 年にかけて発行された普通切手の総称である。

用紙

用紙には大きく分けて透かし無し及び透かしありに分類される。まず、透かしなしが発行され、その後透かしありが発行された。透かしなしは厚紙と薄紙に、透かしありは裏面から見た透かしの向きにより以下の4種類に分類される。

		半	1分	2分	2分	3分	4分	5分	8分	10分	13分	15分	17分	20分	21分	25分	28分	30分	40分	50分
		分			半					分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
透かしなし	厚紙	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	薄紙	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
透かしあり	正水印	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	反水印	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○
	倒水印	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	-	-	○
	側反水印	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-

○: 存在するもの ×: 存在しないもの -: 未確認

目打

全て単線目打であり、様々なピッチの目打器が使用されている。また、バラエティーとして縦又は横目打漏れが報告されている。「無目打」は横流れ品と考えられるので展示していない。

原版

印刷するための原版は縦5×横5の25面が基本となり、これを転写する事によって実際の印刷用原版が作られた。原版には定常変種が多く知られており、図版とともにそのポジションも明記した。また、特定の版にのみ存在する変種も報告されているので、そちらも合わせて明記した。

使用例

香港版烈士切手は、周囲を旧日本軍に囲まれた状況下で印刷され各郵便局へと供給された。そのため、全ての額面が中国全域で使用されたとは言えなく、限定された地域でしか使用されなかったと考えるべきである。また、度重なる料金値上げによって本来の使用目的を失ってしまった額面も多い。従って、使用例はもちろんのこと、使用済ペアやブロックを適時配置しどのような地域で使用されたのか理解出来るように配慮した。

図2 メーリングリストでのアドバイスを素直に受けて作り直し、重要度の割にスペースを取っていたすかしのイラストを削った。
でも、この時点ではまだ展示プランが抜けていたのです。

「中信版孫文票」などといった具合に国名をとばしていきなりシリーズ名に入っていきますが、中国切手研究会の人にはそれで良くて、「果たしてこの頃の中国の主権はどこにあったのやら」という非専門家の疑問に応えられないように思います。いやこれは本当に難問かもしれないのです。

重山「私の考えは「中華民国」で良いのではないかと思います。

ただ、この表記は旧日本軍の傀儡政権（汪兆銘政権）が使っていた表記（中華民国臨時政府）と似ているので、そんな人はいないかもしれませんが紛らわしいかもしれません。ただ単に「中国」ではそれこそ蒋介石なのか、毛沢東なのか、日本占領地域なのか分かりにくくなってしまおうと思います。特に日本占領地域では無加刷のまま使用されていた時期がありますので、郵便史的にまとめる場合には注意しなければならないと思います。

MLを通じて頂いたコメントを参考にして最終形(実際に切手展で使ったタイトルリーフ)として出来上がったのが図3です。

一番最初のリーフ（図1）から大きく変わったところと言えばすかしの図を額面別の一覧表に差し替えた部分でしょう。しかし、その部分だけではなく多くのアドバイスによって細かい部分にまで修正が加えられています。

審査員がまず目を通すのはこのトップリーフですから、トップリーフで良い印象を与える事が出来るのであれば、2リーフ目以降も良い印象を持って審査してもらえそうです。

ですから、MLでのディスカッションが無ければ（言い換えれば図1の状態のまま出品していれば）金銀賞を授賞する事は出来なかったのではないかと考えています。

切手展に出品する際、コレクションの中身も重要ですが、トップリーフの重要性を改めて思い知らされた出来事でした。

香港版烈士切手

香港版烈士切手とは、香港商務印刷局で印刷され1939年から1941年にかけて発行された普通切手の総称である。展示の順序は額面順とし、展示方法としては、まず透かしの有無で分類し、下表を元に用紙を分類した。そして、目打による分類を行った。定常変種が確認出来るものについては、その部分の拡大図を示しポジションを明記した。

用紙

用紙には大きく分けてすかしなし及びすかしありに分類される。まず、すかしなしが発行され、その後すかしありが発行された。すかしなしは厚紙と薄紙に、すかしありは裏面から見たすかしの向きにより正水印・反水印・倒水印・倒反水印の4種類に分類される。

		半 分	1 分	2 分	2.5 分	3 分	4 分	5 分	8 分	10 分	13 分	15 分	17 分	20 分	21 分	25 分	28 分	30 分	40 分	50 分
すかしなし	厚紙	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	薄紙	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
すかしあり	正水印	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	反水印	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○
	倒水印	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○
	倒反水印	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-

○：存在するもの ×：存在しないもの -：未確認

目打

全て単線目打であり、様々なピッチの目打器が使用されている。また、バラエティーとして縦又は横目打漏れが報告されている。「無目打」は横流れ品と考えられるので展示していない。

原版

印刷するための原版は縦5×横5の25面が基本となり、これを転写する事によって実際の印刷用原版が作られた。原版には定常変種が多く知られており、図版とともにそのポジションも明記した。また、特定の版にのみ存在する変種も報告されているので、そちらも合わせて明記した。

使用例

香港版烈士切手は、周囲を旧日本軍に囲まれた状況下で印刷され各郵便局へと供給された。そのため、全ての額面が中国全域で使用されたとは言い難く、限定された地域でしか使用されなかったと考えるべきである。また、度重なる料金値上げによって本来の使用目的を失ってしまった額面も多い。従って、使用例はもちろんのこと、使用済ペアやブロックを適時配置しどのような地域で使用されたのか理解出来るように配慮した。

図3 全日展2012に出品した作品のタイトルリーフ、最終形

セールの記録

オークションレポート

ジャパンスタンプオークション

鯛道治

オークションレポート等

ピックアップセール

編集部

ピックアップセールの記事作成をお手伝い頂けませんか？

大半の収集家が未使用ゼネラルコレクターだった時代には、切手の価値はカタログ値が絶対でした。しかし、専門コレクターが増加し、一点物の使用例や使用済みが人気な時代になってくると、切手の価値はむしろ相対的な物に変わってきました。

このような時代に、フロー情報として切手の取引価格を提供する事は意義があると考えており、今回テスト的に「ピックアップセール」という記事を作り、国内フロアオークションの各回ベスト5と、独断で気になった広告とヤフオク結果をまとめてみました。

完成後に思ったのですが、今後特に大事なのは、ネット上での取引結果の共有だと考えています。The Philatelist Magazine では、その為にヤフーオークションの切手関係オークションの落札記録をここ数ヶ月保存するようにしております。ただ、編集人である私のパワーだけでは、そのビク・データを記事化するパワーが必ずしも毎回とれないのが実情です。

そこで、私にかわってピックアップセールの記事を書いてくださる方を募集しています。データ分析をすれば、研究した人にはよりよく理解できる事もあると思いますので、この機会に是非一緒にやりませんか？小判のみとか記念切手のみといったような特定の分野の応募もOKです。

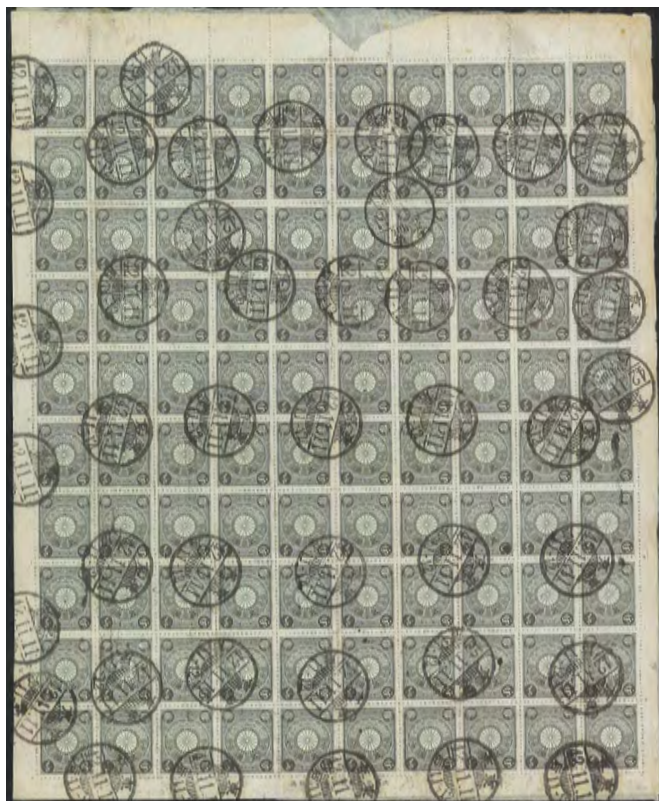
問合せ先： tpm@stampedia.net

2014年2月22-23日のセールをレポートします。

Lot1533 菊1/2銭シート 使用済

最低値40,000 応札3 スタート115,000

落札120,000。



マテリアルの評価とすれば、こんな物かな、が感想です。現時点では飛び込んで買った人の勝ちでしょう。でも、注意深く毎回オークション誌を見ている人ならば、絶対に気がついてはいるはずで
す。また出た！！もっと有るのでは？

今回も、同じ人の出品で、連続番号で2銭が2シートで最低値10万円、3銭赤が14万円で出ていました。当然ながら不落札です。

最初に出た時には、最低値5000円ぐらい、2桁の人が、競りに競って10万+ぐらいで落ちるのですが、それは1点しかないという大前提での値段です。

出品者はデータを見ているのですが、自己中心的に評価するので、調子に乗って設定を上げてくるのです。ハンマーを基準に、次も同じ結果を期待

して、ここまでおいでの最低値をつければ、売れる物も売れないのです。

値段と時期をこちらに任せてくれば、色んなテクニックも使えますが、達者な中国人（欲ボケ）とはいえ、終にはネタバレしてしまいます。2銭、3銭赤は、当分はいい値段では売れないでしょう。他の額面が続いて出てきても不思議では有りませんが覚悟して買ってください。排紙の横流れなので、局名は全て同じで、当然東京になるはずで
す。

払い下げは怖い物で、珍品・希品でもどれだけあるか判りません。僥倖に恵まれた人は、千載一遇のチャンスなので、売り方を勉強してくれば良いのですが、浅知恵で墓穴を掘ることになるのです。実はこの出品者、中国本土でいいルートを持っているのでしょう。アモイコロンス島の電報受領書＝日本統治下の台湾型の欧文印・KULANGULUSUは、完全な予想外の想像を絶するアイテムですし、満州の朱色の貯金切手を貼った貯金台紙の使用済にもビックリしました。理屈でも人気でも最上のマテリアルであり、最初は10～20万ぐらいで動いたのですが、余りに続きすぎで、気持ち的に飽和状態です。この人は、必ず最低値指定なので、オークショニアは手品を使えません。

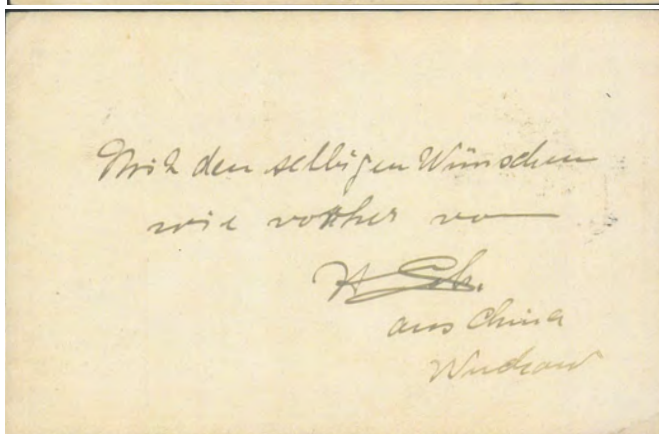
今回のセールの応札者の人数のランキングを見ても、圧倒的に最低値が割安な物に集中するので、結果は人数に比例しますから、売る気なら安く設定するのが正解です。弊社のお客さんは、想像以上に目を皿にして見てくれていますから。

一般的には、買値に拘って、オークションでの値段に不満を持つ可能性があるならば、元から出品してはいけません。貴方の品物を買うのは、あなた自身ではないのですから。特に、出品記事の、「て・に・を・は」まで指定して、記事の訂正を要求する輩には辟易します。オークショニアの役割は、マテリアルを正確に表現すればそれで仕事は完了、あとは市場が客観的に評価をしてくれる

のです。出品者の望むままに要求を受け容れることは致しません。それが嫌な人は、ヤフーに出品すべきです。

Lot1604 薄墨連合4銭 喫太利宛 廣州／CANTON IPO割印

最低値20,000 応札11 スタート450,000
落札490,000。



落とした人が言うには、相場は100万円、同じ様な使用例がこれで3点目だとか。何人かに聞きましたが、こちらが望む解説は帰ってきませんでした。脱落でもないし、局員のケアレスミスの見逃しでもないと思います。連合4銭は、日本郵政の会計で、喫太利宛の第2種料金としてOK、問題は何かIPO割印を押してしっかり確認をしながら、中国切手が貼ってないのかということです。

ルートをおさらいすれば、日本局開局前のCANTONの中国郵政のポストに投函（或いは窓口差出）、UPU未加入の中国は外国局に繋ぐしかない、でも本来ならば中国の国内料金を徴収して、廣州のIPOで割っての上海日本局経由の、日中コンビネーションになるはずです。葉書だから国内料金免除にはならないでしょうに。

識者の意見では、ルートの、日本局＝SHANGHAIを経由せずに、イギリス局のHONG KONGへ流したから貼っていないといっていました。それが正しいかどうかは判りません。メールの1番札は48万、日本の葉書の外信使用の専門家、恐らく世界一のコレクションを持っているはず。2番札は、44万、中国の郵便史のこの二人は意味が判っているのでしょう。3番札は一桁下でした。予想以上に上位の札が接近して、競りはあっけなく終わりました。日中コンビネーション制度での中国切手不貼付の理由をマテリアルから勉強してみたいと思います。

Lot2013 朝鮮字菊8銭 年号2字GENSAN 29.JAN.00

最低値60,000 応札6 スタート 340,000
落札360,000。



紙付きですが、⑩で綺麗に剥がせるでしょう。切手が発行月使用ということは、値段に全く影響しません。この額面で、消印違いで1列並べるのは大変です。丸一便号、電信、縦型は何とかなるのですが、年号2字はNINSENか、薄い色のSEOULしか有りません。GENSANがこの2局よりも少ないというよりも、硬質印による見栄えの良さが好まれるでしょう。

菊の人たちは、物凄く仲が良いので、物の評価＝値段の決定でもいつもくっ付いた数字になるのです。このマテリアルの場合、将来に亘っても、飽きが来ませんし、凌駕されることも無いでしょう。

他の人に持たれるのが嫌という何時ものさもし根性を抜きにしてでも落す価値があったと言える名品です。即売ならば20万が相場ですが、オークションで手を上げて落す優越感を踏めば、高くは無い買い物でしょう。

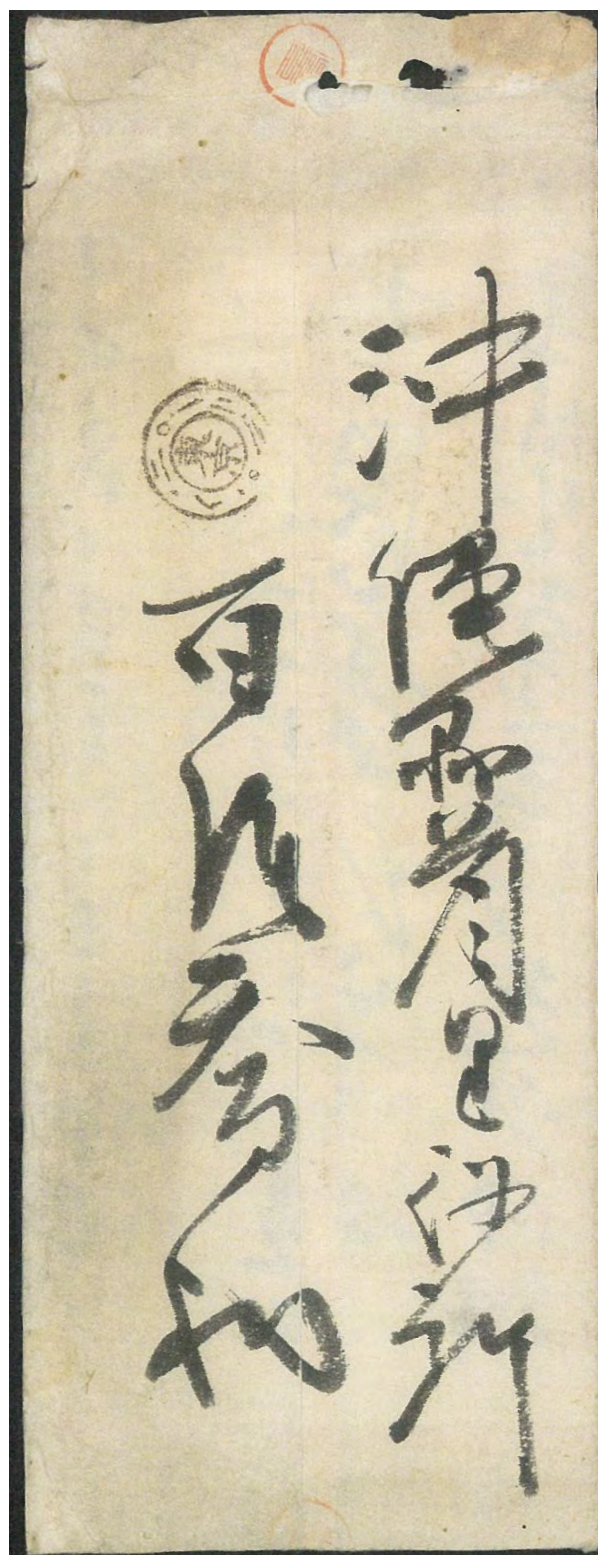
Lot 2299 U小4枚貼書留 那覇ボタ

最低値 100万 応札 9 スタート 185万
落札 270万。



文句なしの今回のセールの目玉です。那覇ボタの書留は2例目とか。フロアで2人が手を上げたので、応札者は10名です。落とした人の次が、メールの1番札で260万、場でのもう一人が230万、メールの2番値が180万、170万が2人、130万が2人・・・

全員が、落す気でビッドして、勿論、ニコニコ現金払いで大丈夫な雰囲気でした。少なくとも、分割云々の話はないし、落として、自分は偉いから



と、3年間ほったらかしとか、得体の知れない無意味な偽名のビッドという可能性は最初から排除されていました。

赤二の那覇ボタは、和桜20銭の口・八、不発行4完と同じく、素人受けする、永遠の花形なのでしょうか。予想を超える人気でした。

もっとも、2銭単貼は、ここ数年で両手に近い数が出てきて、私が扱っただけでも、オークションとプライベートの取引で6件もあるのです。

動く値段は、欠点の無いものでも、100万円が相場でした。だから書留という付加価値だけで、これだけの人数が、ほぼ200万円は払えるという事実には正直ビックリしています。

即売でなら、200万がMax、それでもすんなりは売れません。オークションの MATERIAL の場合、冷静な分析で値段を決めるのではなく、他の人を押しつけて買わねばならないというメカニズムで人気の MATERIAL は相場以上になるのです。小判切手や、ボタのコレクターなら、理性が邪魔をして買えない値段です。

今回のお買い上げは、赤二のボタ63局揃いの上がりではなく、もしかすれば初めて買ったボタのエンタかも知れません。場の参加者は、予想外のビッダーの登場にあっけにとられていました。超一級の珍品を好む贅沢なコレクターの気まぐれの所作でしょうか。

この名品は、金庫の奥深く仕舞われるのではなく、数年に一度は、琉球郵便史のコレクションのアクセントとして、海外旅行しても、煩い日本人に付きまといわれることは無いはず。

Lot 766 紀元2600年 みほん 4銭・20銭 右書、2銭・10銭 左書

最低値 20,000 応札 5 スタート 49,000
落札値 95,000。



記事を書く時点では、完全にスルーしていたのですが、下見会で言われました。2銭と10銭のみほんは、未発表では？

オークション誌には、無意識に書いただけですが、春発行の2種が「左書」の異タイプ、秋発行の2種が「右書」の印刷局の活字加刷、即座に、頭に浮かんできたのが、灰色勅額10銭目打有りの、「右書」と「左書」の存在でした。これの字体は、配列が違うだけで、印刷局の活字なので、占領軍に言われての、後告示と同じ様な意味合いで、終戦後に辻褄合わせに作った物ならば、理屈は通ります。

ただ、紀元の場合は、最初の発行の2種が、左書の異タイプというのが異彩を放っているのです。聞かれた際には、灰勅と同じで、みほんの不存在を米軍の収集家に指摘されて、戦後に作った？みたいに話したのですが、不存在自体が説明できないのです。

「みほん」で困った時には、郵便切手資料・みほん切手（昭和編）S48年と日本のみほん切手（明治・大正編）S54年、山本義之著を見るのです

郵便切手資料

みほん切手(昭和編)



第三輯

山本義之著

が、紀元の春2種は、見本切手現在不詳の記載でした。この本の情報を元にして、昭和切手あたりで、巷間言われていたのが、発行数が200~300枚、でもそれは、正式に相手を特定して、配布された枚数がそれというだけで、製作数は、一桁以上は上なのです。

国内の郵政関係の方の遺品と、アメリカからの里帰りが沢山、マーケットに出てきており、改めての検証も出来るようになりました。数が増えて、字体のタイプの組み合わせとか、今でこそわかる情報もあるのですが、根幹では、山本さんの論文は何ら色あせていないのです。物が極めて限られて、1次昭和のみほんが、10万円位した時代の研究とすれば、驚異的な成果だと思います。

山本義之さんは、昭和をフルに生きた方で、昭和天皇と同じ年に生を受け、ご崩御の数日後に不帰の人になりました。晩年の5年間ぐらい、随分親しくお付き合いをさせて頂き、現行切手のシートを目打形式は、この方のコレクションを触って、何時しか自分の知識になりました。ただ、おしどり5円は、茶と青の角度分類がせいぜいで、版の

研究と、スクリーン線数にはタッチできませんでした。正櫛180線と3版シートも有ったはずですが、時代の闇に融けてしまっています。その時としては、いい値段だったはずですし、細かく分類をして、高く売ってくれたと喜んでくれました。

最近、電話の問合せで、数人から「かつおつり」について聞かれたのです。私としては今まで、どこにも書いていないのですが、深く関わった取引がありました。当時の関係者は恐らくは生存されていないはず、また、今後も新しい事実の開示がなされないと判断して、知り得たことを記録に残すことにいたします。

唯一かつ絶対的な基本文献があって、「郵便切手資料・かつおつり50銭切手」山本義之・中井輝典共著 S40です。

内容をなぞっても無意味なので、マテリアルをコンパクトに解説いたします。最近の電話でのお問合せは、オークションに出品することを前提にしての話です。ヤフーに出たものが、60~70万になったのは事実ですし、目打・糊付の完成品と無目打・糊無の試作品が、シートを分割されてマー

郵便切手資料

かつおつり50銭切手



山本義之・中井輝典 共著

ケットに出ています。郵趣界に丸ごと残っての流通なので、目にする機会も多いのです。逆に言えば、シート分割以外の物は、真正である可能性は非常に薄く、無目打の銘付10枚ブロック＝某組織の鑑定書付は、2度オークションで売られたのですが、私は扱いを辞退しました。確か透かしがあったような気がしますし、後述する、保家さんのシートを元にして印刷した物と思われます。

データは、上記の文献から転載します。付け加えることは、試作品も透かし無しであるの1点です。

印刷所から郵趣のマーケットに出たのは、完成品・試作品が各2シートで、これ以外の端数は有りません。

完成品の1シートは、新生スタンプがS41年に分割して分譲、高良益人・山本義之・中井輝典3名の連名の鑑定書付、ポジション明記で販売しています。

おぼろげ記憶では、@3万円と聞いた覚えが有るのです。単片以外にもペア（或いはそれ以上でも）販売しています。

試作品の内1シートは、元参議院議員の保家茂氏が所有していたものが、郵趣サービス社により分割、分譲されました。切手の博物館の鑑定書が付いています。サービス社としては、社運を賭けての大勝負、見事にお勝ちになりました。

値段に関しては、最近のオークションの相場としては、完成品も試作品も20万ぐらい、30万なら不落札になるようです。何れも、鑑定書が100%付いているはずで、普通の人は捨てませんから。

残りの各1シートですが、試作品は、元郵政大臣の森山欽司氏のご好意で、通信博物館に寄贈されています。所謂、陸原さんのシートですが、詳しい経緯は存じ上げておりません。

かつおつり50銭切手のメモ

＝完成品＝

図 案：かつおつりの光景をえがく
原 画 作 者：加曾利鼎造
額 面：50銭
印面寸法：縦22.5ミリ，横18.5ミリ
版 式：凸版
刷 色：灰オリーブ味暗緑色
銘 版：大日紙業株式会社製造
左書で横33.5ミリ，96～98番切手の下に位置
紙 質：証券用薄手無透し上質紙
目 打：全型目打，12×12
糊：アラビア糊，手布き
シ ー ト：10×10の100面版，化粧裁されていない。
縦34×横25センチ
耳：周囲に太い霞罫，上下には2, 3, 3, 2, 枚，左右5, 5枚がけ，1カ所に北原印あり。
確 認 数：完全シート2，（ただし山本氏は原状保持，高良氏は近くバラして頒布の予定。

＝試刷品（残存分）＝

銘 版：92～94番切手の下部に位置
目打・糊：いずれもなし
耳：縦横とも5枚，5枚がけ
残 存 数：完全シート2，

シート包装紙

用 途：100シート用
紙 質：ワンプー紙（黄土色）
記載事項：郵便切手
五十銭
10.000枚 } 3行に配す
刷 色：黒色
備 考：のぞき穴なし

※納入数量は1,000,000枚なるもその分は煮つぶし処分さる。

※ 表中，故意に誤植した個所もあります。

最後の1点が、思い出深いアイテムです。昭和62年ごろでした、30年楽しんだから、「かつおつり」を売りたい、何とかしてくれというお話でした。勿論山本義之さんです。会社にお邪魔して、煮詰めました。昭和30年2月5日に縁あって高原処月さんから購入、価格は100万円、それ以上に、広報担当の中井くんの酒代が高かった・・みたいな話になりました。

山本さんのご希望の条件は2つ、値段は1000万、それ以上に、シートで持ってくれる人に売りたいです。あの時でも、分割すれば@10万でも可能性は有ったと思います。でも、切るなら、後で化けて出ると言われて断念、シートでの永久保存のお客を探しました。

結論としては、人を介して、目出度く通信博物館に収まりました。値段は、かなり安くなってしまいました。因みに、私は、双方から一切手数料を貰っていないのです。

商売とすれば、かなりのダンピングになったので、自分で買い取って、ほとぼりを冷ましての分割・・も有り得たし、仲介者に渡せばその後の流れは判らないので、別のやり方が有ったかな？みたいなかなり後悔したディールでしたが、発注書とかの一切の資料も通博にあることが確認できています。今までは、化けて出られていないという安心感で満足いたしました。

晩年の山本義之さんと付き合いがあった業者は、私だけでしょう。コレクターも、伊丹の松井慶正さんだけが木戸ごめんだったとか。この方も1月25日に逝去されました。山本さんのみほんの大著、明治・大正編、公称300部の印刷だけど、沢山残っていると伺いました。埋もらせるには惜しいので、何とか引っ張って来ようかと思っています。お住まいは近いのですが、中々に機会がないのです。

JAPAN STAMP AUCTIONS 2014年～2015年スケジュール

フロア	メール	フロアセール(土～日)	メールセール(火)	ご出品締切(土)
第82回	第73回	5月31日～6月1日	6月3日	2014年4月5日
第83回	第74回	8月30日～31日	9月2日	6月28日
第84回	—	11月2日(日)〈JAPEX〉特別セール	—	8月23日
第85回	第75回	12月6日～7日	12月9日	10月4日
第86回	第76回	2015年2月21日～22日	2月24日	12月27日
第87回	第77回	5月30日～31日	6月2日	3月28日
第88回	第78回	8月29日～30日	9月1日	6月27日

オークション開催は大阪で年4回(1回のセールでフロアとメール、各1回)と〈JAPEX〉会場での特別フロアセールを開催します。各回共、幅広い日本及び関連地域の中高級のみを扱います。大阪のセールで5,000

～6,000ロット、〈JAPEX〉特別セールで2,000ロットの出品です。年会費は1年間(1月～12月迄)で2,000円。オークション見本誌はフロア・メール2冊で300円(切手代用可)でお届けします。

年会費のご案内

1月・2月	にお申し込みの場合	2,000円	で年末迄
3月・4月	〃	1,600円	〃
5月・6月	〃	1,200円	〃
7月・8月	〃	800円	〃
9月・10月	〃	400円	〃
11月・12月	〃	2,400円	で翌年末迄

年末年始休業：12月28日(土)～2014年1月6日(月)

★<http://www.japan-stamp.com> ★E-mail: japan-stamp@juno.ocn.ne.jp

オフィス
〒530-0001 大阪市
北区梅田1-1-3-1400
大阪駅前第3ビル14F1号
★店頭販売はしていません★

通信先 → 〒530-8691 大阪北郵便局 私書箱89号

ジャパン・スタンプ商会

営業時間 火～土 10時～6時 (日・祝・月休業)

Tel 06-6347-1601 Fax 06-6347-1602
ゆうちょ銀行振替口座：00980-3-51454
取引銀行：池田泉州銀行 石橋支店
当座 # 85749



オークションの後のカッコ内の数字は、#で始まる物がロット番号、その後の数字がスタート値です。注目のアイテムの選択は独断です。なお図について実際の出品物でない図も使用しています。

1/18 第490回 JPSオークション

落札金額ベスト5

1. 100万円 新中国 梅蘭芳SS NH(#492, 80万)
2. 54万円 新中国ロット 紀1-124 385種 梅蘭芳SS,同無目打含まず (#491,44万)
3. 52万円 航空切手ロット 制定シートNH, 飛行試行、銘版付き単片(#319,50万)
4. 40万円 戦前記念完揃 NH多い(#402,40万)
5. 36万円 新中国 文革切手ロット、文普4除き完揃い 済主体(#490, 35万)
6. 36万円 新中国 梅蘭芳 無目打 OH(#493,24万)

番外

140万円 額割切手179万以上(2454,110万)

注目のアイテム

#249 小代式機械印 東京中央 5.1.1前0-7 台分銅葉書1銭5厘 15万→24万

#2494 手彫り切手シート写真帖(1969, 切手分化会) 1,500→3,400

JPSさんは新中国は強いですね。でも100万円＋コミッション15%ですから、梅蘭芳SS（図）の相場もだいぶ落ちてきてきましたね。

郵趣等には同切手のSSを180万円で、無目打セットを50万円で買い入れするという広告が二社ほど出ていますね。これらは本当にその金額で買い入れられているのでしょうか。



額割切手は、落札手数料を合計すると額面の11%引きで販売された事になります。この相場は金券ショップの相場とさして変わらないのですが、収集家のコレクションの方がバラエティに飛んだ切手が入っているので、コレクターにはこちらの方が好まれるようです。

小代式機械印は昨年の鳴美フィラトリックオークション（2013年10月26日）に出品された物（#292 10万→12万）とは違うアイテムですが、日付は同じく 5.1.1 前0-7の東京中央局で台葉書も同一です。

1/19 568回タカハシ・スタンプ・オークション

落札金額ベスト5

1. 145万円 旧小判3銭、U小判5銭貼り 書留書状 品川→舞鶴(#466, 120万)
2. 30万円 軍事・新毛紙 平台 銘付6枚ブロック(#50, 25万)
3. 30万円 支那字入り・旧毛紙 2銭 下霞野耳付き 済 支那天津 10.8.4 (#202, 30万)
4. 29万円 軍事・新毛紙 ゲーベル 銘付6枚ブロック(#51, 25万)
5. 28万円 1949年 UPU75年・24円 目打漏れペア第三コーナー耳紙付き(#102, 22万)

2/16 569回タカハシ・スタンプ・オークション

落札金額ベスト5

1. 190万円 土佐村送り「三里已下村送」切手カバー 明治7.6.18 (#459, 180万)
2. 32万円 田沢ペーン 旧大正毛紙 3銭 (BP14b) 櫛型目打 12*12.5 A型 (#244, 20万)
3. 32万円 田沢ペーン 旧大正毛紙 3銭 (BP18v) 単線目打 11*12 B型(#251, 20万)
4. 32万円 洋桜黄2銭ル 書状 記番印イ100号 原町田→上州館林町 (#457, 30万)
5. 30万円 洋墨六夕 開港地郵便 HIOGO→NAGASAKI 1875年 (#452, 25万)

タカハシスタンプオークションは、手彫切手が強いイメージがあるのですが、それ以外の小判や田沢も熱いんですね。

村送り切手は別として、田沢切手特に、軍事加刷のマルチプルや切手帳の競争を改めて認識しました。競争展出展者も多い分野なので、コンパウンド目打はじめ珍しいものには札が集中するようですね。

ジャパNSTAMPオークション

落札金額ベスト5

1. 270万円 那覇ボタ、U小判2銭P13片銘左含む4枚貼り書留(#2299,100万)
2. 130万円 那覇ボタ、台小判1銭葉書(下図)(#2298, 60万)
3. 78万円 デグロン君カバー、洋桜2銭、セレス25c2枚、80c貼り(#2352, 50万)
4. 49万円 淡墨連合4銭オーストリー宛 IPO割印(#1604, 2万)
5. 36万円 根室ボタ、U小判2銭貼り書状(#1162, 15万)
6. 36万円 朝鮮字入り8銭 GENSAN 満月印(#2013, 6万)
7. 36万円 洋桜2銭 へ 未 NG(#2543, 20万)



3/8 第26回 スターオークション

落札金額ベスト5

1. 42万円(#984,30万) 日本ヒンジレス1巻ロット、記念NH揃い、普通は昭和以前は済等
2. 35万円(#985,20万) 日本ヒンジレス2巻ロット、大半は未使用NH
3. 29万円(#987,24万) 日本ヒンジレス4-13巻ロット、額面43万円以上
4. 22万円(#988,15万) 沖縄ヒンジレスロット、100円加刷H裏焼け含む
5. 13.5万円(#856,10万) 沖縄100円加刷鑑定書付き

注目のアイテム

#1 玉六「ラ」 羽後・水無(薄消) 3.6万→9万

JPSさん同様、スターさんもロット物が大商いとなりました。これ以外に目立った出品物は、みほん字入り切手で、148ロットにものぼる出品がありました。



その中で一万円を超える落札額になった見本字入り切手は次の通りです。

1947年 東京切手展(#47, 3万→10万)

1937年 乃木2銭切手帳 表紙+2ページ(#45 3,000→65,000)

1949年 犬山博SS (#49,5,000→60,000)

二宮貯金台紙(#46, 5,000→34,000)

1969年新藤20円 第3コーナー10枚ブロック(#28 3,000→22,000)

1951年 50.00円SS(#48, 5,000→15,000)

注目のアイテムにあげた玉六のラは、日本記念ロットや見本字入り以外で最も注目していたアイテムでしたが、薄消しだったためか思ったより価格は伸びませんでした。

ヤフオク

1872年和桜10銭政府印刷黄緑未13.5万円(2/11)
1924年 新高額5円 大正毛紙 未 44,500円 (3/1)
1946年 1円靖国神社 田型済 22,500円 (3/3)
1951-53年 観光地百銭 みほん完 49,000円(3/1)
1953年 10円壁画シート 126,000円 (3/1)
1956年 75円シート 153,000円 (3/1)
1961年 10円桜 短期適正外信船便印刷物 希少重量便5円加貼 22,500円 (3/8)
KAMAKURA-MARU / NIPPON 7.3.39 開局初期の欧文櫛型印 台風景10銭 7,810円 (3/2)



注目の広告から相場を理解しよう！

カッコ内の文字は掲載媒体名（郵＝郵趣、マ＝スタンプマガジン、フ＝フィラメイト、W＝郵趣ウィークリー）数字は号数です。

日本戦前通常

1871-2年 竜文竜銭 8種セット 未 35万円 (郵2)
1872年 竜銭 4種セット 未 29万円 (マ2)
1872年 和桜 6種セット 未 20万円 (郵2)
1874年 洋紙・墨六ヨ・済・鑑定付 24万円 (フ1)
1875年 鳥45銭 仮名3種set(イロハ)14.8万円 (マ3)
1875年 鳥切手3種セット 16万円 (郵2)
1896年 日清戦争勝利ガッター付き田型 4種完 19.8万円 (マ3)
1899-1907年 菊 18種セット 未 15.8万円 (マ2)
1913年 大正白紙 11種完 未 26万円 (郵2)

日本戦前記念等

1916年 立太子礼10銭 買入15万円 (郵3)
1919年 飛行試行NHセット 24万円 (マ3)
1919年 飛行試行 買入1銭5厘 5.5万円 (郵3)
1919年 飛行試行 買入3銭 10万円 (郵3)
1934年 制定SS 298,000円 (フ3)
1935年 富士山20面SS 買入10万円 (郵3)
1936年 公園 富士箱根シート4種set70万円(郵1)
1938年 公園 日光シート4種セット 35万円 (郵1)
1939年 公園 大山シート4種セット 35万円 (郵1)
1939年 公園 阿蘇シート4種セット 80万円 (郵1)
1940年 公園 大雪山シート4種set 60万円 (郵1)
1940年 公園 霧島シート4種セット 40万円 (郵1)
1941年 公園 台湾シート8種セット 80万円 (郵1)



日本戦後通常

1946年 15銭前島シート 168,000円 (マ2)
1949年 産業図案・100円・買入4.8万円 (郵2)
1949年 産業図案100円印刷庁銘付 7.8万円(フ1)
1949年 産業図案500円大蔵省銘付 7万円 (フ1)
1949年 産業図案500円印刷庁銘付き 7万円(フ1)
1951年 50円SS・55,000円 (マ2)
1951年 50円SS・買入29,000円 (郵2)
1952年 45円シート・54,000円 (マ3)
1953年 10円壁画シート・エンボス裏写り
56,000円 (マ2)
1953年 10円壁画 万束 2,250円 (W9)
1954年 10円壁画10枚切手帳見本 5,000円(W7)
1956年 14円シート・98,000円 (マ3)
1956年 75円シート・126,000円 (マ3)
1957年 24円シート (50面)・115,000円 (マ2)
1959年 30円シート(50面)・32万円 (マ3)
1961年 10円桜 万束 2,500円 (W9)
1962年 90円青風神・銘付10枚ブロック
4.3万円 (マ2)
1997年 料額印字コイル切手・10円エラー 3万
円 (フ1)



これで5000枚です。万束はこれ二つです。

日本戦後記念

1948年 月に雁 5面シート 50,000円 (フ3)
1949年 犬山こども博SS 58,000円 (フ3)
1949年 公園 吉野熊野シート4種set33万円(郵1)
1950年 年賀SS 虎 3万円(郵3)
2012年発行切手set(アルバム入) 65,040円 (フ2)
2013年発行切手set(アルバム入) 65,800円 (フ2)
1960-2004年 日本切手未使用一級品コレクション
JPSヒンジレス 3巻~13巻セット (切手額面
24.7万円分) 22万円

日本その他

1943年・南方占領地・ビルマ・農耕切手 (セン
ト) 9種・シート 20万円 (フ2)
昭和9-12年の風景印官白と小型印790枚・状
態良 12万円 (郵3)

外国切手

1840年英ペニーブラック未フルマージン(下狭い)
30万円 (郵2)
1840年 英 ペニーブラック 未 糊一部 鑑定付
72.8万円 (マ3)
1841年 英 ペニーレッド 未 糊完全 鑑定付
14.8万円 (マ3)
1851年 英領ニューブルンズウィック 3ペンス 済
39,000円 (郵12)
1853年 英領喜望峰 1ペニー 済 39,000円(郵12)
1853年 英領喜望峰 4ペンス 済 21,000円(郵12)
1957年 韓国 年賀SS 未 3種完 54.8万円 (郵12)
1958年 新中国・関漢卿SS 88,000円 (フ2)
1893年 米 コロンブス博 2ドル 未 並品
167,000円 (フ2)
1893年 米 コロンブス博 5ドル 未 オフセンター
198,000円 (フ2)
1931年 独 ツェッペリン北極飛行加刷1マルク
ハイフン落ち NH (スコット#C40a)
21.8万円 (マ3)



70名もの方がアンケートに回答！

The Philatelist Magazine 創刊号では、ネット媒体の特性を生かして、オンラインアンケート（下図）を実施いたしました。その結果、70名もの方よりご回答をいただく事ができました。まずはその事に感謝申し上げます。

PDF雑誌の創刊ということで、「将来の有償化」および1号に対する感想として頂いたものをまとめてご紹介いたします。

アンケートは毎号やっておりますので、前回ご回答くださった方はもちろん、初めての方もどうぞご協力よろしくお願いいたします。

100ページ超のPDF郵趣雑誌、今の質を保てるなら、500円支払うという方が大半。

「将来の有償化」については、2015年より一号あたりPDF版の購読費用を500円で発行する事についてご意見を求めました。

この設問については77%の方から「現在の質／量がキープできるのであれば購読する」という回答を頂く事ができました。

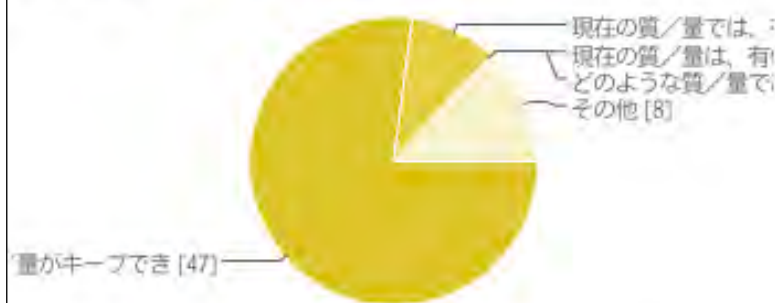
「その他」を選ばれた方の意見もすべて拝見しましたが、高いので購読しないという意見は一件のみでした。

消費者が紙の雑誌の購読に支払う代金には、製紙会社、印刷会社、運送会社や倉庫会社に出版社がまとめて支払う分の代金が含まれています。

PDF出版の最大の目的は、これらのコストを極小化し、コンテンツ自体を生み出す部分にお金を回す事にあると私は考えています。

20代-30代といったデジタルな世代が少ない郵趣家の皆様に、この点がどれほどご理解頂けるだ

将来の有償化についてご意見ください。



現在の質／量がキープできるのであれば、有償（@500円）でもPDF版を購読する。	47	77%
現在の質／量では、有償（@500円）でPDF版を購読するかどうかは微妙である。	6	10%
現在の質／量は、有償（@500円）でPDF版を購読するにはかなり不足している。	0	0%
どのような質／量であっても、有償（@500円）でPDF版を購読することはないと思う。	0	0%
その他	8	13%

ろうかと発行前は心配しておりましたが、たいへん高い割合の方にご理解を頂くことができ、発行者として安堵すると共に、当プロジェクトを始めて良かったと思いました。

以下いくつか御紹介させていただきます。

「非常に充実しており驚きました。昔のフィラテリスト誌や連合や協会が出版した郵趣百科年鑑のような印象ですが、どこことなく同人誌の趣も感じます。無理せずジックリ育てていただきたい刊行物です。」（奥山昭彦様）

「重大ニュースはじめ、吉田さんの記事はタイムリーで、情報量豊富でした。鯛さんの記事も参考になります。」（近辻喜一様）

「郵趣全般からかなりの期間離れており、最近時間に余裕のある生活に入りましたので、少しずつ郵趣を楽しもうと思っておりましたところ、WEBで郵趣誌を入手することが出来るとは驚きでした。時代の変遷に目を瞠るばかりです。」

（中田広志様）

「多方面の各分野からの記事、企画を取り入れた、今までにない郵趣雑誌だと思います。本発行への移行を期待、応援しております。」

（西海隆夫様）

「充実した内容で、素晴らしい。吉田さんの熱意に感動しました。」（祖父江義信様）

「量が多く、話題も豊富で大満足です。写真（マテリアル等）が多く、カラーだったのも、良かったです。」（小関加夜様）

「謎解き郵趣は大変面白い企画と思います。個人的には収集分野が重なる木戸さんの記事、出品したJAPEXの長野さんによる参観記を興味深い拝読しました。この出版形態(pdfに限らず、電子書籍全般)は、海外在住の私には大変ありがたく、他の郵趣関係文献にも、新刊、古書を含め拡大したらいいなと思います。」（中野健司様）

「ページ数の限界がないのが魅力です。」
（大場光博様）

「楽しく拝読いたしました。
多方面の専門家の皆さんが夫々に分かり易く書いておられるので大変勉強になります。」

『郵趣』誌と『郵趣研究』の中間的なところが良いですね。

また郵趣に関する最新情報も掲載されており知識と情報の両方が満たされた感じがします。
今後も継続発行されますことを期待しております。」（荒木寛隆様）

「全体的にととても楽しめました。ありがとうございました。私は、収集歴も浅くて収集対象も定まっておきませんので、御誌の専門的な記事はとても参考になりました。まだまだはるか先のことと思いますが、御誌を拝見して、切手展に出品してみようかなということも考えるようになりました。ハイレベルなコレクターだけではなく、私のような素人も楽しめて、そして次の収集のステージも考えられるような素敵な雑誌であると感じました。」（Takayuki SUZUKI様）

「こういった情報があればと思っていた情報が沢山ありましたので、非常に有用でした。」

PDFではあまり感じなかったのですが、プリントアウトしてみてその情報量に驚きました。
次号以降も期待しています。」（竹上幸浩様）

雑誌の編集方針を明らかに！という要望も

今回、少数意見（3名）でしたが、はっと気付かされたのは、The Philatelist Magazineの編集方針を明示化しなければならないという事でした。

「記事内容に精粗はあると思いますが、個人的には楽しく読むことができました。

一つ思うのは、読者対象をどのような範囲とされておられるのでしょうか？JPSの「郵趣」がありますが、私にとっては昔（60～70年代）のものに比べて内容がないと感じているのですが、それでも、内容が難しすぎると感じる読者が多いとかで、新年号からはかなり変わるようなことを聞いています。

もう一つは、編集メンバー及び投稿者の確保が大変のような気がしています（別の専門郵趣会の会報編集に関係していることからの実感です）。」（飯塚博正様）

「どんなものか期待して読んだのですが何を主体にしたいのかよくわかりません。

日本の切手収集界全般のトピックスの集合のように見えます。何かまとまった研究記事のようなものにはならないのでしょうか。昔協会が発行していたのフィラテリストの様に。ゼネラルでそれは難しいのかもしれませんが。」（町田敏郎様）

「全体的に将来性、可能性を感じました。敢えて欲を言えば、ですが、刊行の趣旨（どういう目的で、何を内容とするか）がほしい。記録か評論か報道か、など何を重視しようとするのか、読者としては性格を掴みたい。」（鈴木孝雄様）

コメントくださった皆様はそれぞれ「読者対象」「主体」「刊行の趣旨」という単語を使用されていますが、それらを包括する編集方針の明示は大事だと思うに至りました。

編集方針を創刊号から変えるつもりはないものの、今号から目次のページでそれを明示して掲載する事にしました。アドバイスありがとうございました。

PDF媒体ならではの問題が発生

PDF雑誌である事を念頭に編集してはいるのですが、それでも紙媒体の編集方法を踏襲してしまい、不便が起きてしまいました。最大の課題は目次でした。

「見やすい目次、ノンブル、筆者名がほしい。伝統郵趣、テーマティク以外に、郵便史への目配りがもっと（等分に）ほしい。」（鈴木孝雄様）

「連続構成では読みづらい。INDEXで飛べるようにするか。10頁くらい単位での区分けが欲しい。」（fukuhara choki様）

「文章が、写真の図版の位置のレイアウトのためか、又は2段組のためか、読みづらかった。」（志村弘様）

「ページをめくるのに上から下への移動は少し読むにくく思います。」（武田幸作様）

「私の場合、パソコン画面を見つめるのは苦手なので、プリントアウトして読んでいます。今回はすべてのページをプリントしましたが、次回から興味の薄いページについては省略しようかと思っています。」（大橋武彦様）

「正直なところ高齢者にとっては大量の情報をパソコンで読み続けるのは多少苦痛ですね。」（荒木寛隆様）

「紙面が二段組みで作られています、ペーパーで読む場合は読みやすいと思います。私のパソコンでは、A4が画面にすべて入らず、マウスで上下しながら読みます。電子データの配信の場合、二段組みでなく、一段で横に流して読む方が読みやすいと感じました。内容については、楽しく読ませていただきました。」（古家美和様）

解決できる事とできない事がありますが、まずは、今号から次の二つの事を始めたいと思います。

- 1) PDFにデジタル目次を今号より付与。
- 2) 冒頭の目次を強化し、ノンブルや著者名等がすべて分かる様にし、かつ印刷したい場合にどのページを印刷すればよいか分かる様にする。

解像度が余り高くないパソコンでPDF雑誌（A4縦型）を読むと画面にすべて納まらないという指摘は盲点でした。iPad等の電子ブックリーダー等も含めて縦型がどんどん増えているのが現実ですが、何かいい救済方法がとれないか、これからも考えてみたいと思います。今すぐには解決できず申し訳ございません。

これに加えて、PDFファイルの閲覧ができないという意見を一割強の方から頂いております。こちらについては、Adobe Readerの使用を推奨することでほぼ解決したのですが、一部の方についてはまだ不便が続いています。第二号ではより徹底した対策をとることで解決を図りたいと考えております。

オンラインアンケートに是非ご協力をお願い申し上げます。

The Philatelist Magazine は編集人による思い込みで紙面を展開しない為にも双方向の雑誌作りを行いたいと考えております。

双方向の雑誌作りにとって欠かせないのは、購読者の皆様からのオンラインアンケートのご回答です。

アンケート回答者の方には限定特典として、The Philatelist Magazine 号外もお送りしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

オンラインアンケートには下記サイトからリンクしております。

<http://tpm.stampedia.net>

3月末から開始するキャンペーンの予告 鳥取県が第1位 これはいったい何のランキングだ???

「PDFで郵趣雑誌を発行しようと思うんだけど。。。」

当初この話を収友にした時の反応は「高齢者の多い切手収集家にPDFは受け入れられないよ」でした。でも友達がなんと言おうと自分の中での結論は最初から「発行する」で決まっていた様な気がします。

最初に送りつけたのは本当に近い友人30名弱だけ。しかし、そこからブログをはじめとするソーシャルメディアで拡散していただいた事で、現在の購読者数は350名を数える所まで増えました。

出だしとしてはよい数字ですが、先々の事を考えますと、まだまだ到底満足してよい数字ではありません。➡

	都道府県	指数
1位	鳥取	5.15
2位	東京	2.27
3位	広島	2.11
4位	静岡	1.87
5位	石川	1.72

➡「2000人を目標にしようと考えているんだけど。。。」

今度は鼻で笑われてしまいました。しかし、自分の中での目標は最初から「2000人」できていたような気がします。

それに向けて、3月下旬からご購入いただけるご友人の紹介キャンペーンを開催予定です。上の表はそのキャンペーンに関連するランキングです。鳥取がダブルスコアでぶっちぎりの一位??

こちらが何のランキングかは3月下旬にお送りするキャンペーン告知号外にてお知らせいたします。必ず面白いキャンペーンにしますので、しばらくの間は、皆さん「??」でお過ごしください。

[広告]



郵趣文献ショップ取扱書籍のご案内

<http://stampedia.shop-pro.jp>



国際郵趣
サミット・
公式出版物

Philatelic Summit
Papers Vol.1-5

発行：Postiljonen
(スウェーデン)



フィラテリストマガジン 1, 2号紙版



最近の情報発信10周年記念誌
広島菟郵会40周年記念誌
英国マーチン専門コレクション集
等



年刊郵趣雑誌
Stampedia
Philatelic Journal
2011-2013